■ 困ったときは（サポートのご案内）

ホームページで調べる

サイバーショットの最新サポート情報
（製品に関するQ&A、パソコンとの接続方法、使用可能なメモリーカードなど）
http://www.sony.co.jp/cyber-shot/support/

サイバーショットオフィシャルWEBサイト
http://www.sony.co.jp/cyber-shot/
サイバーショットの最新情報、撮影テクニック、アクセサリーなどに関する情報を掲載しています。英語の取扱説明書のダウンロードもできます。
(English manual download service is available.)

ソフトウェアのサポート情報
http://www.sony.co.jp/support-disoft/

電話で問い合わせる（ソニーの相談窓口）

●使い方相談窓口
フリーダイヤル……0120-333-020
携帯・PHS・一部のIP電話……0466-31-2511
最初のガイダンスが流れている間に下記番号＋「#」を押してください。
本機や付属品：「401」
ソフトウェア「PlayMemories Home」：「404」
受付時間：月～金 9:00 ～ 18:00　土・日・祝日 9:00 ～ 17:00

●修理相談窓口
REPAIR
フリーダイヤル……0120-222-330
携帯・PHS・一部のIP電話……0466-31-2531
最初のガイダンスが流れている間に「401」+「#」を押してください。
受付時間：月～金 9:00 ～ 20:00　土・日・祝日 9:00 ～ 17:00
ホームページ　http://www.sony.co.jp/di-repair/
FAX（共通）：0120-333-389

ソニー株式会社　〒108-0075　東京都港区港南1-7-1　http://www.sony.co.jp/

この説明書は、古紙70%以上の再生紙と、VOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。

DSC-RX1

SONY

4-443-124-**03**(1)

デジタル スチルカメラ

取扱説明書

Cyber-shot

⚠警告

電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

DSC-RX1

⚠警告 安全のために

→ *213 ～ 216ページも あわせてお読みください。*

誤った使いかたをしたときに生じる**感電や傷害など人への危害**、また**火災などの財産への損害**を未然に防止するため、次のことを必ずお守りください。

「安全のために」の注意事項を守る

定期的に点検する

1年に1度は、電源プラグ部とコンセントの間にほこりがたまっていないか、電源コードに傷がないか、故障したまま使用していないか、などを点検してください。

故障したら使わない

カメラやACアダプター、バッテリーチャージャーなどの動作がおかしくなったり、破損していることに気がついたら、すぐにソニーの相談窓口へご相談ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら煙が出たら → **❶ 電源を切る**
❷ 電池をはずす
❸ ソニーの相談窓口に連絡する

裏表紙に**ソニーの相談窓口の連絡先**があります。

⚠危険 万一、電池の液漏れが起きたら

❶ すぐに火気から遠ざけてください。漏れた液や気体に引火して発火、破裂の恐れがあります。

❷ 液が目に入った場合は、こすらず、すぐに水道水などきれいな水で充分に洗ったあと、医師の治療を受けてください。

❸ 液を口に入れたり、なめた場合は、すぐに水道水で口を洗浄し、医師に相談してください。

❹ 液が身体や衣服についたときは、水でよく洗い流してください。

警告表示の意味

この取扱説明書や製品では、次のような表示をしています。

⚠危険

この表示のある事項を守らないと、極めて危険な状況が起こり、その結果大けがや死亡にいたる危害が発生します。

⚠警告

この表示のある事項を守らないと、思わぬ危険な状況が起こり、その結果大けがや死亡にいたる危害が発生することがあります。

⚠注意

この表示のある事項を守らないと、思わぬ危険な状況が起こり、けがや財産に損害を与えることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

ぬれ手禁止

行為を指示する記号

プラグをコンセントから抜く

指示

電池について

安全のためにの文中の「電池」とは、「バッテリーパック」も含みます。

目次

はじめに

機能一覧

準備する

基本撮影/再生

撮影モードを変える

画面の表示を変える

ピントを合わせる

明るさを調整する

ドライブ機能を使う

応用撮影

動画撮影の設定

再生機能を使う

カメラをカスタマイズする

パソコンで見る

困ったときは/本機について

索引......217

機能別目次

ここでは、撮影でよく使う機能や、本機の特徴的な機能をピックアップして紹介します。
詳細は、(　)内のページをご覧ください。

よく使う撮影機能

露出補正(89)

露出を補正して、画像全体の明るさを補正します。
本機では、撮影モード「M」でも、ISOがオートなら露出補正が可能です。

ISO感度(102) /マルチショットノイズリダクション(103)

明るさに対する感度を設定します。
ISO50 ～ 25600の範囲で調整可能です。
ISO AUTO(マルチショットノイズリダクション)にすると、最大ISO感度よりも感度を上げられます。

ホワイトバランス(112)

色合いの調整を行います。
光源に適した色合いにしたり、色温度・カラーフィルターの組み合わせによる微調整も可能です。

ドライブモード(93)

1枚撮影、連写、ブラケット撮影などの目的に合わせて撮影方法を変えられます。

本機の特徴的な機能

マクロモード(52)
花や料理などに近づいて撮るときに適しています。

DRO/オートHDR（104）
Dレンジオプティマイザーでは、被写体や背景の明暗の差を細かな領域に分けて分析し、最適な明るさと階調の画像にします。
オートHDRでは、露出の異なる3枚の画像を撮影し、画像を合成することにより階調豊かな画像にします。

クリエイティブスタイル(109)
画像の仕上がりを13種類の画像スタイルから選べます。
選んだスタイルをベースにして、露出補正などの変更も可能です。

手持ち夜景(61)
三脚を使わずにノイズが少ない夜景を撮影します。

マニュアル動画(136)
P、A、S、Mモードでは動画撮影中も露出を自由に調整できます。

本機の操作方法/カスタマイズ

表示情報(74)
コントロールホイールのDISPを押すことで、表示方法を変えられます。

カスタマイズ(156)
本機にはお好みの機能を割り当てられるC（カスタム）ボタンがあります。また、AELボタンなどにも、お好みの機能を割り当てられます。

お使いになる前に必ずお読みください

表示言語について

本機では日本語のみに対応しています。その他の言語には変更できません。

本機搭載の機能について

- 本機は1080 60i対応機です。
- 本機は1080 60pの動画に対応しています。従来の標準的な記録モードがインターレースで記録するのと異なり、1080 60pではプログレッシブで記録します。これにより解像度が増え、滑らかでよりリアルな映像を撮影することができます。

録画・再生に際してのご注意

- メモリーカードの動作を安定させるために、メモリーカードを本機ではじめてお使いになる場合には、まず、本機でフォーマットすることをおすすめします。
  フォーマットすると、メモリーカードに記録されているすべてのデータは消去され、元に戻すことはできません。大切なデータはパソコンなどに保存しておいてください。
- 長時間、画像の撮影・消去を繰り返しているとメモリーカード内のファイルが断片化（フラグメンテーション）して、動画記録が途中で停止してしまう場合があります。このような場合は、パソコンなどに画像を保存したあと、[フォーマット]（161ページ）を行ってください。
- 必ず事前にためし撮りをして、正常に記録されていることを確認してください。
- 本機は防じん、防滴、防水仕様ではありません。「使用上のご注意」もご覧ください（195ページ）。
- 本機をぬらさないでください。水滴が内部に入り込むと、故障の原因になるだけでなく、修理できなくなることもあります。
- 日光および強い光に向けて本機を使用しないでください。故障の原因になります。
- 強力な電波を出すところや放射線のある場所で使わないでください。正しく撮影・再生ができないことがあります。
- 砂やほこりの舞っている場所でのご使用は故障の原因になります。
- 結露が起きたときは、結露を取り除いてからお使いください（195ページ）。
- 本機に振動や衝撃を与えないでください。誤作動したり、画像が記録できなくなるだけでなく、記録メディアが使えなくなったり、撮影済みの画像データが壊れることがあります。
- フラッシュの表面の汚れは取り除いてください。発光による熱でフラッシュ表面の汚れが発煙したり、焦げる場合があります。汚れ・ゴミがある場合は柔らかい布等で清掃してください。

カール ツァイスレンズ搭載

本機はカール ツァイスレンズを搭載し、シャープで、コントラストが良い画像を作り出すことを可能にしました。
本機用に生産されたレンズは、ドイツ カール ツァイスの品質基準に基づき、カール ツァイスによって認定された品質保証システムにより生産されています。

フラッシュについて

- フラッシュ部を持ったり、無理な力を加えないでください。
- 開いたフラッシュ部に水滴や砂埃が入ると故障の原因になります。

撮影内容の補償はできません

万一、カメラやメモリーカードなどの不具合により撮影や再生がされなかった場合、画像などの記録内容の補償については、ご容赦ください。

バックアップのおすすめ

万一の誤消去や破損にそなえ、必ず予備のデータコピー（バックアップ）をおとりください。

液晶モニター、およびレンズ、イメージセンサーについてのご注意

- 液晶モニターは、有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現れたり、白や赤、青、緑の点が消えないことがあります。これは故障ではありません。これらの点は記録されません。
- 長時間、太陽に向けて撮影または放置しないでください。カメラの内部が故障することがあります。また、太陽光が近くの物に結像すると、火災の原因となります。
- 寒いところで使うと、画像が尾を引いて見えることがありますが、故障ではありません。また、初めは画面が通常よりも少し暗くなります。本機内部の温度が上がってくると、通常の明るさになります。
- 撮影する前に確認する画像は、実際の撮影結果と異なることがあります。

長時間撮影についてのご注意

- 長時間、連続して撮影しつづけると、本機の温度が上昇します。一定以上の温度になると、[!] マークが表示され自動的に本機の電源が切れます。電源が切れた場合は、本機の温度を充分下げるために、10分以上そのまま放置してください。
- 気温の高い場所では本機の温度上昇が早くなります。
- 本機の温度が上昇すると、画質が低下する場合があります。温度が下がるのを待って撮影されることをおすすめします。
- 本機を連続して使用した場合、本体やバッテリーの温度が高くなりますが、故障ではありません。

画像の互換性について

- 本機は、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）にて制定された統一規格 “Design rule for Camera File system”（DCF）に対応しています。
- 本機で撮影した画像の他機での再生、他機で撮影/修正した画像の本機での再生は保証いたしません。

AVCHD動画のパソコンへの取り込みについて

AVCHD動画をパソコンに取り込むときは、Windowsの場合は本機に搭載されているソフトウェア「PlayMemories Home」を、Macの場合はMacにバンドルされているソフトウェア「iMovie」を使用してください。

他機での動画再生に際してのご注意

- 本機は、AVCHD方式の記録にMPEG-4 AVC/H.264のHigh Profileを採用しております。このため、本機でAVCHD方式で記録した動画は次の機器では再生できません。
  - High Profileに対応していない他のAVCHD規格対応機器
  - AVCHD規格非対応の機器

  また、本機は、MP4方式の記録にMPEG-4 AVC/H.264のMain Profileを採用しております。このため、本機でMP4方式で記録した動画はMPEG-4 AVC/H.264の対応機器以外では再生できません。
- ハイビジョン画質(HD)で記録したディスクはAVCHD規格対応機器でのみ、再生できます。
  DVDプレーヤーやDVDレコーダーはAVCHD規格に非対応のため、ハイビジョン画質(HD)で記録したディスクを再生できません。また、これらの機器にAVCHD規格で記録したハイビジョン画質(HD)のディスクを入れた場合、ディスクの取り出しができなくなる可能性があります。
- 1080 60pの動画は、対応機器以外では再生できません。

著作権について

あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などの中には、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

本書中の画像について

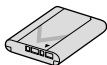
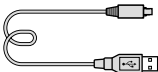
画像の例として本書に掲載している写真はイメージです。本機を使って撮影したものではありません。

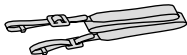
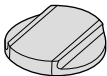
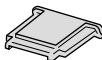
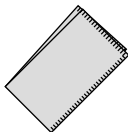
本書中のデータについて

性能、仕様に関するデータは特に記載のある場合を除き、すべて常温(25℃)下でのものです。バッテリーについては、充電ランプ消灯後、約1時間充電した状態のバッテリーを使用したときのものです。

付属品を確認する

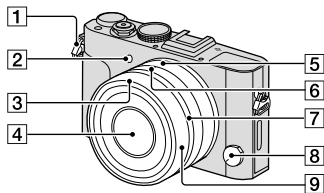
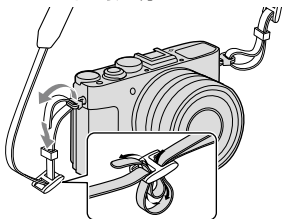
万一、不足の場合はお買い上げ店にご相談ください。
（　）内の数字は個数です。

- カメラ(1)
- リチャージャブルバッテリーパックNP-BX1 (1)

- マイクロUSBケーブル (1)

- ACアダプター AC-UD11 (1)

- ショルダーストラップ (1)

- レンズキャップ (1)

- シューキャップ (1) (本機に装着)

- クリーニングクロス (1)

- 取扱説明書 (1)(本書)
- 保証書 (1)

各部のなまえ

( )の数字は、参照ページです。

本体前面

1 ショルダーストラップ取り付け部
- ストラップの両方の先端をそれぞれ取り付けます。

2 AF補助光発光部(84) /セルフタイマーランプ(95)

3 レンズフード指標

4 レンズ

5 絞りリング(66)

6 絞り指標/
マクロ切り換え指標

7 マクロ切り換えリング(52)

8 フォーカスモードダイヤル(78)

9 フォーカスリング(84)

本体後面/本体側面

1 ⚡(フラッシュポップアップ)スイッチ(98)
2 明るさセンサー(157)
3 充電ランプ(43)
4 マイクロUSB端子(171)
5 HDMIマイクロ端子(152)
6 🎤(マイク)端子
   - 外部マイクを接続すると自動的に内蔵マイクから外部マイクに切り替わります。
     プラグインパワー対応の外部マイクを使うと、マイクの電源は本機から供給されます。
7 液晶モニター(21、74、145)
8 ▶(再生)ボタン(55)
9 コントロールダイヤル(26、55)
10 MOVIE(ムービー)(動画)ボタン(36、54)
11 撮影時:AEL(AEロック)ボタン(35、70、91、155)
   再生時:🔍(拡大)ボタン(140)
12 撮影時:Fn(ファンクション)ボタン(26、27)
   再生時:▦(一覧表示)ボタン(141)
13 コントロールホイール(20)
14 🗑(削除)ボタン(56)
15 MENU(メニュー)ボタン(30)

はじめに

本体上面

1 シャッターボタン(52)

2 露出補正ダイヤル(89)

3 C（カスタム)ボタン(35、126、156)

4 電源スイッチ(49)

5 モードダイヤル(57)

6 マルチインターフェースシュー *

7 ⊖ イメージセンサー位置表示(80)

8 フラッシュ **（98)

9 マイク***（139)

*マルチインターフェースシュー対応アクセサリーについて詳しくは、専用サポートサイトでご確認ください。
http://www.sony.co.jp/cyber-shot/support/

アクセサリーシュー対応のアクセサリーも使用できます。他社のアクセサリーを取り付けた場合の動作は保証できません。

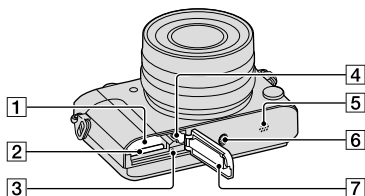
Multi Interface Shoe

Accessory Shoe

ファインダーアクセサリーFDA-EV1MK（別売)装着時のみ、本機のファインダー用機能に対応しています。

**ϟ(フラッシュポップアップ)スイッチをスライドさせるとフラッシュが飛び出しますのでご注意ください。使わないときはフラッシュ発光部を閉じてください。その際、指などを挟まないようにご注意ください。

***動画撮影時は手でふさがないようにしてください。ノイズや音量低下の原因になります。

本体底面

1 バッテリー挿入口(42)

2 メモリーカード挿入口(47)

3 アクセスランプ(48)

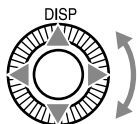
4 ロックレバー

5 スピーカー

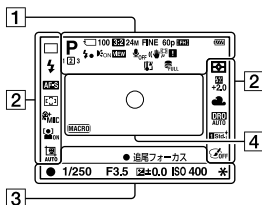
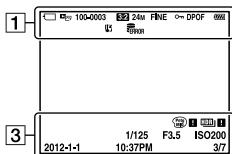
6 三脚用ネジ穴

- ネジの長さが5.5mm未満の三脚を使う。5.5mm以上の三脚ではしっかり固定できず、本機を傷つけることがあります。

7 バッテリー /メモリーカードカバー (42、47)

コントロールホイールの使いかた

- コントロールホイールの上ボタンには、[画面表示切換(DISP)]の機能が割り当てられています(74ページ)。また、左右ボタン、下ボタンにはお好みの機能を割り当てられます(35ページ)。
- コントロールホイールを回したり上下左右を押したりすると、選択枠を動かすことができます。本書ではコントロールホイールの上下左右を押す動作を▲/▼/◀/▶で表現しています。

画面表示一覧

液晶モニター撮影用*

再生時（基本情報画面）

*外付ファインダー（別売）に適したファインダー撮影用の表示も可能です。

1

表示	意味
P P* A S M	撮影モード（57）
1 2 3	登録番号（165）
	シーン認識マーク（59）
	重ね合わせ設定表示
ON	AF補助光

表示	意味
OFF	メモリーカード（47、199）/アップロード（163）
100	撮影可能枚数
3:2 16:9	静止画の画像横縦比（118）
24M 10M 4.6M 20M 8.7M 3.9M WIDE STD	静止画の画像サイズ（116）
RAW RAW+J X.FINE FINE STD	静止画の画質（118）
60p 60i 24p	動画のフレームレート（138）

表示	意味
FX FH PS 1080 VGA	動画の記録設定（138）
	バッテリー容量（45）
	フラッシュ充電表示（98）
VIEW	設定効果反映Off（77）
OFF	動画音声記録オフ（139）
	風音低減オン（139）
OFF	手ブレ補正/手ブレ警告（51）
	温度上昇警告（13）
FULL ERROR	管理ファイルフル警告（193）/管理ファイルエラー警告（193）
MP4 AVCHD	ビューモード（140）
100-0003	フォルダー番号ーファイル番号（176）
	プロテクト（147）
DPOF	DPOF（プリント）指定（148）
	バッテリー残量警告（45）

2

表示	意味
10 2 BRK C 0.3EV BRK S 0.3EV BRK WB Lo BRK DRO Lo	ドライブモード（93）

表示	意味
AUTO SLOW REAR WL	フラッシュモード（98）/赤目軽減（33）
AF-S AF-C DMF MF	フォーカスモード（78）
	オートフォーカスエリア（81）
HI MID LO OFF	美肌効果
OFF ON ON ON ON	顔検出（120）/スマイルシャッター（124）
	測光モード（92）
AWB -1 0 +1 +2 WB 7500K A5 G5	ホワイトバランス（オート、プリセット、カスタム、色温度、カラーフィルター）（112）
D-R OFF DRO AUTO HDR AUTO	Dレンジオプティマイザー（104）/オートHDR（105）
Std. Vivid Ntrl Clear Deep Light Port. Land. Sunset Night Autm B/W Sepia +3 +3 +3	クリエイティブスタイル（109）/コントラスト、彩度、シャープネス
Toy Norm Pop Pos Pos Rtro SftH key Part R Part G Part B Part Y HC BW Soft Mid Pntg Mid Rich BW Mini AUTO WtrC Ilus Mid OFF	ピクチャーエフェクト（107）
AUTO OFF	オートポートレートフレーミング（122）

表示	意味
露出補正/メーターアイコン	露出補正（89）/ メータードマニュアル（70）
調光補正アイコン	調光補正（101）
-3··2··1··0··1··2··3+	測光インジケーター（91）（ファインダー表示のみ）
[☻]	スマイル検出感度インジケーター（124）

3

表示	意味
録画 0:12	動画の記録時間（分：秒）
●	フォーカス（52、79）
1/250	シャッタースピード（67）
F3.5	絞り値（66）
ISO400	ISO感度（102）
✱	AEロック（91）
HDR !	オートHDR画像警告（105）
Pntg MID ! Rich BW !	ピクチャーエフェクトエラー（108）
ヒストグラムアイコン	ヒストグラム（76）
2012 - 1 - 1 10:37AM	撮影日時

表示	意味
3/7	画像番号/ビューモード内画像枚数
●追尾フォーカス	追尾フォーカス（82）

4

表示	意味
○	スポット測光サークル（92）
水準器アイコン	水準器（75）
スマートテレコンバーターアイコン	スマートテレコンバーター（126）
sQ cQ dQ	スマートズーム/全画素超解像ズーム/デジタルズーム（127、128）
1" 1/30 1/250 1/8000	シャッタースピードインジケーター（74）
F2.0 2.8 5.6 11 22	絞りインジケーター（74）
MACRO	マクロ

はじめに

ボタン/ダイヤルで選ぶ機能

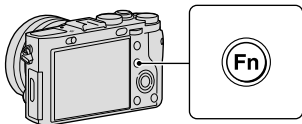
下記のボタンを使って、それぞれの機能を設定、または操作できます。各ボタンの配置は「各部のなまえ」をご覧ください(16ページ)。

モードダイヤル(57)	撮影モードを切り換える。
MENUボタン(30)	メニュー画面を表示する。
MOVIEボタン(36、54)	動画を撮影する。
AELボタン(91)/ ボタン(140)	画面全体の露出を固定する/再生時に画像を拡大する。
Fnボタン(26、27)/ ボタン(141)	Fnボタンを使って設定する機能の設定画面を表示する。ファインダーモード時は、クイックナビ画面に入る/画像を一覧表示する。
コントロールホイールのDISP(74、145)	液晶モニターに表示される撮影情報を切り換える。
ボタン(55)	画像を再生する。
ボタン(56)	カメラ内ガイドを表示する/画像を削除する。
C(カスタム)ボタン(35、126、156)	よく使う機能のボタンにする。
フォーカスモードダイヤル(78)	被写体の動きに応じたピント合わせの方法に設定する。
露出補正ダイヤル(89)	露出補正範囲を設定する。
絞りリング(66)	絞り値(F値)を手動で設定する。
マクロ切り換えリング(52)	より近距離で被写体を撮影したい場合にモードを変更する。

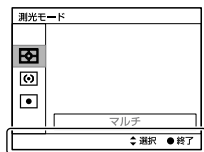
フォーカスリング(84)	ピントの合う距離を手動で設定する。
⚡(フラッシュポップアップ)スイッチ(98)	フラッシュ発光部を上げる。

Fn（ファンクション）ボタンで選ぶ

撮影時に使用頻度が高い設定、機能を実行します。

1 Fnボタンを押す。

2 コントロールホイールの▲/▼/◀/▶で設定したい項目を選び、中央の●で決定する。

設定画面が表示される。

3 操作ガイドにしたがって希望の機能を選び、決定する。

操作ガイド

撮影情報画面のまま設定するには

手順2で、中央の●を押さずにコントロールホイールを回すと、撮影情報画面のまま機能を設定できます。一部の機能は、コントロールダイヤルで微調整値の設定もできます。

Fn（ファンクション）ボタンで選ぶ機能

Fnボタンで設定する機能は以下の通りです。

ドライブモード（93）	連続撮影などの撮影方法を設定する。 （1枚撮影/連続撮影/速度優先連続撮影/セルフタイマー /連続ブラケット/1枚ブラケット/ホワイトバランスブラケット/DROブラケット）
フラッシュモード（98）	フラッシュの発光方式を設定する。 （発光禁止/自動発光/強制発光/スローシンクロ/後幕シンクロ/ワイヤレス）
ISO感度（102）	明るさに対する感度を設定する。数値が大きいほど、シャッタースピードをより速くすることができる。 （マルチショットノイズリダクション/ISO AUTO ～ 102400）
測光モード（92）	明るさを測る方法を選ぶ。 （マルチ/中央重点/スポット）
オートフォーカスエリア（81）	ピント合わせの位置を選ぶ。 （マルチ/中央重点/フレキシブルスポット）
ホワイトバランス（112）	画像の色あいを調整する。 （オートホワイトバランス/太陽光/日陰/曇天/電球/蛍光灯: 温白色/蛍光灯: 白色/蛍光灯: 昼白色/蛍光灯: 昼光色/フラッシュ /色温度・カラーフィルター /カスタム1 ～ 3/カスタムセット）
DRO/オートHDR（104）	明るさ、コントラストを自動補正する。 （切/Dレンジオプティマイザー /オートHDR）

クリエイティブスタイル（109）	お好みの画像の仕上がりを選ぶ。 （スタンダード/ビビッド/ニュートラル/クリア/ディープ/ライト/ポートレート/風景/夕景/夜景/紅葉/白黒/セピア/スタイルボックス1 ～ 6）
調光補正（101）	フラッシュの発光量を調整する。 （＋3.0EV ～ 0 ～－3.0EV）
顔検出/スマイルシャッター（120、124）	人の顔を自動でとらえ、ピントや露出を最適にする。/笑顔をとらえるたびに、自動撮影する。 （顔検出 切/顔検出 入（登録顔優先）/顔検出 入/スマイルシャッター）
シーンセレクション（59）	撮影状況に合わせて用意されたモードを選ぶ。 （ポートレート/スポーツ/風景/夕景/夜景/手持ち夜景/夜景ポートレート）
動画（136）	撮りたい被写体や効果に合わせて、動画の露出モードを選んで撮影する。 （P/A/S/M）
ピクチャーエフェクト（107）	好みの効果を選んで、より印象的な表現の画像を撮影できる。 （切/トイカメラ/ポップカラー /ポスタリゼーション/レトロフォト/ソフトハイキー /パートカラー /ハイコントラストモノクロ/ソフトフォーカス/絵画調HDR/リッチトーンモノクロ/ミニチュア/水彩画調/イラスト調）
オートポートレートフレーミング（122）	人物撮影時にシーンを分析して、印象の異なる構図で画像を保存する。 （切/オート）

オートモード(58)	オート撮影の方法を選ぶ。 （おまかせオート/プレミアムおまかせオート）
美肌効果	顔検出時、被写体の肌をなめらかに撮影する効果を設定します。 (切/低/中/高)
画質*（118)	静止画の画質を設定する。 （RAW/RAW+JPEG/ エクストラファイン/ファイン/ スタンダード）
横縦比*（118)	静止画の横縦比を選択する。 (3:2/16:9)
画像サイズ*（116)	画像を記録するときの大きさを設定する。 (L/M/S)

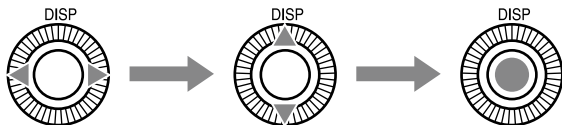
* クイックナビ時のみ選択できます。

MENU（メニュー）ボタンで選ぶ設定

撮影、再生、操作方法などカメラ全体に関する基本設定を変更したり、機能の実行を行えます。
MENUボタンを押して、コントロールホイールの▲/▼/◀/▶で選び、コントロールホイール中央の●を押します。

メニューのページを選ぶ　　メニューの項目を選ぶ

静止画撮影メニュー

1　2　3

画像サイズ（116）	静止画のサイズを選択する。 （L: 24M/M: 10M/S: 4.6M（3:2のとき） L: 20M/M: 8.7M/S: 3.9M（16:9のとき））
横縦比（118）	静止画の横縦比を選択する。 （3:2/16:9）
画質（118）	静止画の画質を設定する。 （RAW/RAW+JPEG/エクストラファイン/ファイン/スタンダード）
パノラマ：画像サイズ（117）	パノラマ画像のサイズを選択する。 （標準/ワイド）
パノラマ：撮影方向（64）	パノラマの撮影方向を設定する。 （右/左/上/下）

1 2 3

全画素超解像ズーム（127）*	デジタルズームよりも高画質でズームする。 （入/切）
デジタルズーム（127）*	全画素超解像ズーム以上の倍率でズームできる。 （入/切）
長秒時ノイズリダクション（130）	シャッタースピードを1秒以上にした場合のノイズ軽減処理を設定する。 （入/切）
高感度ノイズリダクション（130）	高感度撮影した場合のノイズ軽減処理を設定する。 （標準/弱/切）
AF補助光（84）	暗所でピントを合わせるための補助光を発光する。 （オート/切）

* ［スマートテレコンバーター /ズーム］（126ページ）を［ズーム］にした場合に機能選択が有効になります。

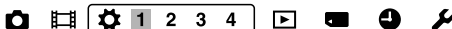
1 2 3

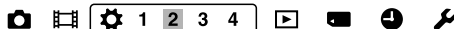
色空間（132）	再現できる色の範囲を変更する。 （sRGB/AdobeRGB）
シャッター半押しAEL	シャッターボタンを半押ししたときに、露出決定を行うかどうかを設定する。ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効。 （入/切）
登録（165）	よく使うモードや数値の組み合わせを登録して、モードダイヤルで簡単に呼び出す。 （1/2/3）

動画撮影メニュー

記録方式（137）	動画を記録するときの記録方式を設定する。 （AVCHD/MP4）
記録設定（138）	動画の画質、サイズを選択する。 （60i 24M(FX)/60i 17M(FH)/ 60p 28M(PS)/24p 24M(FX)/ 24p 17M(FH)/1440×1080 12M/ VGA 3M）
手ブレ補正（51）	手ブレ補正の設定をする。 （入/切）
オートスローシャッター（136）	動画撮影時、被写体が暗いときに自動でシャッタースピードを遅くするかどうかを設定する。 （入/切）
音声記録（139）	動画撮影時、音声記録を行うかどうかを設定する。 （入/切）
風音低減（139）	動画撮影時、風音を低減する。 （入/切）

カスタムメニュー

■ ▭ ☼ 1 2 3 4 ▶ ▬ ● ✎

FINDER/LCD切換設定（159）	ファインダー（別売）使用時、ファインダーと液晶モニターの切り換え方法を設定する。 （オート/マニュアル）
赤目軽減発光	フラッシュ撮影時、目が赤くなるのを軽減する。 （入/切）
グリッドライン（155）	構図を合わせるための線を表示する。 （3分割/方眼/対角＋方眼/切）
オートレビュー（155）	撮影したあと、撮った画像を表示するオートレビューの設定をする。 （10秒/5秒/2秒/切）

■ ▭ ☼ 1 2 3 4 ▶ ▬ ● ✎

DISPボタン（背面モニター）（77）	コントロールホイールのDISPを押して液晶モニターに表示する情報の種別を設定する。 （グラフィック表示/全情報表示/ 情報表示なし/ 水準器/ヒストグラム/ファインダー撮影用）
DISPボタン（ファインダー）（77）	ファインダー（別売）使用時、コントロールホイールのDISPを押してファインダーに表示する情報の種別を設定する。 （グラフィック表示/全情報表示/情報表示なし/水準器/ヒストグラム）

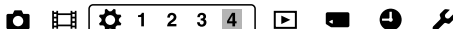
ピーキングレベル（85）＊	マニュアルフォーカス撮影のときに、ピントが合った部分の輪郭を指定された色で強調表示する設定をする。 （高/中/低/切）
ピーキング色（85）	輪郭を強調表示するピーキング表示の色を設定する。 （レッド/イエロー /ホワイト）
MFアシスト（86）	手動ピント合わせ時に画像を拡大表示する。 （入/切）
ピント拡大時間	拡大表示する時間を設定する。 （2秒/5秒/無制限）
ライブビュー表示（77）	画面の見えかたに、露出補正などの設定値を反映するかどうかを設定する。 （設定効果反映On/設定効果反映Off）

＊ 拡大表示を使用している際に有効になります。［ピント拡大］（86ページ）機能を割り当てる、もしくは［MFアシスト］（86ページ）を有効にした上でご使用ください。

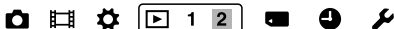
Cボタンの機能（156）	C（カスタム）ボタンにお好みの機能を割り当てる。 （ドライブモード/フラッシュモード オートフォーカスエリア/美肌効果/ 顔検出/スマイルシャッター / オートポートレートフレーミング/ ISO感度/測光モード/調光補正/ ホワイトバランス/ DRO/オートHDR / クリエイティブスタイル/ ピクチャーエフェクト/画像サイズ/ 横縦比/画質/押す間AEL/再押しAEL/ 押す間スポットAEL/再押しスポットAEL/ 押す間AF/MFコントロール / 再押しAF/MFコントロール / スマートテレコンバーター /ズーム / ピント拡大/登録/モニターミュート/ 未設定）
AELボタンの機能（155）	AELボタンにお好みの機能を割り当てる。割り当てられる機能は、[Cボタンの機能]と同じです。
左ボタンの機能*	コントロールホイールの左ボタンにお好みの機能を割り当てる。割り当てられる機能は、[Cボタンの機能]と同じです。
右ボタンの機能*	コントロールホイールの右ボタンにお好みの機能を割り当てる。割り当てられる機能は、[Cボタンの機能]と同じです。
下ボタンの機能*	コントロールホイールの下ボタンにお好みの機能を割り当てる。割り当てられる機能は、[Cボタンの機能]と同じです。

スマートテレコンバーター /ズーム（126）	ボタンに[スマートテレコンバーター /ズーム]を割り当てたときに、使用する機能を選択する。 （スマートテレコンバーター /ズーム）
MOVIE（動画）ボタン	MOVIEボタンが有効になるモードを設定する。 （常に有効/動画モードのみ有効）

* [押す間AEL]、[押す間スポットAEL]、[押す間AF/MFコントロール]は割り当てられません。

1 2 3 **4**

露出補正の影響（90）	露出補正値をフラッシュの調光に反映するかどうかを設定する。 （定常光+フラッシュ /定常光のみ）
ブラケット順序	露出ブラケット、ホワイトバランスブラケットの撮影順序を設定する。 （0 → − → +/− → 0 → +）
レンズ補正（周辺光量）（160）	レンズに起因する画面周辺が暗くなる現象を補正する。 （オート/切）
レンズ補正（倍率色収差）（160）	レンズに起因する画面周辺部の色のずれを軽減する。 （オート/切）
レンズ補正（歪曲収差）（160）	レンズに起因する画面の歪みを補正する。 （オート/切）
顔優先追尾（83）	追尾フォーカス時に人の顔を優先して追尾するかどうかを設定する。 （入/切）
個人顔登録（121）	優先してピントを合わせる人物の登録・編集を行う。 （新規登録/優先順序変更/削除/全て削除）

再生メニュー

静止画/動画 切換（140）	静止画と動画の表示を切り換える。 （フォルダービュー（静止画）/ フォルダービュー（MP4）/ AVCHDビュー）
削除（150）	画像を削除する。 （画像選択/フォルダー内全て/ AVCHDビュー動画全て）
スライドショー（143）	画像を連続再生する。 （リピート/間隔設定/画像種別）
一覧表示（141）	画像を一覧表示する。 （4枚/9枚）
回転（142）	画像を左に回転する。 （0°/ 90°/ 180°/ 270°）
プロテクト（147）	画像を誤って消さないように保護（プロテクト）する。 （画像選択/静止画全て解除/ 動画（MP4）全て解除/ AVCHDビュー動画全て解除）
プリント指定（148）	メモリーカードの画像にプリント予約マークを付ける。 （DPOF指定/日付プリント）

ピクチャーエフェクト	画像に効果をつけ、別ファイルで保存する。 （水彩画調/イラスト調）
音量設定	動画再生の音量を設定する。
縦記録画像の再生（144）	縦記録画像の再生方法を設定する。 （縦向き/横向き）

機能一覧

メモリーカードツールメニュー

フォーマット（161）	メモリーカードをフォーマット（初期化）する。
ファイル番号（161）	ファイル番号の付けかたを設定する。（連番/リセット）
フォルダー形式	静止画を記録するフォルダーの形式を設定する。（標準形式/日付形式）
記録フォルダー選択（162）	画像を記録するフォルダーを設定する。
フォルダー新規作成（162）	静止画と動画（MP4）を記録する新しいフォルダーを作成する。
管理ファイル修復（163）	画像の管理ファイル修復を行い、記録・再生できるようにする。
メモリーカード残量表示	現在撮影可能な動画の時間と静止画の枚数を表示する。

時計設定メニュー

日時設定（50）	時計、日付の設定をする。
エリア設定（50）	本機を使用する場所に適した時刻に設定する。

セットアップメニュー

1 2 3 4

メニュー呼び出し先	メニューの呼び出し先を変更する。リストの先頭、または最後に選んだ項目を呼び出すことができる。 （先頭/前回位置）
削除確認画面	削除の確認画面で、[削除]と[キャンセル]のどちらを選択された状態にするかを設定する。 （「削除」が先/「キャンセル」が先）
モードダイヤルガイド（58）	モードダイヤルガイド（各撮影モードの説明）の表示を設定する。 （入/切）
モニター明るさ（157）	モニターの明るさを設定する。 （オート/マニュアル/屋外晴天）
ファインダー明るさ（157）	ファインダー（別売）使用時、ファインダーの明るさを設定する。 （オート/マニュアル）

1 2 3 4

モニター表示画質（158）	モニターの表示画質を設定する。 （高画質/標準）
パワーセーブ開始時間（158）	自動的に電源が切れる時間を設定する。 （30分/5分/1分/20秒/10秒）
HDMI解像度（152）	HDMIからテレビに出力する解像度を選ぶ。 （オート/1080p/1080i）

HDMI機器制御（154）	ブラビアリンク対応のテレビと接続した場合、テレビのリモコンで操作するかどうか設定する。 （入/切）

1 2 **3** 4

アップロード設定*（163）	市販のEye-Fiカードを使うときのアップロード通信設定をする。 （入/切）
USB接続（174）	接続するパソコンやUSB機器に合わせて設定する。 （オート/マスストレージ/MTP）
USB LUN設定（175）	本機をUSBでパソコンなどと接続するときのモードを設定する。 （マルチ/シングル）
USB給電	USB接続して給電するかどうか設定する。 （入/切）
電子音	本機の操作時に鳴る音を設定する。 （入/切）

* Eye-Fiカード（別売）挿入時のみ表示されます。

1 2 3 **4**

バージョン表示（167）	本機のソフトウェアのバージョンを表示する。
デモモード	動画のデモンストレーションの入/切を設定する。 （入/切）
設定リセット（166）	設定を初期値に戻す。 （設定値リセット/撮影モードリセット/カスタム設定リセット）

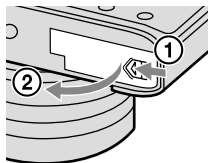
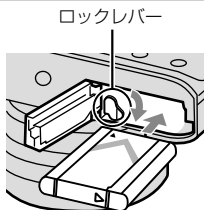
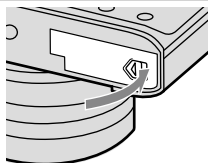
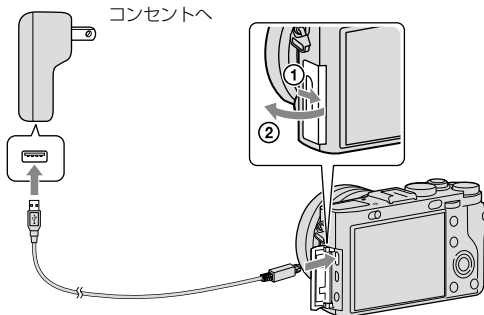
カメラ内ガイド

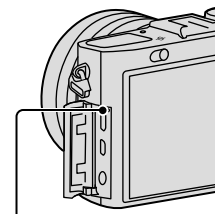
🗑(削除)ボタンは、画像削除の他にカメラ内ガイド機能も持っています。Fn画面やメニュー画面を表示中にボタンを押すと、選んだ機能、設定に関する説明を表示します。

🗑(削除)ボタン

バッテリーを充電する

初めてお使いになるときは、バッテリーを充電してください。
充電したバッテリーは、使わなくても少しずつ放電しています。撮影機会を逃さないためにも、ご使用前に充電してください。

1 カバーのオープンレバーをスライドして、カバーを開ける。

2 バッテリーの端でロックレバーを押しながら入れ、バッテリーがロックされるまで押し込む。

3 カバーを閉じる。

4 本機とACアダプター（付属）をマイクロUSBケーブル（付属）でつなぎ、ACアダプターをコンセントに取り付ける。

カメラの充電ランプがオレンジ色に点灯し、充電が始まる。

- 充電中は本機の電源を切った状態にしておいてください。
- 残量があるバッテリーも充電できます。
- 充電ランプが点滅し充電が完了しなかった場合は、一度バッテリーを取りはずし、再度装着してください。

充電ランプ
点灯：充電中
消灯：充電終了
点滅：充電エラー、または温度が適切な範囲にないための充電一時待機

ご注意

- ACアダプターをコンセントにつないでもカメラの充電ランプが点滅する場合は、充電に適した温度範囲外にあるため一時待機状態になっています。充電に適した温度範囲に戻れば充電可能です。バッテリーの充電は周囲の温度が10℃～ 30℃の環境で行ってください。
- バッテリーの端子が汚れていると正しく充電できない場合があります。バッテリーの端子を乾いた布または綿棒などで拭いてください。
- ACアダプターは手近なコンセントを使用してください。本機を使用中、不具合が生じたときはすぐにコンセントからプラグを抜き、電源を遮断してください。
- 充電が終わったら、ACアダプターをコンセントから抜いてください。
- 必ずソニー製純正のバッテリー、付属のマイクロUSBケーブル、ACアダプターをお使いください。

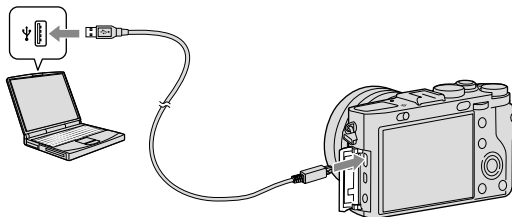
充電にかかる時間（満充電）

充電にかかる時間は、付属のACアダプターで約155分です。

ご注意

- バッテリー（付属）を使い切ってから、温度25 ℃の環境下で充電したときの時間です。使用状況や環境によっては、長くかかります。

パソコンに接続して充電する

マイクロUSBケーブルを使って、パソコンからの充電も可能です。

ご注意

- パソコンから充電するときは、以下の点にもご注意ください。
  - 電源を接続していないノートパソコンと本機を接続した場合、ノートパソコンの電池が消耗していきます。長時間充電しないでください。
  - 本機をUSB接続したままパソコンの起動、再起動、スリープモードからの復帰、終了操作を行わないでください。本体が正常に動作しなくなることがあります。これらの操作は、パソコンから本機を取りはずしてから行ってください。
  - 自作のパソコンや改造したパソコンでの充電は保証できません。

バッテリーの残量を確認する

モニター上に、バッテリー残量を表すアイコンが表示されます。

多 → なし

ご注意

- 正しい残量を表示するのに約1分かかります。
- 使用状況や環境によっては、正しく表示されません。
- 電源を入れたまま一定時間操作しないと、自動で電源が切れます(オートパワーオフ)。

バッテリーについて

バッテリーの消費や使用可能時間については、202、207ページでも詳しく説明しています。

電力を供給する

マイクロUSBケーブル(付属)では、ACアダプター(付属)と接続してコンセントから電力の供給ができます。長時間の撮影時などにバッテリー消費を抑えられます。
バッテリーが本体に入っていない場合でも、撮影・再生ができます。ただし、バッテリーが本機に入っていない場合、消費電力の高い撮影条件(ファインダー(別売)使用時や動画撮影時など)では一部の機能が制限されます。その際は、充電済みのバッテリーを本機に入れた状態でご使用ください。

バッテリーを取り出す

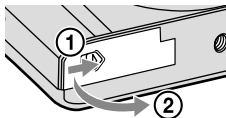
ロックレバーをずらす。バッテリーが落下しないように注意する。

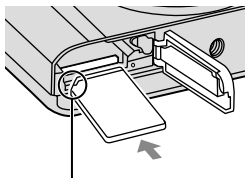
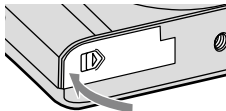
ご注意

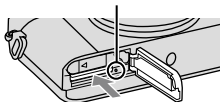
- 本機から取り出したバッテリーは、接点汚れ、ショート等を防止するため、携帯、保管時は必ずポリ袋などに入れて金属から離してください。

メモリーカード(別売)を入れる

本機で使用できるメモリーカードは、"メモリースティック デュオ"とSDカードです。詳しくは48、199 ～ 201ページをご覧ください。

1 カバーのオープンレバーをスライドして、カバーを開ける。

2 メモリーカード(別売)を入れる。

- 切り欠き部をイラストの向きにして、カチッというまで押し込みます。

切り欠きの向きに注意する

3 カバーを閉じる。

メモリーカードを取り出す

アクセスランプが消えていることを確認して、メモリーカードを押す。

ご注意

- アクセスランプ点灯中は、メモリーカード/バッテリーを取り出さないでください。データやメモリーカードが壊れることがあります。

使用できるメモリーカード

使用できるメモリーカードは以下の通りです。ただし、すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。

<table>
<tr><th>対応メモリーカード</th><th>静止画</th><th>動画</th><th>本書での表現</th></tr>
<tr><td>メモリースティック PRO デュオ</td><td>○</td><td>○（Mark2のみ）</td><td rowspan="3">メモリースティック デュオ</td></tr>
<tr><td>メモリースティック PRO-HG デュオ</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>メモリースティック デュオ</td><td>○</td><td>×</td></tr>
<tr><td>メモリースティック マイクロ（M2）</td><td>○</td><td>○（Mark2のみ）</td><td>メモリースティック マイクロ</td></tr>
<tr><td>SDメモリーカード</td><td>○</td><td>○（Class 4以上）</td><td rowspan="3">SDカード</td></tr>
<tr><td>SDHCメモリーカード</td><td>○</td><td>○（Class 4以上）</td></tr>
<tr><td>SDXCメモリーカード</td><td>○</td><td>○（Class 4以上）</td></tr>
<tr><td>microSD メモリーカード</td><td>○</td><td>○（Class 4以上）</td><td rowspan="2">microSD メモリーカード</td></tr>
<tr><td>microSDHC メモリーカード</td><td>○</td><td>○（Class 4以上）</td></tr>
</table>

- マルチメディアカードは使用できません。

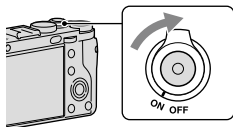
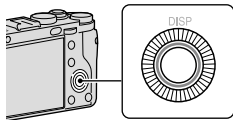
記録できる枚数/時間については、206 ～ 208ページをご覧ください。容量ごとの一覧を参考に、メモリーカードの容量を選んでください。

日付と時刻を設定する

初めて電源を入れたときや設定値リセットを行った後には、日時設定の画面が表示されます。

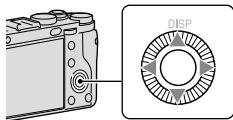
1 電源スイッチを「ON」にして、電源を入れる。

日時設定を要求する画面になる。

- 電源を切るときは、「OFF」にする。

2 液晶モニターの表示で[実行]が選ばれていることを確認し、コントロールホイール中央の●を押す。

3 [東京/ソウル]が選ばれていることを確認し、コントロールホイール中央の●を押す。

4 ◀/▶で設定する項目を選び、▲/▼で数値を設定する。

[サマータイム]：日本では、サマータイムは[OFF]にする。
[表示形式]：日付表示順を選ぶ。

- 真夜中は12:00AM、正午は12:00PMとなる。

5 4の手順を繰り返して、すべて設定し、コントロールホイール中央の●を押す。

6 [実行]が選ばれていることを確認し、コントロールホイール中央の●を押す。

日時設定を中止するには

MENUボタンを押します。

日時やエリアを合わせ直す

日時設定画面は、初めて電源を入れたときのみ自動で開きます。2回目以降はメニューで設定してください。

MENUボタン → ◷1 → [日時設定]または[エリア設定]を選ぶ(38ページ)。

MENUボタン

設定した日時の保持について

本機は日時や各種の設定を電源の入/切やバッテリーの有無に関係なく保持するために、充電式バックアップ電池を内蔵しています(195ページ)。

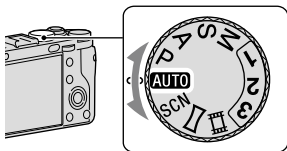
手ブレを抑えて動画を撮る

「手ブレ」とは、撮影時にカメラが動き、不鮮明な画像になる現象のことです。
本機は手ブレ補正機能を搭載しており、動画撮影時に手ブレを抑制します。機能の入/切の設定は動画撮影時に反映されます。

MENUボタン → 1 → [手ブレ補正] → 希望の設定を選ぶ。

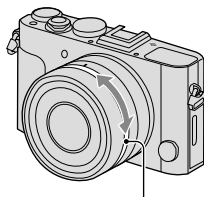
静止画を撮る

オートモードでは、本機が適切だと判断した値で設定され、被写体や環境を選ばずに、手軽に撮影できます。

1 モードダイヤルを AUTO（オートモード）にする。

2 脇を締めて構え、構図を決める。

3 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる。

ピントが合うと、●（フォーカス表示）が点灯する（79ページ）。

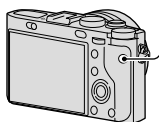
- ピントが合う最短距離はイメージセンサー位置（80ページ）から約0.3 mです。
- マクロ切り換えリングを回して「0,2m-0,35m」にすると、マクロ撮影になり、ピントが合う最短距離が約0.2 mになります。花や料理などに近づいて撮るときに適しています。

マクロ切り換えリング

4 シャッターボタンを深く押し込んで、撮影する。

- [オートポートレートフレーミング]が[オート]の場合、人物の顔を検出して撮影すると、自動的に最適な構図に切り出し(トリミング)した画像が記録される。トリミング前の画像と、トリミングされた画像の2枚が記録される(122ページ)。

動画を撮る

1 MOVIE（動画）ボタンを押して、撮影を開始する。

- すべての撮影モードから動画撮影を開始できる。
- オートフォーカスの場合は、ピントを合わせ続ける。

2 もう一度MOVIE（動画）ボタンを押して、撮影を終了する。

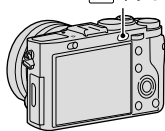
ご注意

- 動画撮影中はカメラの作動音などが記録されてしまうことがあります。[音声記録]を[切]にすると、音声が記録されないようにできます（139ページ）。
- 1回の連続撮影時間は環境温度や本機の使用状態により、撮影可能時間が短くなる場合があります。「動画の連続撮影についてのご注意」（209ページ）を確認してください。
- が表示された場合は、本機の温度が上がっています。本機の電源を切り、温度が下がるのを待ってから撮影してください。

記録方式を変更する

MENUボタン → 1 → [記録方式]を選ぶ（137ページ）。

再生する

1 ▶ボタンを押す。

2 コントロールダイヤルを左右に回して画像を選ぶ。

- 動画を再生する場合はコントロールホイール中央の●を押す。

動画再生中にできること	コントロールホイール操作
一時停止/再生	●
早送り	▶
早戻し	◀
正方向スロー再生	一時停止中にコントロールホイールを右に回す
逆方向スロー再生	一時停止中にコントロールホイールを左に回す • コマ送りになる。
音量	▼ → ▲/▼
情報表示	▲

ご注意

- 本機以外で撮影された動画ファイルは再生できない場合があります。

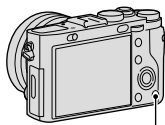
静止画と動画を切り換える

静止画を再生するには、[静止画/動画切換]を[フォルダービュー（静止画）]に、動画を再生するには、[フォルダービュー（MP4）]または[AVCHDビュー]にする必要があります。

MENUボタン → ▶ 1 → [静止画/動画切換] → 希望のモードを選ぶ。

削除する

一度削除した画像は、元に戻せません。削除してよいか、事前に確認してください。

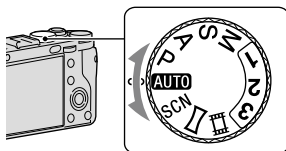
1 削除したい画像を表示して、🗑(削除)ボタンを押す。

🗑(削除)ボタン

2 コントロールホイールの▲で[削除]を選び、中央の●を押す。

ご注意

- プロテクトされている画像は削除できません。

撮影モードを変える

モードダイヤルを回して希望の撮影モードを選ぶ。

本機には、以下の撮影モードがあります。

AUTO（オートモード）（58）	本機が適切だと判断した値で設定され、被写体や環境を選ばずに、手軽に撮影できる。
P（プログラムオート）（65）	露出（シャッタースピードと絞り）は本機が自動設定するが、その他の設定は自分で調整できる。
A（絞り優先）（66）	絞りを絞りリングで手動設定する。
S（シャッタースピード優先）（67）	シャッタースピードをコントロールダイヤルで手動設定する。
M（マニュアル露出）（69）	露出（シャッタースピードと絞り）をコントロールダイヤルと絞りリングで手動設定する。
1/2/3（165）	静止画撮影メニューの［登録］であらかじめ登録した設定を選んで呼び出す。
（動画）（54、135）	動画を撮影する。Mモードでは露出（シャッタースピードと絞り）を手動設定できる。
（スイングパノラマ）（62）	画像を合成してパノラマ画像を撮影できる。
SCN（シーンセレクション）（59）	撮りたい被写体や環境に合ったモードを選ぶと、被写体に適した設定で撮影できる。

モードダイヤルガイドを表示する

モードダイヤルガイド(各撮影モードの説明)を表示すると、モードダイヤルを回したときに撮影モード内のモードを変えられます。

1 MENUボタン → 🔧1 → [モードダイヤルガイド] → [入]を選ぶ。

2 モードダイヤルで希望の撮影モードを選ぶ。

選んだ撮影モードのガイドが表示される。

3 コントロールホイール中央の●を押す。

4 希望のモードが選択できる撮影モードにしたときは、コントロールホイールの▲/▼で希望のモードを選ぶ。

AUTO オートモード

1 モードダイヤルを AUTO (オートモード)にする。

- 他のモードにしたいときは、Fnボタンを押して選び直す。

2 被写体にカメラを向け、ピントを合わせて撮影する。

i📷 (おまかせオート)	本機が適切だと判断した値で撮影する。
i📷+ (プレミアムおまかせオート)	カメラまかせでシーンとコンディションを認識し、暗いシーンなどで自動で複数枚撮影して、重ね合わせ処理できれいに撮影する。 • 重ね合わせ処理には、若干の時間がかかります。

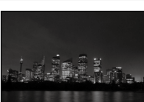
シーン認識

認識されたシーンのマークとガイドがモニターに表示される。

上段：（人物）、（赤ちゃん）、（夜景＆人物）、（夜景）、（逆光&人物）、（逆光）、（風景）、（マクロ）、（スポットライト）、（低照度）

下段：（三脚）、（動き）

シーン認識マークとガイド（ガイドは上段のみ）

SCN シーンセレクション

こんなときに適しています

●撮影状況に合わせて用意された設定で撮る。

1 モードダイヤルを SCN（シーンセレクション）にする。

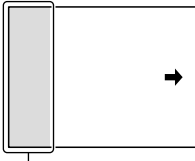
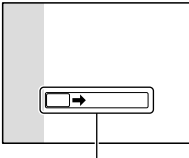
• 他のシーンにしたいときは、Fnボタンを押して選び直す。

2 ピントを合わせて撮影する。

(ポートレート)	背景をぼかして、人物を際立たせる。肌をやわらかに再現する。 • レンズに近い方の目にピントを合わせると、いきいきした印象になる。 • 逆光のときは、レンズフード（別売）をつけて撮る。 • フラッシュで目が赤くなってしまうときは、赤目軽減機能（33ページ）を使う。
(スポーツ)	高速なシャッタースピードで動く物が止まったように撮れる。シャッターボタンを押し続けると連続撮影する。 • シャッターボタンを半押ししたままシャッターチャンスを待つ。
(風景)	風景を手前から奥までくっきりと鮮やかな色で撮る。
(夕景)	夕焼けや朝焼けなどの赤を美しく撮る。
(夜景)	暗い雰囲気を損なわずに、夜景を撮る。 • シャッタースピードが遅くなるので、三脚を使う。 • 明かりの少ない全体的に暗い夜景のときは、写真がうまく仕上がらないことがある。

☽✋(手持ち夜景)	 三脚を使わずにノイズが少ない夜景を撮る。連写を行い、画像を合成して被写体ブレや手ブレ、ノイズを軽減して記録する。 • 以下の場合はノイズを軽減する効果が弱くなる。 – 動きの大きな被写体 – 主要被写体とカメラの距離が近すぎる – 空、砂浜、芝生など、似たような模様が続く被写体 – 波や滝など、常に模様が変化する被写体 • 蛍光灯など、ちらつきのある光源がある場合、ブロック状のノイズが発生することがある。
(夜景ポートレート)	 夜景を背景に手前の人物を撮る。 • シャッタースピードが遅くなるので、三脚を使う。

撮影のテクニック

- より画像の仕上がりにこだわって撮影したい場合は、モードダイヤルを「P」、「A」、「S」、「M」にしてクリエイティブスタイル（109ページ）を使用すると、露出やISOなどの機能を自分で設定して撮影できる。

ご注意

- 露出やISOなど、多くの機能がカメラまかせになり設定変更できなくなります。
- フラッシュは各シーンセレクションモードごとに自動発光/発光禁止が設定されています。この設定を変更することもできます（98、100ページ）。

スイングパノラマ

こんなときに適しています

●広大な景色や高層の建築物をそのままの迫力で撮る。

1 モードダイヤルを （スイングパノラマ）にする。

2 明るさ、ピントを合わせたい被写体にカメラを向け、シャッターボタンを半押しする。

3 シャッターを半押しした状態で、構図の端にカメラを向ける。

撮影されない部分

4 シャッターボタンを深く押し込む。

5 画面に表示されている矢印の方向に、カメラをガイドの終わりまで動かす。

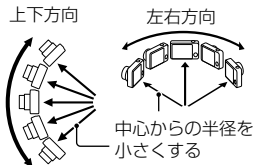
ガイド

ご注意

- 一定時間内にパノラマ撮影画角に満たなかった場合、足りない部分はグレーで記録されます。この場合はカメラを速く動かすと最後まで記録されます。
- 複数の画像を合成するため、つなぎ目がなめらかに記録できない場合があります。カメラを前後や左右に傾けないで、まっすぐに動かして撮影してください。
- 暗いシーンでは画像がブレたり、撮影ができない場合があります。
- 蛍光灯など、ちらつきのある光源がある場合、合成された画像の明るさや色合いが一定ではなくなります。
- パノラマ撮影される画角全体と、AE/AFロックしたときの画角とで、明るさや色合い、ピント位置などが極端に異なる場合、うまく撮影できないことがあります。このようなときは、AE/AFロックする場所を変えて撮影してください。
- 以下の場合はパノラマ撮影に適していません。
  - 動いている被写体
  - 主要被写体とカメラの距離が近すぎる
  - 空、砂浜、芝生など、似たような模様が続く被写体
  - 波や滝など、常に模様が変化する被写体
  - 太陽や電灯など、周囲との明るさの差が大きい被写体
- 以下の場合はパノラマ撮影が中断されることがあります。
  - カメラを動かす速度が速すぎる、または遅すぎる場合
  - ブレすぎた場合
  - 空、砂浜、芝生など、似たような模様が続く被写体を撮影する場合
- パノラマ撮影中は連続撮影となり、シャッター音が撮影終了まで鳴り続けます。
- [オートポートレートフレーミング]は使用できません。

スイングパノラマ撮影のポイント

一定の速度で円を描くように画面の矢印方向に動かしてください。パノラマ撮影は、止まっている被写体の撮影に適しています。

- シャッターボタンを半押しして、ピントや露出をロックしてから、カメラを動かしてください。
- 複雑な形状や景色が画面の端に偏っていると、うまく合成できないことがあります。その場合は、それらが画面の中央になるように構図を調整して撮影してください。

画像サイズを変更するには

画像サイズは、MENUボタン → 1 → [パノラマ：画像サイズ]で希望の設定を選べます。

撮影方向を変更するには

カメラを動かす方向を設定します。

MENUボタン → 1 → [パノラマ：撮影方向] → 希望の設定を選ぶ。

パノラマ画像を見るには(スクロール再生)

パノラマ画像を選び、コントロールホイール中央の●を押す。

- もう一度中央の●を押すと一時停止します。一時停止中に◀/▶で、手動でスクロール再生できます。

P プログラムオート

こんなときに適しています

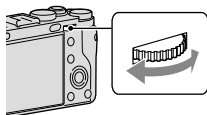
●露出はカメラにまかせ、ISO感度、クリエイティブスタイル、Dレンジオプティマイザーなど、好みの設定に変更したい。

1 **モードダイヤルを「P」にする。**

2 **撮影機能を希望の設定にする（78 〜 132ページ）。**

3 **ピントを合わせて撮影する。**

プログラムシフト

カメラが設定した適性露出のまま、シャッタースピードと絞り値の組み合わせを変更できます。
コントロールダイヤルを回し、絞り値とシャッタースピードの組み合わせを選んでください。
撮影モード表示は、「P*」になります。

A 絞り優先

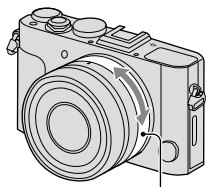
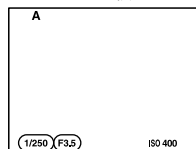
こんなときに適しています

●被写体だけをくっきりとさせて、前後をぼかしたい。絞りを開けるほど、ピントの合う範囲が狭くなる(被写界深度が浅くなる)。

●風景の奥行きを表したい。絞り込むほど、ピントの合う範囲が前後に広がる(被写界深度が深くなる)。

1 モードダイヤルを「A」にする。

2 絞りリングを回して、絞り値(F値)を選ぶ。

- 絞り値を小さくする:被写体の前後がぼける。
  絞り値を大きくする:被写体の前後までくっきりとピントが合う。
- 設定した絞り値で適正露出にならないと本機が判断した場合は、シャッタースピードが点滅する。この場合は、絞り値を変更する。

3 ピントを合わせて撮影する。

適正露出になるように、シャッタースピードは自動で設定される。

撮影のテクニック

- 設定した絞り値によっては、シャッタースピードが遅くなる場合がある。シャッタースピードが遅いときは、三脚を使用する。

S シャッタースピード優先

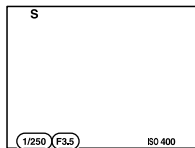
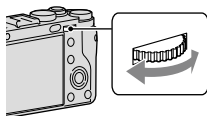
こんなときに適しています

●一瞬を静止させたように撮りたい。シャッタースピードが速いほど、一瞬の動きを捉える。

●動きの軌跡を写し、躍動感や流動感を表現したい。シャッター速度が遅いほど、軌跡が写せる。

1 モードダイヤルを「S」にする。

2 コントロールダイヤルでシャッタースピードを選ぶ。

- シャッタースピードを速くする：
  被写体の動きを止める。
  シャッタースピードを遅くする：
  被写体の軌跡を残す。
- 設定したシャッタースピードで適正露出にならないと本機が判断した場合は、絞り値が点滅する。この場合は、シャッタースピードを変更する。

3 ピントを合わせて撮影する。

適正露出になるように、絞り値が自動的に設定される。

撮影のテクニック

- シャッタースピードを遅くして撮るときは、三脚を使う。
- 室内スポーツを撮影するときは、ISO感度を高くする。

ご注意

- ISO感度は高くするほど、ノイズは増えます。
- シャッタースピードを、1秒または1秒より遅くして撮影（長時間露光）すると、シャッターを開けていた時間と同時間のノイズ軽減処理をします。処理中は撮影できません。

M マニュアル露出

こんなときに適しています

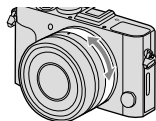
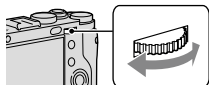
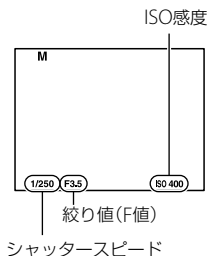
●絞り値とシャッタースピードの両方を調節して、自分の好みの露出で撮る。

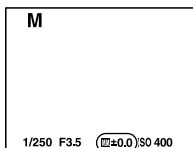
1 モードダイヤルを「M」にする。

2 シャッタースピードを調整するときはコントロールダイヤルを回し、絞り値を選ぶときは絞りリングを回す。

- マニュアルモードでもISOを[AUTO]に設定できる。ISOを[AUTO]に設定したときには、設定した絞り値とシャッタースピードで適正露出になるようにISO感度が変化する。
- ISOが[AUTO]のとき、設定した値で適正露出にならないと本機が判断した場合は、ISO感度が点滅する。この場合はシャッタースピードまたは絞り値を変更する。

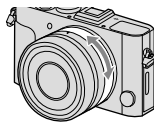
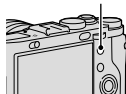
3 露出を合わせて撮影する。

メーターモードマニュアル

- [ISO感度]を[AUTO]以外にしたとき、メータードマニュアル*で露出値を確認する。
  +側：明るく写る
  −側：暗めに写る

* Mモード設定時、適正露光に対するアンダー /オーバーを示します。ISO感度を[AUTO]以外にしたときに使用します。

マニュアルシフト

設定した露出のまま、シャッタースピードと絞り値の組み合わせを変更できます。

AELボタンを押しながら絞りリングを回し、絞り値とシャッタースピードの組み合わせを選んでください。

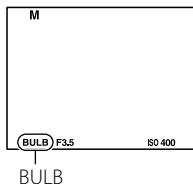
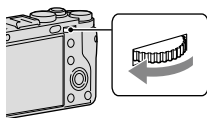
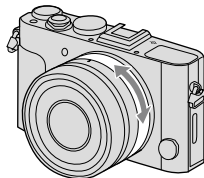
AELボタン

M バルブ撮影

こんなときに適しています

●花火の光が尾を引くような画像を撮る。

●星の軌跡を撮る。

1 モードダイヤルを「M」にする。

2 コントロールダイヤルを[BULB]が出るまで左に回す。

3 絞りリングで絞り値(F値)を選ぶ。

4 シャッターボタン半押しでピントを合わせる。

5 必要な時間、シャッターボタンを押し続けて撮影する。

シャッターボタンを押し続けている間、シャッターが開いたままになる。

撮影のテクニック

- 三脚に取り付けて撮影する。
- 本機はJIS B 7104規格のレリーズケーブルに対応しています。

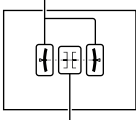
ご注意

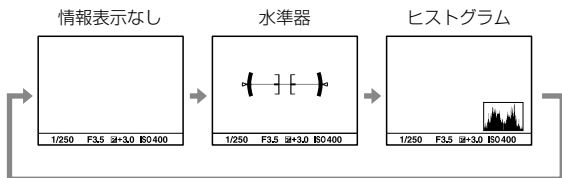
- 露光時間が長いほど、画面内のノイズは目立ちやすくなります。
- 撮影後はシャッターが開いていた時間分だけ、ノイズ軽減処理（長秒時ノイズリダクション）が行われます。処理中は撮影できません。画質よりも撮影タイミングを優先する場合は、[長秒時ノイズリダクション]を[切]にしてください（130ページ）。
- スマイルシャッターまたはオートHDR、[ピクチャーエフェクト]の[絵画調HDR]、[リッチトーンモノクロ]を使用しているときは、シャッタースピードを[BULB]に設定できません。
- シャッタースピードを[BULB]に設定しているときに、[ピクチャーエフェクト]の[絵画調HDR]、[リッチトーンモノクロ]や、スマイルシャッター、オートHDRを使用すると、シャッタースピードは一時的に30秒になります。
- 画質を低下させずにバルブ撮影を行うためには、本機の温度が下がった状態で撮影を開始することをおすすめします。

撮影モードごとの設定可能機能

選んでいる撮影モードによって、設定できない機能があります。
○は選択可能、×は選択不可能を表しています。
設定できない機能はグレーで表示されます。

撮影モード		露出補正(89)	セルフタイマー(95)	連続撮影(94)	顔検出(120)	スマイルシャッター(124)	オートポートレートフレーミング(122)
i◘/i◘+(58)		×	○	○	○	○	○
SCN(59)	ポートレート	×	○	×	○	○	○
	スポーツ	×	○	○	○	○	×
	風景	×	○	×	○	○	○
	夕景	×	○	×	○	○	○
	夜景	×	○	×	○	○	○
	手持ち夜景	×	×	×	○	×	×
	夜景ポートレート	×	○	×	○	○	○
パノラマ(62)		○	×	×	×	×	×
P(65)		○	○	○	○	○	○
A(66)		○	○	○	○	○	○
S(67)		○	○	○	○	○	○
M(69)		×*	○	○	○	○	○
動画(54、135)		○*	○	○	○	×	×

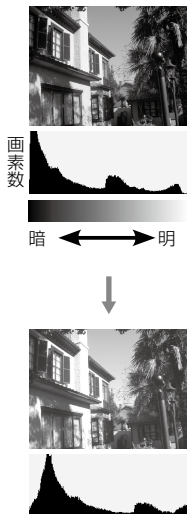
* 撮影モード「M」のときは、ISOが[AUTO]のときのみ露出補正が可能です。

画面の表示を変える（DISP）

撮影情報画面の表示は、コントロールホイールのDISPを押して好みのモードを選択してください。

- 全情報を表示したり、シャッタースピードと絞り値をグラフィカルに表現したグラフィック表示にすることもできます（77ページ）。

グラフィック表示	シャッタースピードと絞り値をグラフィカルに表現し、露出の仕組みを分かりやすくイメージ化して表現する。 シャッタースピードインジケーター（A）/絞りインジケーター（B）のバーが現在の値を指す。 （A）（B）
全情報表示	撮影画面にすべての情報を表示する。
情報表示なし	撮影画面に情報を表示しない。

水準器	カメラの前後左右の傾きを指標で示す。水平、平衡状態のときは、表示が緑色になる。 • 本機を前または後に大きく傾けると、水準器の誤差が大きくなる。 • 傾きがほぼ補正された状態でも±1°程度の誤差が生じることがある。 水平方向 前後方向
ヒストグラム	ヒストグラムを表示する(76ページ)。
ファインダー撮影用	ファインダーをのぞいて撮影するスタイルに適した表示になる。

ヒストグラム

ヒストグラムとは輝度分布のことで、どの明るさの画素がどれだけ存在するかを表します。
露出補正をかけると、ヒストグラムもそれに応じて変化します。
ヒストグラムの左右両端のデータは、白とび/黒つぶれした部分があることを表しています。このような部分は、撮影後、画像をパソコンで補正しても再現することはできません。必要に応じて露出補正をしてから撮影してください。

ご注意

- ヒストグラムは、撮影結果ではなく、画面で見ている画像のヒストグラムになります。絞り値などにより結果が異なります。
- 撮影時と再生時のヒストグラムは、下記のとき大きく異なります。
  – フラッシュ発光したとき
  – 夜景などの低輝度な被写体のとき

撮影情報画面を見たままの表示にする

露出補正、ホワイトバランス、クリエイティブスタイル、ピクチャーエフェクトの設定値を反映させず、見たままの画面表示にします。

MENUボタン → ✿2 → ［ライブビュー表示］ → ［設定効果反映Off］を選ぶ。

- ［設定効果反映Off］を選択した場合は、「M」モードのライブビュー画像も常に適正な明るさで表示されます。

ご注意

- 撮影モード「オートモード」、「スイングパノラマ」、「動画」、シーンセレクション時は［設定効果反映Off］に設定できません。

使用する画面表示を選ぶ

使用する画面表示を選ぶことができます。コントロールホイールのDISPを押して画面を切り換えると、選択した画面のみが表示されます。液晶モニターとファインダーは別に設定できます。

1 MENUボタン → ✿2 → ［DISPボタン（背面モニター）］または［DISPボタン（ファインダー）］を選ぶ。

2 コントロールホイールの▲/▼/◀/▶で希望の画面を選んで、中央の●を押す。

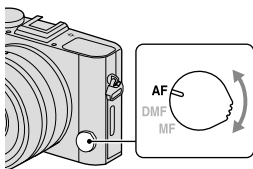
3 MENUボタンを押す。

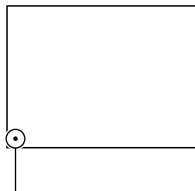
ピントを合わせる

ピント合わせには、オートフォーカスを使う方法と手動で合わせる方法（マニュアルフォーカス）があります。フォーカスモードダイヤルを回して好みのモードに設定してください。

AF **（オートフォーカス）**	ピントが合った時点でピントを固定する（AF-S）。動画撮影時は、コンティニュアスAF（AF-C）になる。
DMF（DMF）	手動によるピント合わせとオートフォーカスを組み合わせることができる。
MF **（マニュアルフォーカス）**	ピント合わせを手動で行う。

オートフォーカス

1 フォーカスモードダイヤルを回して、AF（オートフォーカス）を選ぶ。

2 **シャッターボタンを半押しして、ピントの状態を確認して撮影する。**

- ピントが合うと、フォーカス表示が●になる。

撮影のテクニック

- ピント合わせに使うフォーカスエリアを選びたいときは、[オートフォーカスエリア]で設定する(81ページ)。

フォーカス表示の意味

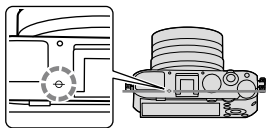
フォーカス表示	状況
●点灯	ピントが合って固定されている。
●点滅	ピントが合っていない。

ピントが合いにくい被写体

下記のような被写体では、オートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。フォーカスロック撮影またはマニュアルフォーカス撮影(84ページ)を行ってください。

- 青空や白壁などコントラストのないもの
- フォーカスエリアの中に距離の異なるものが混じっているとき
- ビルの外観など、繰り返しパターンの連続するもの
- 太陽のように明るいものや、車のボディ、水面などきらきら輝いているもの
- 光量が不足しているとき

撮影距離を正確に測るには

本機上面の ⊖ マークがイメージセンサー *面の位置となります。本機から被写体までの距離を正確に測るには、この線の位置を参考にしてください。

* イメージセンサー:光を電気信号に変える部分

ご注意

- 最短撮影距離よりも近いものにはピントが合いません。撮りたいものに近づきすぎていないか、確認してください。

フォーカスロック

1 ピントを合わせたい被写体にフォーカスエリアを合わせ、シャッターボタンを半押しする。

ピントが固定される。

- フォーカスモードダイヤルはAF(オートフォーカス)にする。

2 **シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図に戻す。**

3 **シャッターボタンを押し込んで撮影する。**

オートフォーカスエリア

撮影状況や好みに応じて、ピントを合わせやすいフォーカスエリアを選びます。

Fnボタン → [アイコン]（オートフォーカスエリア）→ 希望の項目を選ぶ。

[アイコン]（マルチ）	モニター全体を基準に、自動ピント合わせをする。 静止画撮影で半押ししたときには、ピントが合ったエリアに緑色の枠が表示される。 • 顔検出が働いている場合には、顔を優先したAFになる。
[アイコン]（中央重点）	モニター中央付近の被写体に自動ピント合わせする。AFロックと併用して好きな構図で撮影が可能。
[アイコン]（フレキシブルスポット）	モニター上の好きなところに測距枠を移動し、非常に小さな被写体や狭いエリアを狙ってピントを合わせる。

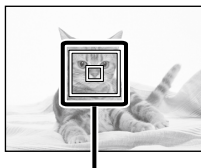
ご注意

- 以下の場合は、中央付近の被写体を優先したAF動作になる場合があります。
  - ズーム撮影時
  - [AF補助光]使用時
- 追尾フォーカスが動いている場合は、追尾している被写体を優先したAFになります。

追尾フォーカス

被写体が動いても、自動でピントを合わせ続けます。

1 コントロールホイール中央の●を押す。

ターゲット枠が表示される。

ターゲット枠

2 ターゲット枠を追尾フォーカスする被写体に合わせて、中央の●を押す。

追尾が開始される。

3 シャッターボタンを押して撮影する。

4 撮影前に終了するときは、もう一度中央の●を押す。

ご注意

- 以下のときは、追尾フォーカスがうまく働かないことがあります。
  - 動きが速すぎる被写体
  - 小さすぎる、または大きすぎる被写体
  - 被写体と背景が同系色
  - 暗いシーン
  - 明るさが変わるシーン
- 以下のときは、追尾フォーカスできません。
  - ズーム撮影時
  - フォーカスモードダイヤルがMF（マニュアルフォーカス）またはDMF（DMF）のとき
  - [オートフォーカスエリア]が[フレキシブルスポット]のとき
- 撮影モード「スイングパノラマ」、シーンセレクションの[手持ち夜景]、またはスマートテレコンバーター使用時、マニュアルフォーカスのときは追尾フォーカスを行えません。
- 追尾している被写体が画面から消えると、追尾フォーカスは解除されます。

人の顔を優先して追尾するには

人を追尾フォーカス中に顔を検出した場合に、顔を優先して追尾するかどうか設定できます。

MENUボタン → ✿4 → [顔優先追尾] → [入]を選ぶ。

顔が見えないときは体を追尾し、顔が見えると顔を追尾します。
追尾中の人が画面から消えても、再び顔が画面に映った場合にはピントを合わせます。

- スマイルシャッター中に追尾フォーカスで顔を追尾させると、その顔だけがスマイル検出の対象になります。
- [顔優先追尾]が[切]の場合も、顔検出中の顔を被写体に設定すれば、顔が見えないときには体を追尾します。また、追尾中の人が画面から消えても再び顔が画面に映った場合はピントを合わせます。

AF補助光

暗い場所でピントを合わせるために使う補助光を設定できます。

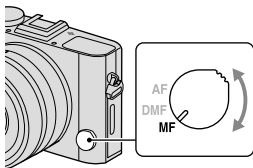
MENUボタン → 📷2 → [AF補助光] → 希望の設定を選ぶ。

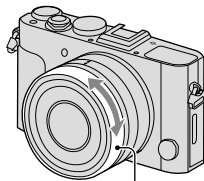
ご注意

- 動画モード時、スイングパノラマモード時はAF補助光は発光しません。
- シーンセレクションが[風景]、[夜景]のときは、AF補助光は発光しません。

マニュアルフォーカス

オートフォーカスが効きにくいときは、手動でピントを合わせると便利です。

1 フォーカスモードダイヤルを回して、MF（マニュアルフォーカス）を選ぶ。

2 フォーカスリングを左右に回して、被写体が最もはっきり見えるようにする。

- フォーカスリングを回すと、画面にフォーカス距離が表示されます。

フォーカスリング

ピントが合った部分を強調表示する（ピーキング）

マニュアルフォーカス撮影のときに、ピントが合った部分の輪郭を指定した色で強調表示します。微細なピント合わせが必要とされるマクロやポートレート撮影に便利です。
ピーキングのレベルとピーキングの色を設定することができます。

MENUボタン → ✿2 → ［ピーキングレベル］ → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 画像のシャープな部分をピントが合ったと判断するため、被写体によって強調表示効果が異なります。
- HDMI接続時はピーキングが表示されません。
- 拡大表示を使用している際に有効になります。［ピント拡大］（86ページ）機能を割り当てる、もしくは［MFアシスト］（86ページ）を有効にした上でご使用ください。

ピーキングの色を設定するには

ピントが合った部分の輪郭を強調するピーキングの色を設定します。

MENUボタン → ✿2 → ［ピーキング色］ → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- ［ピーキングレベル］が［切］のときは設定できません。

ピント拡大

撮影前の画像を拡大してピントの確認ができます。

1 MENUボタン → ✿3 → [AELボタンの機能]または[左ボタンの機能]、[右ボタンの機能]、[下ボタンの機能]、[Cボタンの機能] → [ピント拡大]を選ぶ。

2 機能を割り当てたボタンを押す。

- ズーム倍率は、コントロールホイール中央の●を押すたびに、全体表示 → 約5.9倍 → 約11.7倍に切り替わる。

3 ピントの確認、調整をする。

- シャッターボタンを半押しすると、拡大表示は解除される。

4 シャッターボタンを押し込み撮影する。

- 拡大表示中のときにシャッターボタンを押しても撮影できるが、記録される画像は全体表示の範囲になる。
- 撮影後、拡大表示は解除される。

MFアシスト

マニュアルフォーカスモードやDMFモードでピント合わせをするときに、画像を自動で拡大表示してピントを合わせやすくします。

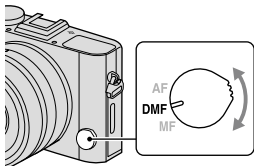
1 MENUボタン → ✿2 → [MFアシスト] → 好みのモードを選ぶ。

2 フォーカスリングを回してピントを合わせる。

- ズーム倍率は、コントロールホイール中央の●を押すたびに、約5.9倍 → 約11.7倍に切り替わる。

ダイレクトマニュアルフォーカス(DMF)

オートフォーカスでピントを合わせたあと、手動で微調整できます(ダイレクトマニュアルフォーカス)。
最初からマニュアルフォーカスでピントを合わせるよりも素早くピント合わせができ、マクロ撮影などに便利です。

1 フォーカスモードダイヤルを回して、DMF(DMF)を選ぶ。

2 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせる。

3 シャッターボタンを半押ししたまま、フォーカスリングを回してピントを調整する。

撮影のテクニック

- オートフォーカスでピントを合わせた後、手動でピント微調整を行う
  厳密なピント合わせをしたい被写体などに有効です。シャッターボタンを半押ししたままフォーカスリングを回します。
- あらかじめ手動でピント調整した後、オートフォーカスでピントを合わせる
  奥の被写体にピントを合わせたいときに、オートフォーカスでは手前にあるものにピントが合ってしまうような場合に有効です。

AF/MFコントロール

撮影中にカメラのホールディングを崩すことなく、オートフォーカスとマニュアルフォーカスを簡単に切り換えることができます。

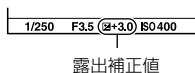
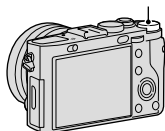
MENUボタン → ✿3 → [Cボタンの機能]または[AELボタンの機能]、[左ボタンの機能]、[右ボタンの機能]、[下ボタンの機能] → [押す間AF/MFコントロール]または[再押しAF/MFコントロール]を選ぶ。

押す間AF/MFコントロール：ボタンを押し続けている間、フォーカスが切り替わる。
再押しAF/MFコントロール：ボタンを再度押すまで、フォーカスが切り替わる。

露出補正

通常は、露出が自動的に設定されます（自動露出）。自動露出で設定された露出値を基準に、＋側に補正すると、画像全体を明るく、－側に補正すると、画像全体を暗くできます（露出補正）。

1 露出補正ダイヤルを回す。

＋（オーバー）側：画像が明るくなる。
－（アンダー）側：画像が暗くなる。

2 ピントを合わせて撮影する。

撮影のテクニック

- 撮影した画像を見て補正値を調整する。
- ブラケット撮影機能を使うと、露出値を前後にずらした複数枚の画像が撮影できる（96ページ）。

ご注意

- 撮影モード「オートモード」、シーンセレクション時は設定できません。
- 撮影モード「M」時は、ISO AUTOのときのみ露出補正が可能です。

露出補正の影響を変えるには

フラッシュの調光にも反映するか、定常光だけに反映するかを設定します。

MENUボタン → ✿4 → [露出補正の影響] → 希望の設定を選ぶ。

AEロック

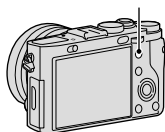
逆光や窓際などでの撮影で、背景と被写体に大きな明暗の差がある場合は、被写体が適正な明るさになる箇所で測光し、露出を固定して撮影します。被写体の明るさを抑えたいときは被写体よりも明るい箇所で測光し、被写体をより明るくしたいときは被写体よりも暗い箇所で測光し、画面全体の露出を固定します。
ここでは、測光モードを ⊡（スポット）にして被写体をより明るく撮る例で説明します。初期設定では、AELボタンに[押す間AEロック]が割り当てられています。

1 Fnボタン → ⊞（測光モード）→ ⊡（スポット）を選ぶ。

2 露出を合わせる箇所に、ピントを合わせる。

3 AELボタンを押して、露出を固定する。

✱（AEロックマーク）が点灯する。

- 測光インジケーターには、固定された露出を基準にしたスポット測光サークル内の測光値も表示される。

• 1/500 F4.5 ±0.0 ISO 400 ✱

4 AELボタンを押したまま、撮影したい被写体にピントを合わせ、撮影する。

- 露出値を一定に保ったまま連続で撮影するときは、撮影後もAELボタンを押したままにする。指を離すと露出固定は解除される。

明るさを調整する

測光モード

Fnボタン → ⊡（測光モード）→ 希望の設定を選ぶ。

⊡（マルチ）	モニターを多分割して測光し、全体のバランスをとって自動調節する（マルチパターン測光）。
◎（中央重点）	モニターの中央部に重点をおいて測光し、中央部付近の明るさを基準に露出を決める（中央重点測光）。
⊙（スポット）	スポット測光照準を被写体に合わせて、被写体の一部分だけで測光する（スポット測光）。逆光にある被写体や、背景と被写体のコントラストが強いときに便利。

撮影のテクニック

- フォーカスエリア内に明暗の差が大きい被写体がある場合は、適正な明るさで写したい被写体の露出をスポット測光で測って、AEロック撮影をする（91ページ）。

ご注意

- 撮影モード「オートモード」、シーンセレクション時、ズーム使用中は、［マルチ］に固定され、他の測光モードに変更できません。

ドライブモードを選ぶ

1枚撮影、連写、ブラケット撮影など、撮影の目的に合わせて使用してください。

Fnボタン → □(ドライブモード) → 希望のモードを選ぶ。

□（1枚撮影）(94)	通常の撮影方法。
(連続撮影)(94)	連続して撮影する。
(速度優先連続撮影)(94)	シャッターボタンを押している間、高速で連続撮影する。ピントは1枚目で固定される。
(セルフタイマー)(95)	10秒セルフタイマーは撮影者も一緒に写真に入るときに、2秒セルフタイマーは、撮影の際のカメラブレを和らげるのに便利。
BRK C（連続ブラケット）(96)	露出を段階的にずらして、指定した枚数の画像を記録する。
BRK S（1枚ブラケット）(96)	露出を段階的にずらして、指定した枚数の画像を1枚ずつ撮影する。
BRK WB（ホワイトバランスブラケット）(97)	選択されているホワイトバランス・色温度/カラーフィルターの値を基準に、段階的にずらして、合計3枚の画像を記録する。
BRK DRO（DROブラケット）(97)	Dレンジオプティマイザーの値を段階的にずらして、合計3枚の画像を記録する。

1枚撮影

Fnボタン → ◻(ドライブモード) → ◻(1枚撮影)を選ぶ。

ご注意

- シーンセレクションの[スポーツ]を選んでいるときは、1枚撮影できません。

連続撮影

1 Fnボタン → ◻(ドライブモード) → ⧉(連続撮影)を選ぶ。

2 ピントを合わせて撮影する。

- 最高2.5枚/秒の速度で撮影します。
- シャッターボタンを深く押し込んでいる間、撮影が続きます。

ご注意

- シーンセレクションの場合、[スポーツ]以外のモードでは連続撮影できません。

速度優先連続撮影

1 Fnボタン → ◻(ドライブモード) → ⧉(速度優先連続撮影)を選ぶ。

2 ピントを合わせて撮影する。

- 最高5枚/秒の速度で撮影します。
- シャッターボタンを深く押し込んでいる間、撮影が続きます。

ご注意

- シーンセレクションの場合、[スポーツ]以外のモードでは速度優先連続撮影はできません。

セルフタイマー

1 Fnボタン → □(ドライブモード) → ૪(セルフタイマー) → **コントロールホイールの◀/▶で希望の設定を選ぶ。**

- ૪の横の数値は、現在選択されているセルフタイマーの設定。

2 ピントを合わせてシャッターボタンを押し込む。

- セルフタイマー作動中は、電子音とセルフタイマーランプで動作状況を知らせる。撮影直前になると、セルフタイマーランプの点滅と電子音が速くなる。

セルフタイマーを中止するには

もう一度シャッターボタンを押します。

連続ブラケット/1枚ブラケット

基準となる露出　　－に補正　　＋に補正

露出を段階的にずらして撮影することをブラケット撮影といいます。基準の露出に対して、上下にずらす値の幅（段数）を指定すると、自動的に露出値をずらして合計3枚または5枚の画像を撮影します。

1 Fnボタン → □（ドライブモード）→ BRK C（連続ブラケット）またはBRK S（1枚ブラケット）→ コントロールホイールの◀/▶で希望の段数、枚数を選ぶ。

2 ピントを合わせて撮影する。

基準の露出は1枚目で設定される。

- ［連続ブラケット］の場合は、撮影が終わるまでシャッターボタンを押し続ける。
- ［1枚ブラケット］の場合は、1枚ずつシャッターボタンを押して撮影する。

ご注意

- 撮影モード「M」でISO AUTO以外のときは、シャッタースピードを変化させて、露出値をずらします。ISO AUTOのときは、ISO感度を変化させて露出値をずらします。
- 露出値を補正しているときは、補正している露出を基準に、露出をずらして撮影されます。
- 撮影モード「オートモード」、「スイングパノラマ」またはシーンセレクションを選んでいるときは、ブラケット撮影はできません。
- フラッシュ発光時は［連続ブラケット］を選んでいても調光量をずらして撮影するフラッシュブラケットになり、1枚ずつシャッターボタンを押して撮影します。

ホワイトバランスブラケット

1 Fnボタン → □(ドライブモード) → BRK WB（ホワイトバランスブラケット）→ コントロールホイールの◀/▶で希望の設定を選ぶ。

- Loのときは10MK^{-1}*、Hiのときは20MK^{-1}の幅がずれる。

2 ピントを合わせて撮影する。

* MK^{-1}：色温度変換フィルターの色温度変換能力を示すために用いられる単位（ミレッドと同じ値）。

DROブラケット

1 Fnボタン → □(ドライブモード) → BRK DRO（DROブラケット）→ コントロールホイールの◀/▶で希望の設定を選ぶ。

- LoのときはDROLv1、Lv2、Lv3の画像が撮影される。HiのときはDROLv1、Lv3、Lv5の画像が撮影される。

2 ピントを合わせて撮影する。

フラッシュを使う

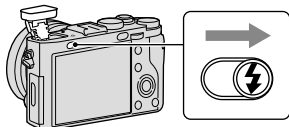
暗い場所での撮影では、フラッシュを使うと被写体を明るく写せ、手ブレを抑えるのにも役立ちます。また逆光などで被写体が暗くなる場合も、フラッシュにより、明るく写せます。

1 Fnボタン → ⚡(フラッシュモード) → 希望の設定を選ぶ。

- 撮影モードごとの選択可能なフラッシュモードについては、100ページをご覧ください。

2 ⚡(フラッシュポップアップ)スイッチをスライドさせる。

フラッシュ発光部が上がる。

- フラッシュ発光部が上がった状態でないと、フラッシュは使えません。
- 発光させたくないときは手で元の位置に戻してください。

(発光禁止)	発光しない。
AUTO(自動発光)	光量不足/逆光と判断したとき発光する。
⚡(強制発光)	必ず発光する。
SLOW(スローシンクロ)	フラッシュを必ず発光する。 暗い場所ではシャッタースピードを遅くし、フラッシュが届かない背景も明るく撮影する。
REAR(後幕シンクロ)	露光が終わる直前のタイミングで必ず発光する。
WL(ワイヤレス)	フラッシュを本機に取り付けて撮影したときよりも被写体に陰影が付いて立体感を出すことができる。

撮影のテクニック

- 屋内での撮影や夜景撮影時、スローシンクロを使うと、人物と背景が明るく撮れる。
- 後幕シンクロを使って、走っている自転車など、動いている被写体を撮ると、動きの軌跡が自然な感じに撮れる。

ご注意

- フラッシュモードは撮影モード以外の条件にも制限される場合があります。
- 発光するモードにしていても、フラッシュ発光部を上げていないと発光しません。
- 本機の内蔵フラッシュではワイヤレスフラッシュはできません。別売りのHVL-F60M、HVL-F58AM、HVL-F43AM、HVL-F20AMをご利用ください。

使用可能なフラッシュモード

設定している撮影モードや機能によって、選べるフラッシュモードが異なります。
○は対応可能、×は対応不可能を表しています。
選べないフラッシュモードはグレーで表示されます。

撮影モード		(発光禁止)	(自動発光)	(強制発光)	(スローシンクロ)	(後幕シンクロ)	(ワイヤレス)*
i / i+ (58)		×	○	○	×	×	×
SCN (59)		×	○	○	×	×	×
		○	×	○	×	×	×
		○	×	○	×	×	×
		○	×	×	×	×	×
		×	×	×	○	×	×
(62)		○	×	×	×	×	×
P (65)		×	×	○	○	○	○
A (66)		×	×	○	○	○	○
S (67)		×	×	○	○	○	○
M (69)		×	×	○	○	○	○
(54、135)		○	×	×	×	×	×

* 内蔵フラッシュではワイヤレスフラッシュ撮影できません。

調光補正

フラッシュ撮影時は、露出補正とは別に、フラッシュの発光量を調整することで、フラッシュ光が届く主被写体の露出を変更できます。

Fnボタン → ▨（調光補正）→ 希望の数値を選ぶ。

＋側：発光量を増やす。
－側：発光量を減らす。

ご注意

- 撮影モード「オートモード」、「スイングパノラマ」、シーンセレクション時は設定できません。
- 被写体がフラッシュ光の最大到達距離（調光距離）付近より遠くにあるときは、オーバー側（＋側）の効果が出ないことがあります。また、近接撮影ではアンダー側（－側）の効果が出ないことがあります。

露出補正と調光補正の違い

露出補正では、シャッタースピード・絞り値・ISO感度（AUTOの場合）が変化することによって補正が行われます。
調光補正では、フラッシュの発光量のみが変化します。

ISO感度を設定する

光に対する感度は、ISO感度(推奨露光指数)で表します。数値が大きいほど高感度になります。

Fnボタン → ISO AUTO(ISO感度) → コントロールホイールの▲/▼で希望の設定を選ぶ。

- ISO感度が高くなるほど、ノイズが増える。
- [マルチショットノイズリダクション]を選んだ場合は、▶で設定画面を表示して、▲/▼で希望の数値を選ぶ。
- コントロールホイールで選ぶと1/3段ずつ数値を変更できる。コントロールダイヤルで選ぶと1段ずつ数値を変更できる。

ご注意

- ISO100未満の領域は、記録できる被写体輝度の範囲(ダイナミックレンジ)が少し狭くなります。
- 撮影モード「オートモード」、「スイングパノラマ」、シーンセレクション時は、ISO感度は[AUTO]に固定され、希望のISO感度に変更できません。
- 撮影モード「P」、「A」、「S」、「M」時、ISO感度を[AUTO]にすると、ISO 100 ～ 25600の値で自動設定されます。

ISO感度[AUTO]時に自動設定される範囲を変更するには

[AUTO]を選択したときに▶を押して、[ISO AUTO 上限] [ISO AUTO 下限]を選んで希望の数値を設定する。

マルチショットノイズリダクション

自動的に複数枚の連写を行い、画像を合成し、ノイズを軽減して記録します。
マルチショットノイズリダクションでは最大ISO感度よりも感度を上げられます。
記録される画像は合成された1枚のみです。

1 Fnボタン → ISO AUTO（ISO感度）を選ぶ。

2 コントロールホイールの▲/▼を押す、またはホイールを回して、ISO AUTO（マルチショットノイズリダクション）を選ぶ。

3 コントロールホイールの▶で設定画面を表示して、▲/▼で希望の数値を選ぶ。

ご注意

- [画質]が[RAW]、[RAW+JPEG]のときは設定できません。
- フラッシュ、Dレンジオプティマイザー、[オートHDR]は使用できません。

応用撮影

明るさ、コントラストを自動補正する（Dレンジ）

Fnボタン → D-R OFF（DRO/オートHDR）→ 希望の設定を選ぶ。

D-R OFF（切）	DRO/オートHDR機能を使わない。
DRO（Dレンジオプティマイザー）	被写体や背景の明暗の差を細かな領域に分けて分析し、最適な明るさと階調の画像にする。
HDR（オートHDR）	露出の異なる3枚の画像を撮影し、適正露出の画像とアンダー画像の明るい部分、オーバー画像の暗い部分を合成することにより階調豊かな画像にする。 適正露出画像と、合成された画像の2枚が記録される。

Dレンジオプティマイザー

1 Fnボタン → D-R OFF（DRO/オートHDR）→ DRO（Dレンジオプティマイザー）を選ぶ。

2 コントロールホイールの◀/▶で最適化レベルを選ぶ。

DRO AUTO（オート）	本機が自動で調整する。
DRO（レベル設定）*	撮影画像の階調を、画像の領域ごとに最適化する。Lv1（弱）～ Lv5（強）で最適化レベルを選ぶ。

* DRO と一緒に表示されるLv_は、現在の設定値。

ご注意

- 撮影モード「スイングパノラマ」、または[マルチショットノイズリダクション]、[ピクチャーエフェクト]時は[切]に固定されます。
- シーンセレクションの[夕景]、[夜景]、[夜景ポートレート]、[手持ち夜景]では[切]に固定されます。これら以外のシーンセレクションでは[オート]に固定されます。
- Dレンジオプティマイザー動作時は、ノイズが目立つ場合があります。特に補正効果を強めるときは、撮影後の画像を確認しながらレベルを選んでください。

オートHDR

1 Fnボタン → (DRO/オートHDR) → (オートHDR)を選ぶ。

2 コントロールホイールの◀/▶で最適化レベルを選ぶ。

（露出差オート）	本機が自動で調整する。
（露出差レベル設定）＊	被写体の明暗差に応じて露出差を設定する。 1.0EV（弱）～ 6.0EV（強）で最適化レベルを選ぶ。 例：2.0EVでは－1.0EVの画像、適正露出の画像、＋1.0EVの画像の3枚が合成される。

＊ と一緒に表示される_EVは、現在の設定値。

撮影のテクニック

- 一度の撮影で3回シャッターが切られるため、以下に注意する。
  – 動きや点滅発光などがない被写体のときに設定する。
  – 構図が変わらないように撮影する。

応用撮影

ご注意

- RAW画像には設定できません。
- 撮影モード「オートモード」、「スイングパノラマ」、シーンセレクション、[マルチショットノイズリダクション] 時は [オートHDR] を設定できません。
- 撮影後、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- 被写体の輝度差の状況や撮影環境によっては思い通りの効果を得られないことがあります。
- フラッシュ発光時は、効果がほとんど得られません。
- コントラストが低いシーンや、大きな手ブレ、被写体ブレが発生した場合は、良好なHDR画像が撮影できていないことがあります。カメラが検出できた場合は、再生画像に HDR ! を表示してお知らせします。必要に応じて、構図を変えたり、ブレに注意して撮影し直してください。

画像の仕上がりを設定する

ピクチャーエフェクト

好みの効果を選んで、より印象的でアーティスティックな表現の画像を撮影できます。

Fnボタン → (ピクチャーエフェクト) → 希望のモードを選ぶ。

- さらに詳細な設定ができるモードを選んだ場合は、コントロールホイールの◀/▶で希望の設定を選ぶ。

(切)	効果を使用しない。
(トイカメラ)	周辺が暗く、シャープ感を抑えた柔らかな仕上がりになる。◀/▶で色合いを設定できる。
(ポップカラー)	色合いを強調してポップで生き生きとした仕上がりになる。
(ポスタリゼーション)	原色のみ、または白黒のみで再現されるメリハリのきいた抽象的な仕上がりになる。◀/▶で[白黒]か[カラー]かを選択できる。
(レトロフォト)	古びた写真のようにセピア色でコントラストが落ちた仕上がりになる。
(ソフトハイキー)	明るく、透明感や軽さ、優しさ、柔らかさを持ったような仕上がりになる。
(パートカラー)	1色のみをカラーで残し、他の部分はモノクロに仕上がる。◀/▶で残す色を設定できる。
(ハイコントラストモノクロ)	明暗を強調することで緊張感のあるモノクロに仕上がる。

(ソフトフォーカス)	柔らかな光につつまれたような雰囲気の仕上がりになる。 ◀/▶で効果の強弱を設定できる。
(絵画調HDR)	絵画のように色彩やディテールが強調された仕上がりになる。3回シャッターが切れる。◀/▶で効果の強弱を設定できる。
(リッチトーンモノクロ)	階調が豊かでディテールも再現されたモノクロに仕上がる。3回シャッターが切れる。
(ミニチュア)	ミニチュア模型を撮影したようにボケが大きく、鮮やかな仕上がりになる。 ◀/▶でぼかさない位置を設定できる。
(水彩画調)	にじみやぼかしを加えて水彩画のような効果をつける。
(イラスト調)	輪郭を強調するなどしてイラストのような効果をつける。◀/▶で効果の強弱を設定できる。

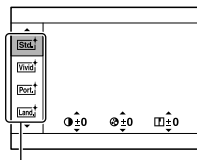
ご注意

- 以下のピクチャーエフェクトのモードを選んでいるときは、動画撮影時にもピクチャーエフェクトの効果が適用されます：
  ［トイカメラ］/［ポップカラー］/［ポスタリゼーション］/
  ［レトロフォト］/［ソフトハイキー］/［パートカラー］/
  ［ハイコントラストモノクロ］
- ［パートカラー］のとき、被写体や撮影条件によっては設定した色が残らないことがあります。
- 撮影モード「オートモード」、「シーンセレクション」、「スイングパノラマ」のとき、または［画質］が［RAW］、［RAW+JPEG］のときは設定できません。
- ［絵画調HDR］、［ミニチュア］、［ソフトフォーカス］、［水彩画調］、［イラスト調］のときは、撮影前に効果を確認できません。また、ドライブモードは設定できません。
- ［絵画調HDR］、［リッチトーンモノクロ］ではコントラストが低いシーンや、大きな手ブレ、被写体ブレが発生した場合に良好な結果が得られない場合があります。カメラが検出できた場合は、再生画像に ! を表示してお知らせします。必要に応じて、構図を変えたり、ブレに注意して撮影し直してください。

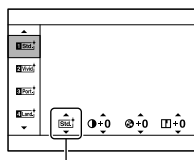
クリエイティブスタイル

13種類の画像スタイルから画像の仕上がりを設定でき、各画像スタイルごとにコントラスト、彩度、シャープネスを微調整できます。
カメラまかせで撮影するシーンセレクションと異なり、露出（シャッタースピード/絞り）なども調整できます。

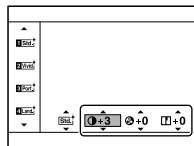
1 Fnボタン → Std.（クリエイティブスタイル）を選ぶ。

- 13種類のクリエイティブスタイルと、任意に内容を登録できる6つのスタイルボックス（1Std. のように左側に数字が入っているもの）が表示される。

クリエイティブスタイル/スタイルボックス

2 コントロールホイールの▲/▼で希望のクリエイティブスタイルまたはスタイルボックスを選ぶ。

- スタイルボックスを選んだときは、▶で右側に移動し、希望のクリエイティブスタイルを選ぶ。
- スタイルボックスを使えば、同じスタイルでも微妙に設定を変えて呼び出すことができる。

スタイルボックスを選んでいるときのみ表示

3 ◐（コントラスト）、⊛（彩度）、◫（シャープネス）を調整したいときは、◀/▶で希望の項目を選び、▲/▼で値を選ぶ。

応用撮影

Std.（スタンダード）	さまざまなシーンを豊かな階調と美しい色彩で表現する。
Vivid（ビビッド）	彩度・コントラストが高めになり、花、新緑、青空、海など色彩豊かなシーンをより印象的に表現する。
Ntrl（ニュートラル）	彩度・シャープネスが低くなり、落ち着いた雰囲気に表現する。パソコンでの画像加工を目的とした撮影にも適している。
Clear（クリア）	ハイライト部分の抜けがよく、透明感のある雰囲気に表現する。光の煌めき感などの表現に適している。
Deep（ディープ）	濃く深みのある色再現にする。重厚感、存在感など、重みのある表現に適している。
Light（ライト）	明るく、すっきりとした色再現にする。爽快感、軽快感など明るい雰囲気の表現に適している。
Port.（ポートレート）	肌をより柔らかに再現する。人物の撮影に適している。
Land.（風景）	彩度、コントラスト、シャープネスがより高くなり、鮮やかでメリハリのある風景に再現する。遠くの風景もよりくっきりする。
Sunset（夕景）	夕焼けの赤さを美しく表現する。
Night（夜景）	コントラストがやや低くなり、見た目の印象により近い夜景に再現する。
Autm（紅葉）	紅葉の赤・黄をより鮮やかに表現する。
B/W（白黒）	白黒のモノトーンで表現する。
Sepia（セピア）	セピア色のモノトーンで表現する。

◐（コントラスト）、 ❂（彩度）、◫（シャープネス）は、スタイルボックスごとに調整できます。

◐（コントラスト）	＋側に設定するほど明暗差が強調され、インパクトのある仕上がりになる。
❂（彩度）	＋側にするほど色が鮮やかになる。－側に設定すれば、控えめで落ち着いた色に再現される。
◫（シャープネス）	解像感を調整できる。＋側に設定すれば輪郭がよりくっきりし、－側に設定すればやわらかな表現になる。

ご注意

- 撮影モード「オートモード」、シーンセレクション、または[ピクチャーエフェクト]時は、[スタンダード]に固定され、他のクリエイティブスタイルに変更できません。
- [白黒]、[セピア]を選択しているときは、彩度の調整はできません。

色合いを調整する(ホワイトバランス)

被写体の色合いは、被写体を照らしている光の特性によって異なります。太陽光のもとで白く見えるものを基準にすると、下図のように色合いが変化します。

天候や照明	晴れ	曇り	蛍光灯	電球
光の特性	白	青みがかる	緑がかる	赤みがかる

画像の色合いが思ったとおりにならなかったときや、意図して色合いを変化させて雰囲気を表現したいときにホワイトバランス機能を使います。

ご注意

- 撮影モード「オートモード」、シーンセレクション時は、[オートホワイトバランス]に固定され、他のホワイトバランスモードに変更できません。
- 水銀灯やナトリウムランプのみが光源の場合、光の特性上、正確なホワイトバランスが得られないため、フラッシュを発光して撮影してください。

Fnボタン → AWB(ホワイトバランス)→ 希望の設定を選ぶ。

AWB（オートホワイトバランス）	光源が自動判別され、適した色合いになる。 • コントロールホイールの▶で、微調整画面が表示され、必要に応じて色合いを微調整できる。▲/▼/◀/▶で好みの色合いに設定する（114ページ）。
（太陽光）	被写体を照らしている光源を選ぶと、選んだ光源に適した色合いになる（プリセットホワイトバランス）。 • コントロールホイールの▶で、微調整画面が表示され、必要に応じて色合いを微調整できる。▲/▼/◀/▶で好みの色合いに設定する（114ページ）。
（日陰）	
（曇天）	
（電球）	
-1（蛍光灯: 温白色）	
0（蛍光灯: 白色）	
+1（蛍光灯: 昼白色）	
+2（蛍光灯: 昼光色）	
（フラッシュ）	

撮影のテクニック

• 選んだ設定では、思ったような色が出ないときは、ホワイトバランスブラケット撮影を行う（97ページ）。

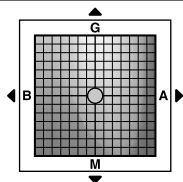
色温度・カラーフィルター

希望の色温度を選び、色温度とカラーフィルターの組み合わせで色合いの微調整ができます。

1 Fnボタン → AWB（ホワイトバランス）→ 色温度・カラーフィルターアイコン（色温度・カラーフィルター）→ コントロールホイールの▶を押す。

2 ▲/▼で色温度を設定する。

3 ▶を押して微調整画面を表示し、▲/▼/◀/▶で好みの色合いに設定する。

色温度：◀でブルー（B）方向、▶でアンバー（A）方向に微調整できる。
カラーフィルター：▲でグリーン（G）方向、▼でマゼンタ（M）方向に微調整できる。

ご注意

- カラーメーターは、フィルムカメラ用のため、蛍光灯/ナトリウム灯/水銀灯の光源下では、異なった値になります。カスタムホワイトバランスの使用、または試し撮りをおすすめします。

カスタムホワイトバランス

複数の種類の光源で照明されている場合などで、より正確に白さを表現したいときは、カスタムホワイトバランスの使用をおすすめします。3つの設定を登録できます。

1 Fnボタン → AWB（ホワイトバランス）→ [カスタムアイコン SET] → コントロールホイール中央の●を押す。

2 **白く写したいものが中央部のフォーカスエリア付近を覆うようにカメラを構えてシャッターボタンを深く押し込む。**

取り込んだ値（色温度とカラーフィルター）が表示される。

3 **コントロールホイールの◀/▶で登録番号を選び、中央の●を押す。**

登録したカスタムホワイトバランス値が設定された状態で、撮影情報画面に戻る。

- この操作で登録したカスタムホワイトバランス値は、次に別の値が登録されるまで保持される。

ご注意

- 「カスタムWB設定エラー」というメッセージが表示されたときは、値が想定外であることを表します（近距離でフラッシュを発光させた場合や、鮮やかな色の被写体に向けた場合など）。値は登録され、撮影情報画面の ◣● 表示が黄色になります。撮影はできますが、設定し直すことをおすすめします。

登録したカスタムホワイトバランスを呼び出すには

Fnボタン → AWB（ホワイトバランス）→ 希望のカスタム登録番号を選ぶ。

- コントロールホイールの▶を押すと、微調整画面が表示され、色合いを微調整できる。

ご注意

- シャッターボタンを押すときにフラッシュを発光させると、フラッシュ光でカスタムホワイトバランスが登録されます。呼び出したあとの撮影でもフラッシュを発光させて撮影してください。

画像サイズを変える

静止画：画像サイズ

MENUボタン → [camera icon] 1 → [画像サイズ] → 希望のサイズを選ぶ。

[横縦比]が3：2のとき

画像サイズ		用途例
L：24M	6000×4000画素	最高画質で撮影したいとき
M：10M	3936×2624画素	A3ノビサイズまでの印刷
S：4.6M	2640×1760画素	A5サイズまでの印刷

[横縦比]が16：9のとき

画像サイズ		用途例
L：20M	6000×3376画素	ハイビジョンテレビでの再生
M：8.7M	3936×2216画素	
S：3.9M	2640×1488画素	

ご注意

- [画質]でRAW画像を選ぶと、RAW画像の画像サイズはL相当となります。画面に画像サイズは表示されません。

パノラマ：画像サイズ

スイングパノラマの画像サイズを設定します。「撮影方向」（64ページ）によって、サイズが異なります。

MENUボタン → 📷1 → [パノラマ：画像サイズ] → 希望のサイズを選ぶ。

標準	撮影方向[上][下]：3872×2160 撮影方向[左][右]：8192×1856
ワイド	撮影方向[上][下]：5536×2160 撮影方向[左][右]：12416×1856

画像の横縦比と画質を設定する

横縦比

MENUボタン → 1 → [横縦比] → 希望の比率を選ぶ。

3：2	通常の横縦比率
16：9	ハイビジョンテレビ比率

ご注意

- 撮影モード「スイングパノラマ」時は設定できません。

画質

MENUボタン → 1 → [画質] → 希望の設定を選ぶ。

RAW（RAW）	ファイル形式：RAW（圧縮Raw形式で記録します） デジタル処理などの加工をしていないファイル形式。専門的な用途に合わせて、パソコンで加工するときに選ぶ。 • 画像サイズは常に最大サイズで固定され、画面には画像サイズは表示されない。
RAW+J （RAW+JPEG）	ファイル形式：RAW（圧縮Raw形式で記録します）＋JPEG 上記RAW画像とJPEG画像が同時に記録される。閲覧用にはJPEG画像、編集用にはRAW画像というように、両方の画像を記録したい場合に便利です。

X.FINE（エクストラファイン）	ファイル形式：JPEG 画像がJPEG形式で圧縮されて記録される。「X.FINE」、「FINE」、「STD」の順で圧縮率が大きくなり、データ量が少なくなる。1枚のメモリーカードに記録できる枚数は増えるが、画質は劣化する。
FINE（ファイン）	
STD（スタンダード）	

ご注意

- 撮影モード「スイングパノラマ」時は設定できません。

RAWについて

- 本機で撮影したRAW画像を開くには、「Image Data Converter」をダウンロードしてお使いのパソコンにインストールしてください（173ページ）。このソフトウェアを使えば、RAW画像を開いたあと、JPEGやTIFFのような一般的なフォーマットに変換したり、ホワイトバランス、彩度、コントラストなどを再調整することができます。
  – RAW形式の画像は、DPOF（プリント）指定はできません。
  – RAW形式の画像には、[オートHDR]、[ピクチャーエフェクト]を設定できません。
- 本機で撮影されたRAW画像は1pixelに対して、14bitの分解能を持っています。ただし、以下の撮影条件においては、12bitの分解能に制限されます。
  – 長秒時ノイズリダクション
  – バルブ撮影
  – 連続撮影時（プレミアムおまかせオート時の複数枚連写なども含む）

顔を検出する

カメラが人物の顔を判別し、人物にあわせて、ピントや露出、画像処理、フラッシュの調整をします。

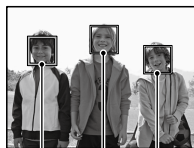
Fnボタン → (顔検出/スマイルシャッター) → 希望の設定を選ぶ。

(顔検出 切)	顔検出機能を使わない。
(顔検出 入(登録顔優先))	[個人顔登録]で登録した顔を優先して顔検出を行う(121ページ)。
(顔検出 入)	登録した顔を優先せずに顔検出を行う。
(スマイルシャッター)	笑顔を検出して自動撮影する。

顔検出枠について

顔を検出すると、灰色の顔検出枠が表示され、オートフォーカス可能と判断されると枠が白色になり、シャッターボタンを半押しすると緑色になります。

- 複数の顔を検出した場合は、優先的に調整する顔を自動で選択し、1か所の顔検出枠が白色になります。それ以外の登録されている顔の検出枠は赤紫色になります。

ご注意

- 撮影モード「スイングパノラマ」時は顔検出機能を使用できません。
- 最大8人の顔を検出できます。
- 状況によっては、顔が検出されなかったり、顔以外を誤検出することがあります。

個人顔登録

顔情報を登録しておくと、登録した顔を優先して顔検出を行うことができます。

1 MENUボタン → ✿4 → [個人顔登録] → [新規登録]を選ぶ。

2 登録したい顔をガイド枠内に合わせて、シャッターボタンを押して登録する顔を撮影する。

3 コントロールホイールの▲/▼で[実行]を選び、中央の●を押す。

- 最大8人の顔を登録できる。
- 明るい場所で、正面を向いた顔を撮影する。帽子やマスク、サングラスなどで顔が隠れると、正しく登録できないことがある。

登録した顔の優先順を変更するには

複数の顔を登録したときは、登録した順で優先順位が設定されます。優先順を変更することができます。

MENUボタン → ✿4 → [個人顔登録] → [優先順序変更] → 優先順を変更する顔と変更先を選ぶ。

登録した顔を削除するには

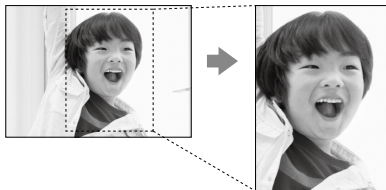
登録した顔を削除できます。

MENUボタン → ✿4 → [個人顔登録] → [削除] → 削除する顔を選ぶ。

- [全て削除]を選ぶと、すべての顔をまとめて削除できます。

ご注意

- [削除]を行っても、カメラ内に登録した顔のデータが残っています。カメラ内からも削除したい場合は、[全て削除]を行ってください。
- [設定値リセット]を行っても登録した顔は削除されません。

オートポートレートフレーミング

人物の顔を検出して撮影すると、自動的に最適な構図に切り出し(トリミング)された画像が記録されます。トリミング前の画像と、トリミングされた画像の2枚が記録されます。

トリミングされた画像は、オリジナル画像と同じ画像サイズで記録されます。

- ライブビュー中に切り出し可能になると、[AUTO] が緑に点灯する。
- 撮影後のオートレビューでは、トリミングされた領域を示す枠が表示される。

Fnボタン → [AUTO](オートポートレートフレーミング) → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 撮影モード「スイングパノラマ」、「動画」、シーンセレクションの[手持ち夜景]、[スポーツ]時は使用できません。
- 撮影状況によっては最適な構図でトリミングされない場合があります。
- [画質]が[RAW]、[RAW+JPEG]のときは設定できません。
- 連続撮影、連続ブラケット、[マルチショットノイズリダクション]、[オートHDR]、ズーム、マニュアルフォーカス、ピクチャーエフェクトの[ソフトフォーカス]、[絵画調HDR]、[リッチトーンモノクロ]、[ミニチュア]、[水彩画調]、[イラスト調]時は使用できません。

スマイルシャッター

笑顔を検出すると自動で撮影します。

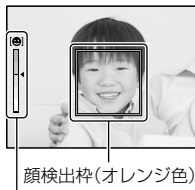
1 Fnボタン → (顔検出/スマイルシャッター) → [スマイルシャッター 入：普通の笑顔] → コントロールホイールの◀/▶で希望のスマイル検出感度を選ぶ。

(微笑み)、(普通の笑顔)、(大笑い)の3段階で、笑顔を検出する感度を変更できる。

- スマイルシャッター作動中は、画面にスマイル検出感度インジケーターが表示される。

2 笑顔を待つ。

笑顔を検出し、ピントが合い、スマイルレベルがインジケーターの◀を超えると、自動で撮影される。

- スマイルシャッターの対象となる顔を認識するとオレンジ色の顔検出枠が表示され、ピントの合っている顔検出枠が緑色になる。
- [オートポートレートフレーミング]を[オート]にしていると、最適な構図を決めて自動的にトリミングされる。

顔検出枠(オレンジ色)

スマイル検出感度インジケーター

3 終了するときは、Fnボタン → (顔検出/スマイルシャッター) → [スマイルシャッター]以外を選ぶ。

撮影のテクニック

- 前髪が目にかからないようにし、目は細めにする。
- 帽子やマスク、サングラスなどで顔が隠れないようにする。
- カメラに対して正面を向き、なるべく水平になるようにする。
- 口をあけてしっかり笑う。歯が見えているほうが笑顔を検出しやすくなる。
- スマイルシャッター中にシャッターボタンを押しても撮影できる。撮影後はスマイルシャッターに戻る。

ご注意

- 撮影モード「スイングパノラマ」、「動画」、シーンセレクションの[手持ち夜景]、マニュアルフォーカス時は使用できません。
- ドライブモードは[1枚撮影]のみになります。
- 笑顔が検出されない場合はスマイル検出感度を設定してください。
- 状況によっては笑顔が正しく検出できない場合があります。
- スマイルシャッター中に追尾フォーカスで顔を追尾させると、その顔だけがスマイル検出の対象になります(83ページ)。

ズームする

ワンプッシュでズームする(スマートテレコンバーター)

スマートテレコンバーターを使って画像の中央部分を拡大表示し、記録できます。

1 **MENUボタン → ✿3 → [Cボタンの機能]または[AELボタンの機能]、[左ボタンの機能]、[右ボタンの機能]、[下ボタンの機能] → [スマートテレコンバーター /ズーム]を選ぶ。**

2 **機能を割り当てたボタンを押す。**

- ズーム倍率は、ボタンを押すたびに、約1.4倍 → 約2.0倍 → オフに切り替わる。

ズーム倍率によって、画像サイズは以下の設定値になります。

ズーム倍率	画像サイズ
約1.4倍	MまたはS
約2.0倍	S

ご注意

- 以下の場合は、スマートテレコンバーターは使用できません。
  - 撮影モード「スイングパノラマ」のとき
  - [画質]が[RAW]、[RAW+JPEG]のとき
- スマートテレコンバーター中は[測光モード]が[マルチ]になります。
- 動画撮影中は、スマートテレコンバーターは使えません。

解像感を保ちながらズームする(全画素超解像ズーム)

全画素超解像ズームを使うと、最大画素数のまま解像度を維持してズームできます。また、スマートズームやデジタルズームを併用すると、さらに倍率を上げられます。

1 MENUボタン → ✿3 → [Cボタンの機能]または[AELボタンの機能]、[左ボタンの機能]、[右ボタンの機能]、[下ボタンの機能] → [スマートテレコンバーター /ズーム]を選ぶ。

2 MENUボタン → ✿3 → [スマートテレコンバーター /ズーム] → [ズーム]を選ぶ。

3 MENUボタン → 📷2 → [全画素超解像ズーム] → [入]を選ぶ。

4 機能を割り当てたボタンを押す。

5 コントロールホイールの◀/▶で希望のズーム倍率まで拡大する。

- ▲/▼を押すと、より大きな設定幅で拡大できる。

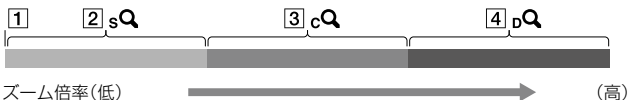
デジタルズームの設定を変更する

画質が劣化しても画像を拡大したい場合は[入]にしてください。

1 全画素超解像ズーム(上記)の設定手順1 ~ 3を行う。

2 MENUボタン → 📷2 → [デジタルズーム] → 希望の設定を選ぶ。

本機で使用できるズーム

ズーム倍率によってモニターに表示されるアイコンが変わります。

1 ズームなし（×1.0と表示される）。

2 スマートズーム：画像を部分的に切り出して拡大する（画像サイズM、Sのときのみ）。

3 全画素超解像ズーム：より高画質な画像処理により拡大する。

4 デジタルズーム：画像処理により拡大する。

設定	画像サイズ	ズーム倍率
画像を切り出せる範囲でズームする（画質は劣化しない）。 全画素超解像ズーム：切 デジタルズーム：切	L	ー
	M	約1.5倍
	S	約2.3倍
画質を優先してズームする。 全画素超解像ズーム：入 デジタルズーム：切	L	約2倍
	M	約3倍
	S	約4.5倍
ズーム倍率を優先してズームする。 全画素超解像ズーム：入 デジタルズーム：入	L	約4倍
	M	約6.1倍
	S	約9.1倍

ご注意

- 以下の場合は、ズームは使用できません。
  – 撮影モード「スイングパノラマ」のとき
  – [画質]が[RAW]、[RAW+JPEG]のとき
- ドライブモードが連続撮影、または速度優先連続撮影、連続ブラケットのときは、[全画素超解像ズーム]は使えません。
- 動画撮影中は、スマートズーム、[全画素超解像ズーム]は使えません。
- ズームすると、[オートフォーカスエリア]が[中央重点]になります(オートフォーカス時)。
- ズームを使用しているときは、[測光モード]が[マルチ]になります。

画像ノイズを減らす

長秒時ノイズリダクション

シャッタースピードを、1秒または1秒より遅くして撮影する(長時間露光)と、シャッターを開けていた時間と同時間のノイズ軽減処理をします。長時間露光時に目立つ粒状ノイズを軽減するためです。処理中はメッセージが表示され、撮影できません。画質を優先するには[入]を、撮影タイミングを優先するには[切]を選びます。

MENUボタン → 撮影 2 → [長秒時ノイズリダクション] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 撮影モード「スイングパノラマ」、連続撮影および速度優先連続撮影、連続ブラケット撮影、シーンセレクションの[スポーツ]、[手持ち夜景]、ISO感度が[マルチショットノイズリダクション]時は、[入]にしていてもノイズリダクションは行われません。
- 撮影モード「オートモード」、シーンセレクション時はノイズ軽減処理[切]の設定はできません。
- 撮影条件によっては、シャッタースピードが1秒以上でもノイズ軽減処理を行わない場合があります。

高感度ノイズリダクション

すべてのISO感度で作動しますが、特に高感度時に目立つノイズを効果的に低減します。通常は[標準]に設定されていますが、[弱]、[切]を選ぶこともできます。

MENUボタン → 撮影 2 → [高感度ノイズリダクション] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 撮影モード「オートモード」、「スイングパノラマ」、シーンセレクション時は設定できません。
- RAW画像にはノイズリダクションは行われません。

色空間を設定する

色を数値の組み合わせによって表現するための方法、あるいは表現できる色の範囲のことを色空間といいます。画像の用途によって色空間を変更できます。

MENUボタン → 3 → [色空間] → 希望の設定を選ぶ。

sRGB	デジタルカメラの標準となっている色空間。画像調整を行わずに印刷する場合など、一般的な撮影ではsRGBを使う。
AdobeRGB	より広い色再現範囲を持っている色空間。鮮やかな緑色や赤色の多い被写体をプリントする場合に効果がある。 • 撮影した画像のファイル名は、"_DSC"で始まる。

ご注意

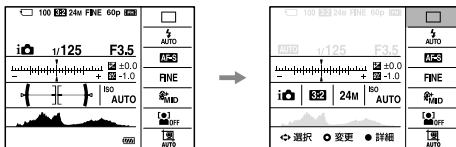
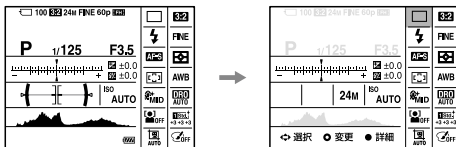
- Adobe RGBは、カラーマネジメントおよびDCF2.0オプション色空間に対応したアプリケーションソフト、プリンター用です。非対応のソフト、プリンターでは、正しい色での表示、印刷ができないことがあります。
- Adobe RGBで撮影した画像は、Adobe RGB非対応機器で表示すると、低彩度となります。

クイックナビの使いかた

クイックナビはファインダー（別売）使用時に適した機能で、変更したい項目をダイレクトに操作できます。
ファインダーの取り付け方はファインダーの取扱説明書をご覧ください。

1 コントロールホイールのDISPを押して、[ファインダー撮影用]画面にする（74ページ）。

2 Fnボタンを押してクイックナビ画面にする。

オートモード/シーンセレクション時

P/A/S/M/スイングパノラマ時

3 コントロールホイールの▲/▼/◀/▶で設定したい項目を選ぶ。

応用撮影

4 コントロールホイールまたはコントロールダイヤルで操作する。

- コントロールホイールで設定の変更を行い、コントロールダイヤルで調整を行う。
- 項目を選んでいるときに中央の●を押すと、その項目設定用の専用画面になる。
- もう一度Fnボタンを押すと、クイックナビ画面から元の画面に戻る。

クイックナビで選択可能な機能

オートモード/シーンセレクション/画像サイズ/画質/ドライブモード/フラッシュモード/ 顔検出/スマイルシャッター /測光モード/ホワイトバランス/ DRO/オートHDR /クリエイティブスタイル/ピクチャーエフェクト/オートポートレートフレーミング/調光補正/ISO感度/横縦比/美肌効果/オートフォーカスエリア

ご注意

- クイックナビ画面でグレーになっている項目は、変更できません。
- クリエイティブスタイル（109ページ）では、専用画面に入らないと操作できない設定もあります。

撮影のテクニック

- ファインダー（別売）を使用する際、モニターがまぶしい場合は、MENU → ✿ 3 → 好みのボタンで、[モニターミュート] を選択してください。

動画撮影の設定

ここでは、動画の応用的な撮影方法を紹介します。

撮影のテクニック

- ピントを合わせてから、録画を開始する。
- 以下の設定は、静止画撮影のときの設定値を使える。
  ISO感度/ホワイトバランス/クリエイティブスタイル/露出補正/オートフォーカスエリア/測光モード/顔検出/追尾フォーカス/Dレンジオプティマイザー /ピクチャーエフェクト
- デジタルズームを使うと、動画撮影中でもズームできる（127ページ）。

ご注意

- フルサイズの動画を撮影するには、[手ブレ補正]を[切]にして撮影してください（51ページ）。
- カメラを太陽など強い光源に向けて撮影しないでください。カメラの内部が故障する恐れがあります。
- AVCHD方式で記録した動画をパソコンに取り込むときは、「PlayMemories Home」を使用してください（169ページ）。
- 長時間、連続して撮影しつづけると、本機の温度が上昇し、画質が低下する場合があります。
- 動画撮影時のISO感度は、ISO100 ～ 6400まで選べます。ISO6400よりも大きい設定値の状態で動画撮影を始めると、ISO6400に切り替わります。ISO100よりも小さい設定値の状態で動画撮影を始めると、ISO100に切り替わります。動画撮影を終えると元の設定値に戻ります。
- ISO感度を[マルチショットノイズリダクション]に設定しているときは、一時的に[AUTO]になります。
- [ピクチャーエフェクト]の[ソフトフォーカス]、[絵画調HDR]、[リッチトーンモノクロ]、[ミニチュア]、[水彩画調]、[イラスト調]は設定できません。動画撮影が開始されると一時的に[切]になります。

絞りとシャッタースピードを設定して動画を撮影する

絞りやシャッタースピードを設定して、背景のぼかし具合や流動感を思い通りにコントロールした動画を撮影できます。

1 モードダイヤルを（動画）にする（57ページ）。

2 Fnボタン → P（動画） → M（マニュアル露出）を選ぶ。

3 絞りリングとコントロールダイヤルで絞り値とシャッタースピードを設定する。

4 MOVIE（動画）ボタンを押して、撮影する。

P（プログラムオート）（65）	露出（シャッタースピードと絞り）は本機が自動設定するが、その他の設定は自分で調整でき、設定した値は保持される。
A（絞り優先）（66）	絞りを手動設定する。
S（シャッタースピード優先）（67）	シャッタースピードを手動設定する。
M（マニュアル露出）（69）	露出（シャッタースピードと絞り）を手動設定する。

オートスローシャッターについて

[オートスローシャッター]を[入]にすると、暗いところまでノイズを抑えた撮影ができます。
[切]にすると暗いところでは[入]のときよりも画像が暗くなりますが、被写体のブレが少なく、動きがよりなめらかに撮影できます。

MENUボタン → 🎞1 → [オートスローシャッター] → 希望のモードを選ぶ。

ご注意

- 撮影モードが「M」「S」以外でISO感度が[AUTO]のときのみ有効です。

記録方式

MENUボタン → 🎞1 → [記録方式] → 希望のモードを選ぶ。

AVCHD	AVCHD規格の60i動画、24p動画、60p動画を記録する。ハイビジョンテレビで見るために適した記録方式。 ソフトウェア「PlayMemories Home」を使ってブルーレイディスク、またはAVCHDディスク、DVD-Videoディスクを作成できる。 • 60iは、約60フィールド/秒、インターレース、Dolby Digital音声、AVCHD方式で記録される。 • 24pは、約24フレーム/秒、プログレッシブ、Dolby Digital音声、AVCHD方式で記録される。 • 60pは、約60フレーム/秒、プログレッシブ、Dolby Digital音声、AVCHD方式で記録される。
MP4	mp4（AVC）動画を記録する。WEBアップロードやメールに適した記録方式。 • MPEG-4、約30フレーム/秒、プログレッシブ、AAC音声、mp4形式で記録される。 • [記録方式]を[MP4]にして撮影した動画からはソフトウェア「PlayMemories Home」を使っても、ディスクを作成することはできません。

記録設定

平均ビットレートが高いほど、画質は向上します。

MENUボタン → 1 → [記録設定] → 希望の設定を選ぶ。

[記録方式]が[AVCHD]のとき

記録設定	平均ビットレート	説明
60i 24M(FX)	24 Mbps	1920×1080（60i）の高画質で撮影する。
60i 17M(FH)	17 Mbps	1920×1080（60i）の標準画質で撮影する。
60p 28M(PS)	28 Mbps	1920×1080（60p）の最高画質で撮影する。
24p 24M(FX)	24 Mbps	1920×1080（24p）の高画質で撮影する。映画のような雰囲気で記録できる。
24p 17M(FH)	17 Mbps	1920×1080（24p）の標準画質で撮影する。映画のような雰囲気で記録できる。

[記録方式]が[MP4]のとき

記録設定	平均ビットレート	説明
1440×1080 12M	12 Mbps	1440×1080で撮影する。
VGA 3M	3 Mbps	VGAサイズで撮影する。

ご注意

- ［記録設定］を［60p 28M(PS)］または［60i 24M(FX)］、［24p 24M(FX)］にして撮影した動画は、「PlayMemories Home」でのAVCHDディスク作成時に変換され、そのままの画質でディスクを作成することはできません。変換には時間がかかります。そのままの画質で保存したいときは、ブルーレイディスクに保存してください。
- 60p、24pの動画をテレビで見るときは、60p、24pに対応したテレビが必要です。対応していないテレビの場合、60iとして出力されます。

音声の記録について

動画撮影中はカメラの作動音、操作音などが記録されてしまうことがあります。音声を記録しないように設定できます。

MENUボタン → 🎞1 → ［音声記録］ → ［切］を選ぶ。

風音を低減するには

内蔵マイクからの入力音声の低域音をカットして、風音を低減できます。

MENUボタン → 🎞1 → ［風音低減］ → ［入］を選ぶ。

ご注意

- ［入］に設定すると低い音の一部も低減されてしまう場合があります。風音がない場合は［切］にしてください。
- 別売りのマイク使用時は効果が得られません。

また、フォーカスモードダイヤルをMF（マニュアルフォーカス）にすると、オートフォーカスの作動音を記録しないようにできます（84ページ）。

再生時の機能を使う

静止画と動画を切り換える（ビューモード）

静止画を再生するか、動画を再生するかを選びます。

MENUボタン → ▶ 1 → [静止画/動画切換] → 希望のモードを選ぶ。

フォルダービュー（静止画）	静止画のみをフォルダーごとに表示する。
フォルダービュー（MP4）	動画（MP4）のみをフォルダーごとに表示する。
AVCHDビュー	AVCHD動画のみを表示する。

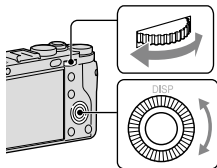
拡大して見る

静止画再生中に、画像の一部を拡大できます。写真のピントの具合を確認したいときなどに使います。

1 拡大したい画像を表示して、🔍 ボタンを押す。

- 等倍に拡大します。

2 コントロールホイールで希望の大きさに拡大する。

- コントロールダイヤルを回すと、同じ拡大倍率のまま、前後の画像に切り換えられます。同じ構図で複数枚撮ったとき、ピントの合い具合を比較できます。

3 コントロールホイールの▲/▼/◀/▶で、拡大表示する場所を選ぶ。

拡大再生を終了するには

コントロールホイール中央の●を押すと、拡大前の画像に戻ります。

一覧表示で見る

再生時、同時に複数の画像を表示できます。

ボタンを押す。

一覧表示画面になる。

- 表示する枚数を変更する場合は、MENUボタン → ▶ 1 → [一覧表示]を選択してください。

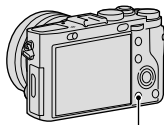
1枚再生画面表示に戻るには

表示したい画像を選んでいる状態で、コントロールホイール中央の●を押します。

希望のフォルダーを表示するには

コントロールホイールで左側のバーを選び、▲/▼で希望のフォルダーを選びます。また､左側のバーを選んでコントロールホイール中央の●を押すと、静止画・動画の再生を切り換えることができます(140ページ)。

回転

1 回転したい画像を表示して、MENUボタン → ▶ 1 → [回転]を選ぶ。

2 コントロールホイール中央の●を押す。

画像が左へ回転する。さらに回転させたいときは､手順2を繰り返す。

- 回転した画像は､本機の電源を切ったあとも､回転された状態のまま保持されます。

通常再生画面に戻るには

MENUボタンを押す。

ご注意

- 動画は回転できません。
- パソコンに取り込んだ画像は､「PlayMemories Home」では､正しく回転された状態で表示されます。使用するソフトウェアによっては回転していない状態で表示されることがあります。

スライドショー

MENUボタン → ▶ 1 → [スライドショー] → [実行]を選ぶ。

撮影した画像を順番に表示する。全画像の表示が終わると自動的に終了する。

- スライドショー再生中に、コントロールホイールの◀/▶で、画像を戻す/送ることができます。
- 一時停止はできません。

途中で終了するには

コントロールホイール中央の●を押す。

画像を切り換える間隔を変更するには

MENUボタン → ▶ 1 → [スライドショー] → [間隔設定]→希望の秒数を選ぶ。

繰り返し再生するには

MENUボタン → ▶ 1 → [スライドショー] → [リピート] → [入]を選ぶ。

3D画像を再生するには

HDMIケーブル(別売)で3D対応テレビと接続すると、3D画像を自動再生してお楽しみいただけます。

テレビの取扱説明書も合わせてご覧ください。

MENUボタン → ▶ 1 → [スライドショー] → [画像種別] → [3Dのみ(3D表示)]を選ぶ。

ご注意

- 本機では3D画像を撮影することはできません。

縦記録画像の再生

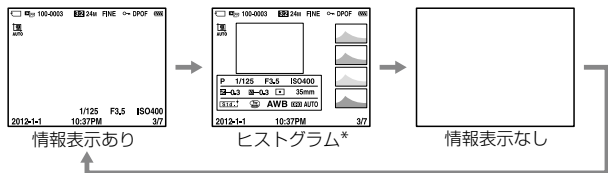
縦位置で撮影した画像を再生するときの向きを設定できます。

MENUボタン → ▶ 2 → [縦記録画像の再生] → 希望の設定を選ぶ。

再生時の画面表示について

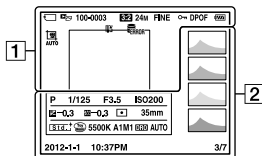
再生時の画面表示の切り換え

コントロールホイールのDISPを押すたびに、下記のように画面表示が切り替わります。

情報表示あり　ヒストグラム*　情報表示なし

* 画像に白とびまたは黒つぶれの箇所がある場合、ヒストグラム画面の画像の該当箇所が点滅します（白とび黒つぶれ警告）。

ヒストグラム表示時の画面表示一覧

［情報表示あり］の画面表示については21ページをご覧ください。

1

表示	意味
(メモリーカードアイコン)	メモリーカード（47、199）
(ビューモードアイコン)	ビューモード（140）
100-0003	フォルダー番号–ファイル番号（176）

表示	意味
3:2 **16:9**	静止画の画像横縦比（118）
24M 10M 4.6M 20M 8.7M 3.9M WIDE STD	静止画の画像サイズ（116）

再生機能を使う

表示	意味
RAW RAW+J X.FINE FINE STD	静止画の画質（118）
	プロテクト（147）
DPOF	DPOF（プリント）指定（148）
	バッテリー残量警告（45）
FULL ERROR	管理ファイルフル警告（193）/管理ファイルエラー警告（193）
	温度上昇警告（13）

2

表示	意味
	ヒストグラム（76）
P A S M	撮影モード（57）
1/125	シャッタースピード（67）
F3.5	絞り値（66）
ISO200	ISO感度（102）
–0.3	露出補正（89）
–0.3	調光補正（101）
	測光モード（92）

表示	意味
Std. Vivid Ntrl Clear Deep Light Port. Land. Sunset Night Autm B/W Sepia	クリエイティブスタイル（109）
Toy Norm Pop Pos Pos Rtro SftH key Part R Part G Part B Part Y HC BW Soft Mid Pntg Mid Rich BW Mini AUTO WtrC Ilus Mid	ピクチャーエフェクト（107）
AWB –1 0 +1 +2 WB 5500K A1 M1	ホワイトバランス（オート、プリセット、色温度、カラーフィルター、カスタム）（112）
D-R OFF DRO HDR HDR !	Dレンジオプティマイザー（104）/オートHDR/オートHDR画像警告（105）
2012 -1 - 1 10:37AM	撮影日時
3/7	画像番号/ビューモード内画像枚数

保護する(プロテクト)

画像を誤って消さないように保護(プロテクト)します。

1 MENUボタン → ▶ 1 → [プロテクト] → [画像選択]を選ぶ。

2 コントロールホイールの◀/▶で保護したい画像を選んで、中央の●を押す。

チェックボックスに ✓ マークが付く。

- 解除するときは、もう一度中央の●を押す。

3 他の画像も保護するときは、手順2を繰り返す。

- 一覧表示のときに、画面左側のバーを選んで、フォルダー内の画像をまとめて選択することもできる。

4 MENUボタンを押す。

5 ▲で[確認]を選び、コントロールホイール中央の●を押す。

画像の保護をまとめて解除するには

表示しているフォルダーごとに画像の保護をまとめて解除します。

MENUボタン → ▶ 1 → [プロテクト] → [静止画全て解除]または[動画(MP4) 全て解除]、[AVCHDビュー動画全て解除]を選ぶ。

プリント指定する

DPOF指定する

撮影した静止画を、ご自分のプリンターでプリントする場合やプリント店に依頼する際に、あらかじめどの画像をプリントするかを指定しておくことができます。
指定方法は、下記の手順をご覧ください。
DPOF指定は、印刷後も残ったままとなります。印刷が終了したあとは、解除することをおすすめします。

1 MENUボタン → ▶ 1 → [プリント指定] → [DPOF指定] → [画像選択] → [実行]を選ぶ。

2 コントロールホイールの◀/▶で画像を選ぶ。

3 コントロールホイール中央の●を押して ✓ マークをつける。

- プリント指定を解除するときは、もう一度画像を選んで中央の●を押す。

4 MENUボタンを押す。

5 コントロールホイールの▲で[確認]を選び、中央の●を押す。

ご注意

- RAW画像にはDPOF指定はできません。
- 枚数指定はできません。

日付を入れる

プリントする際に、プリンター側で日付を入れることができます。日付の入る場所（画面内/画面外、サイズなど）は、お使いのプリンターによって異なります。

MENUボタン → ▶ 1 → [プリント指定] → [日付プリント] → [入]を選ぶ。

ご注意

- プリンターによっては、この機能に対応していないものもあります。

削除する

不要な画像を選んで削除したり、まとめて削除できます。
一度削除した画像は、元に戻せません。削除してよいか、事前に確認してください。

ご注意

- プロテクトされている画像は削除できません。

画像選択削除

1 MENUボタン → ▶ 1 → [削除] → [画像選択]を選ぶ。

2 コントロールホイールで削除したい画像を選び、中央の●を押す。

チェックボックスに ✓ マークが付く。
- 解除するときは、もう一度中央の●を押す。

合計枚数

3 他の画像も削除するときは、手順2を繰り返す。
- 一覧表示のときに、画面左側のバーを選んで、フォルダー内の画像をまとめて選択することもできる。

4 MENUボタンを押す。

5 コントロールホイールの▲で[確認]を選び、中央の●を押す。

ビューモード内のすべての画像を削除する

表示しているビューモード内のすべての画像を削除します。

1 MENUボタン → ▶ 1 → [削除] → [フォルダー内全て]または[AVCHDビュー動画全て]を選ぶ。

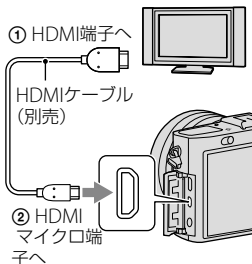
2 コントロールホイールの▲で[削除]を選び、中央の●を押す。

希望のフォルダーを表示するには

コントロールホイールで左側のバーを選び、▲/▼で希望のフォルダーを選びます。

テレビで見る

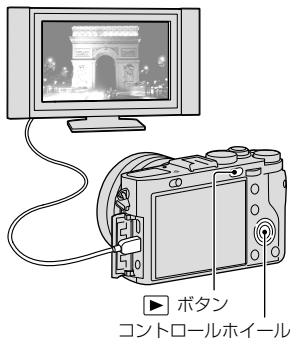
本機の画像をテレビで見るには、HDMIケーブル(別売)と、HDMI端子のあるハイビジョンテレビが必要です。

1 電源を切った状態で、本機とテレビを接続する。

2 テレビの電源を入れ、入力を切り換える。

- テレビの取扱説明書も合わせてご確認ください。

3 本機の電源を入れて、▶ ボタンを押す。

撮影した画像がテレビに表示される。コントロールホイールの◀/▶で画像を選ぶ。

- 本機の液晶モニターは点灯しない。

ご注意

- HDMIケーブルはHDMIロゴがついているものをお使いください。
- 本機側はHDMIマイクロ端子、テレビ側はテレビの端子にあったタイプのHDMIケーブルをお使いください。
- テレビに正しく画面が表示されない場合は、セットアップメニューの[HDMI解像度]を接続するテレビに合わせて、[1080p]または[1080i]にしてください。
- 一部の機器では正常に動作しない場合があります。
- 本機と接続機器の出力端子同士を接続しないでください。故障の原因になります。

"ブラビア プレミアムフォト"について

本機は"ブラビア プレミアムフォト"に対応しています。
"ブラビア プレミアムフォト"に対応したソニー製テレビにHDMIケーブルで接続出力すると、写真を今までになかった感動のFull HD高画質で快適にお楽しみいただけます。
"ブラビア プレミアムフォト"対応のUSB端子つきソニー製テレビでは、付属のマイクロUSBケーブルでも接続できます。
"ブラビア プレミアムフォト"とは、写真らしい高精細で微妙な質感や色あいの表現を可能にする機能です。

ブラビアリンク

本機とブラビアリンクに対応のテレビをHDMIケーブルでつなぐと、テレビのリモコンで操作できます。

1 ブラビアリンクに対応したテレビと本機を接続する（152ページ）。

テレビの入力が自動で切り替わり、本機の画像が表示される。

2 リモコンの「リンクメニュー」ボタンを押す。

3 リモコンのボタンで操作する。

リンクメニューの項目

スライドショー	自動再生する。
一枚表示	1枚表示画面に戻る。
一覧表示	一覧表示画面にする。
静止画/動画切換	静止画を再生するか、動画を再生するかを選ぶ。
削除	画像を削除する。

ご注意

- HDMIケーブルで本機とテレビを接続する場合、操作できる項目が制限されます。
- 2008年以降に発売された「ブラビアリンク（リンクメニュー対応）」に対応したテレビで使用できます。また、リンクメニュー操作はお使いのテレビによって異なります。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- 他社のテレビとHDMI接続する場合、テレビのリモコン操作で本機が不要な動きをする場合は、セットアップメニューの［HDMI機器制御］を［切］にしてください。

本体の設定を変更する

グリッドライン

構図合わせのための補助線であるグリッドライン表示を設定します。

MENUボタン → ✿1 → [グリッドライン] → 希望の設定を選ぶ。

オートレビュー

撮影直後に、撮影した画像を確認することができます。その表示時間を変更できます。

MENUボタン → ✿1 → [オートレビュー] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- [縦記録画像の再生]が[縦向き]になっていても、オートレビュー時は縦方向で表示されません(144ページ)。
- オートレビュー時は、[レンズ補正(歪曲収差)]などの画像処理前の画像を最初に表示したあとに、処理後の画像を表示することがあります。

AELボタンの機能

AELボタンを押して固定した測光値を、AELボタンを押している間だけ保持するか([押す間AEL])、もう一度AELボタンを押すまで保持するか([再押しAEL])を設定できます。また、[押す間スポットAEL]/[再押しスポットAEL]を選ぶと、スポット測光での露出で固定されます(92ページ)。

MENUボタン → ✿3 → [AELボタンの機能] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 測光値がロックされている間は、液晶モニター内に ✱ が点灯します。解除し忘れのないようにしてください。
- ここでの「押す間」、「再押し」設定は、マニュアルモードでのマニュアルシフト（70ページ）にも影響します。
- 「再押し」に設定したときは、もう一度AELボタンを押して、忘れずにロックを解除してください。

AELボタンに他の機能を割り当てるには

AELボタンには、AEL機能の他に以下の機能を割り当てられます。
ドライブモード/フラッシュモード/オートフォーカスエリア/
美肌効果/ 顔検出/スマイルシャッター /
オートポートレートフレーミング/ISO感度/測光モード/調光補正/
ホワイトバランス/ DRO/オートHDR /クリエイティブスタイル/
ピクチャーエフェクト/画像サイズ/横縦比/画質/押す間AEL/
再押しAEL/押す間スポットAEL/ 再押しスポットAEL/
押す間AF/MFコントロール / 再押しAF/MFコントロール /
スマートテレコンバーター /ズーム /ピント拡大/登録/
モニターミュート/未設定

Cボタンの機能

割り当てられる機能は、[AELボタンの機能]と同じです。

MENUボタン → ✿ 3 → [Cボタンの機能] → 希望の設定を選ぶ。

モニター明るさ

本機は明るさセンサー（17ページ）により、周囲の明るさに合わせて、液晶モニターの明るさを自動調整します。
これを手動で変えたり、晴天時の屋外に最適な明るさにできます。

MENUボタン → 🔧1 → [モニター明るさ] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- [オート]設定時は、明るさセンサーを手などで覆わないようにしてお使いください。
- ACアダプター AC-UD11（付属）を使うと、モニターの明るさはマニュアル±0設定に固定されます。
- 室内で[屋外晴天]にすると明るすぎるため、室内での使用時は[オート]か[マニュアル]に設定してください。

ファインダー明るさ

ファインダー（別売）装着時、本機は被写体の明るさに合わせてファインダーの明るさを自動調整します。
これを手動で変えることもできます。

MENUボタン → 🔧1 → [ファインダー明るさ] → [マニュアル] → 希望の設定を選ぶ。

モニター表示画質

モニターの表示画質を設定します。
[標準]にすると、よりバッテリーの消耗を防ぎます。

MENUボタン → 🔧2 → [モニター表示画質] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- ACアダプター AC-UD11（付属）使用時は、[標準]に設定できません。
- [標準]に設定時は、一定時間操作しないと、モニターの明るさが暗くなります。
- [標準]に設定時は、[パワーセーブ開始時間]は変更できません。

パワーセーブ開始時間

操作していないときにパワーセーブ（省電力）モードになるまでの時間を短くしてバッテリーの消耗を防ぎます。パワーセーブ時でも、シャッターボタン半押しなどの操作をすれば、撮影が再開できます。

MENUボタン → 🔧2 → [パワーセーブ開始時間] → 希望の時間を選ぶ。

ご注意

- テレビ接続時はパワーセーブモードになりません。
- [モニター表示画質]を[標準]に設定すると、[パワーセーブ開始時間]の設定は変更できません。

FINDER/LCD切換設定

液晶モニター表示とファインダー表示の自動切り換えを無効にして、ファインダー（別売）側のボタンのみでの切り換えに設定できます。

MENUボタン → ✿1 → [FINDER/LCD切換設定] → [マニュアル]を選ぶ。

レンズ補正を設定する

レンズ補正（周辺光量）

画面の周辺部が暗くなる場合に、自動で光量を補正します。

MENUボタン → ✿ 4 → [レンズ補正（周辺光量）] → 希望の設定を選ぶ。

レンズ補正（倍率色収差）

画面周辺部で色ずれが起こる場合に、自動で色ずれを補正します。

MENUボタン → ✿ 4 → [レンズ補正（倍率色収差）] → 希望の設定を選ぶ。

レンズ補正（歪曲収差）

画面の歪みが起こる場合に、自動で歪みを補正します。

MENUボタン → ✿ 4 → [レンズ補正（歪曲収差）] → 希望の設定を選ぶ。

メモリーカードへの記録方法を設定する

フォーマット

フォーマットすると、プロテクトしてある画像も含めて、すべてのデータが削除され、元に戻せません。

MENUボタン → ▭1 → [フォーマット] → [実行]を選ぶ。

ご注意

- フォーマット中はアクセスランプが点灯します。点灯中はメモリーカードを抜かないでください。
- メモリーカードのフォーマットは、本機で行ってください。パソコンでメモリーカードのフォーマットを行うと、フォーマットの形式によってはメモリーカードが使えなくなることがあります。
- メモリーカードによっては、フォーマットに数分かかる場合があります。
- バッテリー残量が1%以下のときは、フォーマットできません。

ファイル番号

MENUボタン → ▭1 → [ファイル番号] → 希望の設定を選ぶ。

連番	ファイル番号をリセットせず、9999までファイル番号を続ける。
リセット	新規のフォルダーにファイルを記録する場合にはファイル番号をリセットし、0001から番号を付ける。同一フォルダー内にファイルが存在している場合は、その続きから始まる。

ご注意

- 設定値リセットを行うと、ファイル番号はリセットされます。

記録フォルダー選択

標準形式フォルダーを選択中でフォルダーが2つ以上存在する場合、撮影した画像を保存するフォルダー（記録フォルダー）を選べます。

MENUボタン → ▬1 → ［記録フォルダー選択］ → 希望のフォルダーを選ぶ。

ご注意

- 日付形式フォルダー設定中は、記録フォルダーの選択はできません。

フォルダー新規作成

メモリーカードの中に、新しいフォルダーを作成します。
既存番号＋1のフォルダーが作成されます。次に撮影する画像は新しく作成したフォルダーに記録されます。静止画用のフォルダーとMP4動画用のフォルダーが同時に作成されます。

MENUボタン → ▬1 → ［フォルダー新規作成］を選ぶ。

ご注意

- 他機で使用していたメモリーカードを本機に入れて撮影すると、自動的に新しいフォルダーが作成される場合があります。
- 1つのフォルダー番号に記録できる画像は最大4000枚です。容量を超えると、自動的に新しいフォルダーが作成される場合があります。

管理ファイル修復

パソコンでファイルを操作したなどの原因で、画像を管理しているファイルに何らかの異常が発生すると、メモリーカード内の画像が再生できなくなります。
そのような場合に管理ファイルの修復を行います。

MENUボタン → 1 → [管理ファイル修復] → [実行]を選ぶ。

ご注意

- 充分に充電したバッテリーをお使いください。残量の少ないバッテリーを使用して行うと、データを破損するおそれがあります。

アップロード設定(Eye-Fi)

市販のEye-Fiカードを使って、アップロード機能を使うことができます。

MENUボタン → 3 → [アップロード設定] → [入]を選ぶ。

通信状態の画面表示

	待機中で、送信画像が無い
	アップロード待機中
	接続中
	アップロード中
	エラー発生

ご注意

- Eye-Fiカードはご使用の前に、無線LANアクセスポイントや転送先を設定してください。詳しくはEye-Fiカードに付属の取扱説明書をご覧ください。
- Eye-Fiカードはアメリカ、カナダ、日本、EUの一部の国で販売しています(2012年6月現在)。

- Eye-Fiカードに関する問い合わせは、その製造者・販売者に直接ご確認ください。
- Eye-Fiカードはご購入された国のみで使用が認められています。使用する国の法律に従ってお使いください。
- Eye-Fiカードはワイヤレス LAN機能を持っています。飛行機の中など、使用を禁止されている場所では、Eye-Fiカードを本機に入れないでください。入っている場合は[アップロード設定]を[切]にしてください。アップロード機能が[切]になっていると画面上に OFF が表示されます。
- 新しいEye-Fiカードを初めて使うときは、カードをフォーマットする前に、カードに書き込まれているEye-Fiマネージャーのインストールファイルをパソコンにコピーしてください。
- Eye-Fiカードは、ファームウェアを最新版にバージョンアップしてからお使いください。バージョンアップについて詳しくは、Eye-Fiカードに付属の取扱説明書をご覧ください。
- 画像アップロード中はパワーセーブ機能は働きません。
- (エラー発生)が表示された場合は、メモリーカードを抜き差しするか、電源を入れ直してください。それでも表示される場合は、Eye-Fiカードが壊れている可能性があります。
- 無線LANの通信は他の通信機器の影響を受けることがあります。通信状態が良くないときは、接続先のアクセスポイントに近づいてください。
- アップロードできるファイルについては、Eye-Fiカードに付属の取扱説明書をご覧ください。
- 本機はエンドレスモードに対応していません。Eye-Fi を使用する前に、エンドレスモードは必ずオフに設定してください。

好みの設定を登録する

よく使うモードや数値の組み合わせを3つまで本機に登録でき、モードダイヤルで簡単に呼び出せます。

1 **本機を登録したい設定にする。**

2 **MENUボタン → 📷 3 → [登録]を選ぶ。**

3 **コントロールホイールの◀/▶で登録先の番号を選び、コントロールホイール中央の●を押す。**

登録したあとも、変更可能。

登録できる項目

撮影モード、シャッタースピード、Fn（ファンクション）ボタンで設定できる機能すべて（27 ～ 29ページ）、📷 静止画撮影メニューすべて（30 ～ 31ページ）、🎞 動画撮影メニューすべて（32ページ）

登録を呼び出すには

モードダイヤルの「1」、「2」、「3」から呼び出したい番号を選んでください。

登録した内容を変更するには

希望する設定に変更し、同じ番号に再登録してください。

ご注意

- プログラムシフト、マニュアルシフトは登録できません。
- 一部の機能については、本機のダイヤルの位置と、実際に撮影に使われる設定とが一致しなくなります。本機のモニター情報を元に撮影してください。

設定を初期値に戻す

本機の主な設定が初期値に戻ります。

MENUボタン → 🔧4 → [設定リセット] → 希望の設定 → [確認]を選ぶ。

ご注意

- 設定リセット中はバッテリーを抜かないでください。

本機のバージョンを確認する

お手持ちのカメラのバージョンを表示します。本機のファームウェアのアップデートがリリースされたときなどに確認します。

MENUボタン → 🔧4 → [バージョン表示]を選ぶ。

ソフトウェアを使う

サイバーショットで撮影した画像をパソコンでご活用いただくために、以下のソフトウェアをお使いください。
- 「Image Data Converter」
- 「PlayMemories Home」

インストールに関するご注意は171 ～ 173ページもご覧ください。

「Image Data Converter」を使う

次のことなどができます。
- RAW画像を再生し、トーンカーブやシャープネスなど多彩な補正機能で編集
- ホワイトバランスや露出、クリエイティブスタイルなどの画像の調整
- 表示、編集した静止画をパソコンに保存
  RAWデータのまま保存する方法と、汎用ファイルフォーマット形式で保存する方法があります。
- 本機で撮影したRAW画像/JPEG画像の表示、比較
- 5段階でランク付け
- カラーラベルの設定

詳しい使いかたはヘルプをご覧ください。
[スタート] → [すべてのプログラム] → [Image Data Converter] → [ヘルプ] → [Image Data Converter Ver.4]

「Image Data Converter」のサポート情報
http://www.sony.co.jp/ids-sj/

「PlayMemories Home」を使う

次のことなどができます。

- 本機で撮影した画像のパソコンへの取り込み、表示
- パソコンにある画像を、撮影日ごとにカレンダー上に整理して、閲覧
- 静止画の補正（赤目補正など）、プリント、メール送信、撮影日時の変更
- パソコンにある画像を、切り抜いたり（トリミング）、サイズ変更（リサイズ）などの編集
- 画像に日付を挿入して保存、印刷
- パソコンに取り込んだAVCHD動画から、ブルーレイディスク、またはDVD-Videoディスクの作成（ブルーレイディスク、DVD-Videoディスクの初回作成時には、インターネット接続環境が必要）。

ご注意

- 「PlayMemories Home」は、Macには対応しておりません。Macで再生する場合は、Macに搭載されているアプリケーションをご利用ください。
- ［記録設定］を［60p 28M(PS)］または［60i 24M(FX)］、［24p 24M(FX)］にして撮影した動画は、「PlayMemories Home」でのAVCHD記録ディスク作成時に変換され、そのままの画質でディスクを作成することはできません。変換には時間がかかります。 そのままの画質で保存したいときは、ブルーレイディスクに保存してください。

詳しい使いかたは「PlayMemories Homeヘルプガイド」をご覧ください。
デスクトップ上の ?（PlayMemories Homeヘルプガイド）をダブルクリック、または［スタート］ → ［すべてのプログラム］ → ［PlayMemories Home］ → ［PlayMemories Homeヘルプガイド］

「PlayMemories Home」のサポート情報
http://www.sony.co.jp/pmh-sj/

パソコンの推奨環境（Windows）

ソフトウェアを使ったり、USB接続で画像を取り込んだりするには下記の推奨環境が必要です。

OS（工場出荷時にインストールされていること）	Microsoft Windows XP* SP3/Windows Vista SP2/Windows 7 SP1
「PlayMemories Home」使用時	**CPU：**Intel Pentium Ⅲ 800 MHz以上（HD動画再生・編集時はIntel Core Duo 1.66 GHz以上/Intel Core 2 Duo 1.66 GHz以上、Intel Core 2 Duo 2.26 GHz以上（AVC HD（FX/FH））、Intel Core 2 Duo 2.40 GHz以上（AVC HD PS）） **メモリー：**Windows XP 512 MB以上（1 GB以上を推奨）Windows Vista/Windows7 1 GB以上 **インストール時に必要なハードディスク容量：**約500 MB **ディスプレイ：**1024×768ドット以上
「Image Data Converter Ver.4」使用時	**CPU/メモリー：**Pentium 4以上/1 GB以上 **ディスプレイ：**1024×768ドット以上

* 64bit版は除きます。ディスク作成機能のご使用には、Windows Image Mastering API（IMAPI）Ver.2.0 以上が必要です。

パソコンの推奨環境（Mac）

ソフトウェアを使ったり、USB接続で画像を取り込んだりするには下記の推奨環境が必要です。

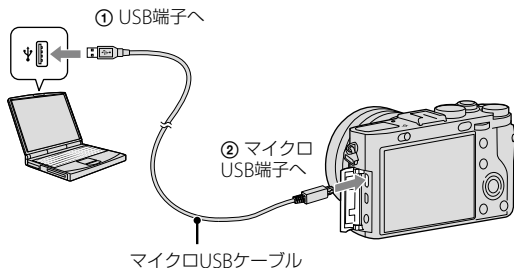
OS（工場出荷時にインストールされていること）	**USB接続：**Mac OS X v10.3-10.8 **「Image Data Converter Ver.4」：**Mac OS X v10.5、v10.6、v10.7、v10.8
「Image Data Converter Ver.4」使用時	**CPU：**Intel Core Solo/Core Duo/Core 2 Duoなどのインテルプロセッサー **メモリー：**1 GB以上を推奨 **ディスプレイ：**1024×768ドット以上

ご注意

- 上記のOSでもアップグレードされた場合や、マルチブート環境の場合は、動作保証いたしません。
- 1台のパソコンで2台以上のUSB機器を接続している場合、同時に使用するUSB機器によっては、本機が動作しないことがあります。
- Hi-Speed USB（USB2.0準拠）のため、対応のUSBインターフェースに接続すると、高速な転送（hi-speed転送）が行えます。
- パソコンがサスペンド・レジューム機能、またはスリープ機能から復帰しても、通信状態が復帰できないことがあります。

「PlayMemories Home」をインストールする

1 パソコンの推奨環境を確認する（170ページ）。

2 本機とパソコンの電源を入れ、マイクロUSBケーブル（付属）で接続する。

Windows 7：デバイスステージが表示される。

3 Windows 7: デバイスステージ上で「PlayMemories Home」を選ぶ。
Windows XP/Windows Vista: [コンピュータ]（Windows XPでは[マイコンピュータ]）→ [PMHOME] → 「PMHOME.EXE」をダブルクリックする。

4 モニターの指示に従ってインストールを進める。

インストール完了後、「PlayMemories Home（Lite版）」が起動する。

- 「拡張機能」のインストール案内が表示されます。引き続きモニターの指示に従ってインストールしてください。
- 「拡張機能」のインストールにはインターネットに接続する必要があります。初回起動時にインストールしなかった場合は、「拡張機能」でしか使えない機能をクリックしたときにインストールの案内が表示されます。

ご注意

- パソコンにはコンピュータの管理者権限でログオンしてください。
- MENU → 🔧 3 → [USB LUN設定]を[マルチ]にしてください。
- Windows 7使用時に、デバイスステージが起動しないときは、[コンピュータ]をクリックし、カメラアイコン → メディアアイコン → 「PMHOME.EXE」をダブルクリックしてください。
- すでに「PlayMemories Home」がインストールされている場合でも、本機をパソコンに接続して「PlayMemories Home」に登録してください。使用できる機能が有効になります。
- 「PlayMemories Home」は、Macには対応していません。Macで再生する場合は、Macに搭載されているアプリケーションをご利用ください。
- 2011年以前の機種に付属のソフトウェア「PMB」（Picture Motion Browser）がインストールされている場合、「PlayMemories Home」が上書きインストールされます。「PMB」の機能で使えていた機能の一部はご使用いただけなくなります。

「Image Data Converter」をインストールする

Windows：

1 パソコンの推奨環境を確認する

OS（工場出荷時にインストールされていること）：
Microsoft Windows XP* SP3/Windows Vista SP2/Windows 7 SP1
CPU：
Pentium 4以上

* 64bit版は除きます。

2 以下のURLからソフトウェアをダウンロードしてインストールする

http://www.sony.co.jp/ids-sj/

Mac：

1 パソコンの推奨環境を確認する

OS（工場出荷時にインストールされていること）：
Mac OS X v10.5、v10.6、v10.7、v10.8
CPU：
Intel Core Solo/Core Duo/Core 2 Duoなどのインテルプロセッサー

2 以下のURLからソフトウェアをダウンロードしてインストールする

http://www.sony.co.jp/ids-sj/

ご注意

- コンピューターの管理者権限でログオンしてください。

本機とパソコンを接続する

USB接続方法を設定する

本機をパソコンなどとUSB接続するときの接続方法を設定します。

MENUボタン → 3 → [USB接続] → 希望の設定を選ぶ。

オート	接続するパソコンやその他USB機器に応じて、MTPとマスストレージのどちらで接続するのか自動的に選択される。Windows 7の場合にはMTPで接続され、Windows 7特有の機能が使用できる。
マスストレージ	本機とパソコン、その他USB機器をマスストレージ接続する。
MTP	本機とパソコン、その他USB機器をMTP接続する。Windows 7の場合にはMTPで接続され、Windows 7特有の機能が使用できる。それ以外(Vista/XP、Mac OS X)の場合には自動再生ウィザードが起動し、本機に設定されている記録フォルダー内の静止画をパソコンに取り込む。

ご注意

- [オート]に設定しているときは、接続に時間がかかる場合があります。
- Windows 7接続時にデバイスステージ*が表示されない場合、[オート]に設定してください。

* 接続されたカメラなどを管理できるメニュー画面(Windows 7の機能)です。

USB接続モードを設定する（USB LUN設定）

本機をパソコンなどとUSB接続するときのモードを設定します。

MENUボタン → 3 → ［USB LUN 設定］ → 希望の設定を選ぶ。

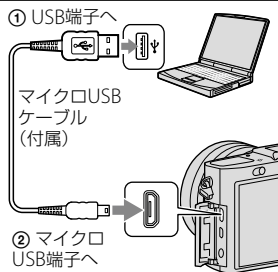
マルチ	本機に内蔵されている「PlayMemories Home」を使用できる。パソコンと接続するときに選ぶ。
シングル	本機に内蔵されている「PlayMemories Home」は使用できない。パソコン以外の機器と接続したときや、［マルチ］でUSB接続できなかった場合に選ぶ。

パソコンと接続する

1 本機とパソコンの電源を入れる。

2 セットアップメニュー 3の［USB接続］が［マスストレージ］になっていることを確認する。

3 本機とパソコンを接続する。

- 初回接続時のみ、パソコンが本機を認識するための作業を自動的に行います。作業が終わるまでお待ちください。

画像を取り込んで見る（Windows）

「PlayMemories Home」を使うと、簡単に画像を取り込めます。
「PlayMemories Home」の機能について詳しくは、「PlayMemories Homeヘルプガイド」をご覧ください。

「PlayMemories Home」を使わずに画像をパソコンに取り込むには

本機とパソコンを接続して自動再生ウィザードが起動したら、[フォルダを開いてファイルを表示] → [OK] → [DCIM]または[MP_ROOT]をクリックして、取り込みたい画像をパソコン内にコピーしてください。

ファイル名について

フォルダー	ファイルの種類	ファイル名
DCIMフォルダー	JPEGファイル	DSC0□□□□.JPG
	JPEGファイル（Adobe RGB）	_DSC□□□□.JPG
	RAWファイル	DSC0□□□□.ARW
	RAWファイル（Adobe RGB）	_DSC□□□□.ARW
MP_ROOTフォルダー	MP4ファイル（1440×1080 12M）	MAH0□□□□.MP4
	MP4ファイル（VGA 3M）	MAQ0□□□□.MP4

- □□□□（ファイル番号）は0001 ～ 9999の半角数字
- [画質]を「RAW+JPEG」で撮影した場合、RAWファイルとJPEGファイル名の数字部分は同じです。

ご注意

- AVCHD動画を取り込むなどの操作は「PlayMemories Home」を使用してください。
- 本機とパソコンを接続した状態で、パソコンから本機のAVCHD動画ファイルやフォルダーを操作した場合、画像ファイルが壊れたり、再生できなくなることがあります。パソコンから本機のメモリーカード上のAVCHD動画を削除したり、コピーをしたりしないでください。このような操作をした結果に対し、当社は責任を負いかねます。

画像を取り込んで見る（Mac）

1 **本機とパソコンを接続したら[デスクトップ画面上の新しく認識されたアイコン]→[取り込みたい画像の入ったフォルダ]の順にダブルクリックする。**

2 **画像ファイルをハードディスクアイコンにドラッグ＆ドロップする。**

ハードディスクに画像ファイルがコピーされる。

3 **[ハードディスクアイコン] → [画像ファイル]の順にダブルクリックする。**

画像が表示される。

Mac用ソフトウェアについて

その他Mac用ソフトウェアの詳細は以下のURLをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/imsoft/Mac/

パソコンとの接続を切断する

以下の操作を行いたいときは、1 ～ 2の手順をあらかじめ行ってください。

- マイクロUSBケーブルを抜く。
- メモリーカードを取り出す。
- 本機の電源を切る。

1 **タスクトレイの切断アイコンをダブルクリックする。**

- Windows 7のときは、 をクリックしてから、 をクリックする。

Windows Vista

16:42

切断アイコン

2 [USB大容量記憶装置を安全に取り外します]をクリックする。

ご注意

- Mac使用時は、あらかじめメモリーカード、またはドライブのアイコンをゴミ箱にドラッグ＆ドロップしてください。パソコンとの接続が切断されます。
- Windows 7使用時は、切断アイコンが出ない場合があります。その場合は前記の手順を行わずに切断できます。
- アクセスランプが点灯しているときは、マイクロUSBケーブルを抜かないでください。データが壊れることがあります。

動画のディスクを作成する

本機に記録したAVCHD動画からディスクを作成することができます。

動画ディスクの作りかたを選ぶ

本機で記録したAVCHD動画からディスクを作成することができます。ディスクの種類によって再生可能な機器が異なります。お使いの再生機器に合わせて、作成するディスクの種類を選択してください。
作成方法は、「PlayMemories Home」を使ってパソコンで作成する方法と、レコーダーなどのパソコン以外の機器を使って作成する方法を紹介します。

ディスクの種類/目的	記録できる動画画質			再生機器
	PS	FX	FH	
Blu-ray ハイビジョン画質（HD）で残したい	○	○	○	ブルーレイディスク再生機器（ソニー製ブルーレイディスクプレーヤー、プレイステーション 3など）
DVD ハイビジョン画質（HD）（AVCHD記録ディスク）で残したい	×*	×*	○	AVCHD規格対応再生機器（ソニー製ブルーレイディスクプレーヤー、プレイステーション 3など）
DVD 標準画質（STD）で記録して残したい	×*	×*	×*	一般的なDVD再生機器（DVDプレーヤー、DVD再生可能なパソコンなど）

* ［記録設定］を［60p 28M(PS)］または［60i 24M(FX)］、［24p 24M(FX)］にして撮影した動画は、「PlayMemories Home」でのAVCHD記録ディスク作成時に変換され、そのままの画質でディスクを作成することはできません。変換には時間がかかります。そのままの画質で保存したいときは、ブルーレイディスクに保存してください（181ページ）。

ハイビジョン画質(HD)の動画を記録したDVD(AVCHD記録ディスク)を作る

「PlayMemories Home」を使って、パソコンに取り込んだAVCHD動画をハイビジョン画質(HD)のAVCHD記録ディスクに作成できます。

1 [PlayMemories Home]を起動して、(ディスク作成)をクリックする。

2 ディスク選択のドロップダウンリストから[AVCHD(HD)]を選ぶ。

3 ディスクに書き込むAVCHD動画を選ぶ。

4 [追加]をクリックする。

- ドラッグ&ドロップでも追加できる。

5 画面の指示に従ってディスクを作成する。

ご注意

- あらかじめ「PlayMemories Home」をインストールしてください。
- 静止画、MP4動画はAVCHD記録ディスクに記録できません。
- ディスク作成には時間がかかることがあります。

AVCHD記録ディスクをパソコンで再生するには

「PlayMemories Home」を使って再生できます。「PlayMemories Home」上でディスクを挿入したDVDドライブを選択して、「Player for AVCHD」をクリックしてください。
詳しくは「PlayMemories Homeヘルプガイド」をご覧ください。

ご注意

- パソコンの環境によっては、動画がなめらかに再生できないことがあります。

ブルーレイディスクを作るには

パソコンに取り込んだAVCHD動画から、ブルーレイディスクを作成できます。
お使いのパソコンがブルーレイディスク作成に対応している必要があります。
ディスクは、BD-R（書き換え不可）、BD-RE（書き換え可）が使えます。追加記録はできません。
ブルーレイディスクを「PlayMemories Home」で作成するには専用のアドオンソフトウェアをインストールする必要があります。詳しくは、以下のURLをご覧ください。
http://support.d-imaging.sony.co.jp/BDUJ/
インストールには、お使いのパソコンをインターネットに接続する必要があります。
詳しい操作方法については「PlayMemories Homeヘルプガイド」をご覧ください。

ご注意

- [60p 28M(PS)]で撮影した動画から「PlayMemories Home」を使って作成したブルーレイディスクは、AVCHD規格 Ver.2.0に対応した機器でのみ再生できます。

標準（STD）画質のディスクを作る

1 [PlayMemories Home]を起動して、（ディスク作成）をクリックする。

2 ディスク選択のドロップダウンリストから[DVD-Video (STD)]を選ぶ。

3 ディスクに書き込むAVCHD動画を選ぶ。

パソコンで見る

4 [追加]をクリックする。

- ドラッグ＆ドロップでも追加できる。

5 画面の指示に従ってディスクを作成する。

ご注意

- あらかじめ「PlayMemories Home」をインストールしてください。
- MP4動画はディスクに記録できません。
- AVCHD動画を標準画質（STD）に変換するため、ディスク作成に時間がかかります。
- DVD-Videoディスクを初めて作成するときは、インターネット接続環境が必要です。

「PlayMemories Home」で使えるディスクの種類について

「PlayMemories Home」では以下の12 cmのディスクを使えます。
ブルーレイディスクについては、181ページをご覧ください。

ディスクの種類	特徴
DVD-R / DVD＋R / DVD＋R DL	書き換えできない。
DVD-RW / DVD＋RW	書き換えて再利用できる。

- 「プレイステーション 3」のシステムソフトウェアは常に最新版にアップデートしてお使いください。アップデートの詳細は、株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントのウェブサイトをご覧ください。
  http://www.jp.playstation.com/ps3/update/

パソコン以外の機器で動画ディスクを作成する

ブルーレイレコーダーなどでもディスクを作成することができます。機器によって作成できるディスクの種類が異なります。

使用する機器		作成できるディスクの種類	
	ブルーレイレコーダーを使ってブルーレイディスクや標準画質(STD)のディスクを作成する。	Blu-ray ハイビジョン画質(HD)	DVD 標準画質(STD)
	HDDレコーダーなどを使って標準画質(STD)のディスクを作成する。	DVD 標準画質(STD)	

ご注意

- 作成方法の詳細は、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。
- [60p 28M(PS)]で撮影した動画からブルーレイディスクを作成するには、AVCHD規格Ver.2.0に対応した機器が必要です。また、作成したブルーレイディスクを再生するには、AVCHD規格Ver.2.0に対応した機器が必要です。

困ったときは

困ったときは、下記の流れに従ってください。

❶ 184 ～ 191ページの項目をチェックし、本機を点検する。

❷ バッテリーを取りはずし、約1分後再びバッテリーを入れ、本機の電源を入れる。

❸ 設定リセットをする（166ページ）。

❹ サイバーショットオフィシャルWEBサイトで確認する。

http://www.sony.co.jp/cyber-shot/support/

❺ ソニーの相談窓口に電話で問い合わせる（裏表紙）。

バッテリー・電源

本機にバッテリーを入れられない。

- バッテリーの向きを確認し、ロックレバーがロックするまで挿入してください（42ページ）。

バッテリーの残量表示が正しくない。またはバッテリー残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる。電源が入らない。

- 温度が極端に高いまたは低いところで使用しているときの現象です（195ページ）。
- バッテリーは使わなくても自然放電で少しずつ消耗します。充電をしてからお使いください。
- バッテリーの寿命です（203ページ）。新しいバッテリーと交換してください。
- バッテリーが正しく取り付けられているか確認してください（42ページ）。
- NP-BX1タイプのバッテリーかご確認ください。

電源が切れる。

- 操作しない状態が一定時間続くと、省電力設定（パワーセーブ）になります。シャッターボタンを半押しするなどの操作をすれば、パワーセーブは解除されます（158ページ）。

撮影する

電源を入れても液晶モニターがつかない。

- 操作しない状態が一定時間続くと、パワーセーブモードになり、ほぼ電源オフに近い状態になります。シャッターボタンを半押しするなどの操作をすれば、パワーセーブは解除されます（158ページ）。

シャッターが切れない。

- 書き込み禁止スイッチまたは誤消去防止スイッチのあるメモリーカードを使用し、スイッチが「LOCK」になっています。解除してください。
- メモリーカードの空き容量を確認してください。

撮影に時間がかかる。

- ノイズ軽減処理機能が働いています（130ページ）。故障ではありません。
- RAWモードで撮影しています（118ページ）。RAWモードでの撮影はデータ量が大きいため、撮影に多少時間がかかる場合があります。
- オートHDR処理中です（105ページ）。

同じ画像が数枚撮影される。

- ドライブモードが連続撮影、またはブラケット撮影になっています。[1枚撮影] にしてください（93ページ）。

ピント（フォーカス）が合わない。

- 被写体が近すぎます。
- マニュアルフォーカスになっています。フォーカスモードダイヤルをAF（オートフォーカス）にしてください（78ページ）。
- 光量が不足しています。
- マクロ切り換えリングの位置が正しくありません。マクロ切り換え指標に、「0,3m-∞」（通常撮影）または「0,2m-0,35m」（マクロ撮影）の指標を合わせてください。

正しい撮影日時が記録されない。

- 日付・時刻を合わせてください(50ページ)。
- エリア設定で現在地と異なる場所が設定されています。
  [エリア設定]を設定し直してください(50ページ)。

シャッターボタンを半押しすると絞り値、シャッタースピードが点滅する。

- 被写体が明るすぎる、または暗すぎるため、本機の調整の範囲を超えています。設定し直してください。

画像が白っぽくなる(フレア)。
光のにじみが現れる(ゴースト)。

- 逆光で撮影したため、レンズに余分な光が入っています。レンズフード(別売)を取り付けてください。

画像の隅が暗くなる。

- フィルターやフードをご使用の場合は、いったん取りはずしてお試しください。フィルターの厚みやフードの不適切な取り付けにより、画像にフィルターやフードが写り込むことがあります。また、レンズの光学的な特性により、画像周辺部が暗く写る場合(光量低下)があります。

被写体の目が赤く写る。

- 赤目軽減モードにしてください(33ページ)。
- 被写体に近づいてフラッシュ調光距離内で撮影してください。「主な仕様」のフラッシュ光の届く範囲をご覧ください。

液晶モニターに点が現れて消えない。

- 故障ではありません。これらの点は記録されません(13ページ)。

画像がブレる。

- 暗いところでフラッシュを使わずに撮影したので、手ブレを起こしています。シャッタースピードが遅くなるので、三脚またはフラッシュの使用をおすすめします(98ページ)。

液晶モニター /ファインダー内の測光インジケーター ◀▶が点滅する。

- 被写体が明るすぎる、または暗すぎて、本機の測光範囲を超えています。

音声が正しく記録されない。

- [音声記録](139ページ)が[切]のときは、音声は記録されません。設定を[入]にしてください。

画像を見る

再生できない。

- パソコンでフォルダー/ファイルの名前を変更したためです(176ページ)。
- パソコンで画像を加工したファイルや、本機以外で撮影した画像は本機での再生は保証いたしません。
- パソコン内の画像を本機で再生するには「PlayMemories Home」を使って画像をコピーしてください。
- USBモードになっています。USB接続を終了してください(177ページ)。

画像を削除する

削除できない。

- 画像のプロテクトを解除してください(147ページ)。

誤って消してしまった。

- 一度削除した画像は元に戻せません。誤消去を防止したい画像には、あらかじめプロテクトをかけてください(147ページ)。

パソコン

対応しているOSがわからない。

- 「パソコンの推奨環境」を確認してください(170ページ)。

本機がパソコンに認識されない。

- 本機の電源が入っているか確認してください。
- 接続には、付属のマイクロUSBケーブルを使ってください(175ページ)。
- 一度パソコンと本機からマイクロUSBケーブルを抜いて再びしっかりと差し込んでください。
- パソコンのUSB端子に、本機/キーボード/マウス以外の機器が接続されているときは、取りはずしてください。
- USBハブ経由などでなく、本機とパソコンを直接接続してください(175ページ)。

画像をコピーできない。

- 本機とパソコンを正しくUSB接続してください(175ページ)。
- OSに対応した手順でコピーしてください(176、177ページ)。
- パソコンでフォーマットしたメモリーカードで撮影した場合、画像をパソコンへコピーできないことがあります。本機でフォーマットしたメモリーカードで撮影してください(161ページ)。

画像を再生できない。

- 「PlayMemories Home」をお使いの場合は、「PlayMemories Homeヘルプガイド」をご覧ください。
- パソコンメーカーまたはソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

USB接続をしたときに「PlayMemories Home」が自動起動しない。

- パソコンの電源を入れた状態でUSB接続をしてください(175ページ)。

メモリーカード

本機に入らない。

- メモリーカードを入れる向きが違っています。正しい向きにして入れてください(47ページ)。

記録できない。

- メモリーカードの容量がいっぱいになっています。不要な画像を削除してください(56、150ページ)。
- 本機では使えないメモリーカードが入っています(199ページ)。

誤ってフォーマットしてしまった。

- フォーマットすると、メモリーカード内のデータはすべて削除され、元に戻せません。

プリントする

プリントできない。

- RAW画像はプリントできません。RAW画像をプリントするには、「Image Data Converter」でJPEG画像に変換してください。

画像の色合いがおかしい。

- Adobe RGBで撮影した画像を、Adobe RGB(DCF2.0/Exif2.21)に対応していないsRGB環境下のプリンターで印刷すると、低彩度な画像になります(132ページ)。

両端が切れてプリントされる。

- プリンターによっては、画像の上下左右が切れることがあります。特に横縦比が[16:9]のときは、左右が大きく切れることがあります。
- お手持ちのプリンターでプリントする場合は、あらかじめトリミングやふちなしプリント機能を解除しておいてください。機能の有無は、プリンターのメーカーにお問い合わせください。
- お店でプリントする場合は、画像の両端が切れないようにプリントできるかどうか、あらかじめお店にお問い合わせください。

日付を入れてプリントできない。

- 「PlayMemories Home」を使ってプリントすると日付挿入ができます(169ページ)。
- お店でプリントするときは、日付挿入を希望すれば、日付を入れてプリントできます。

その他

レンズがくもる。

- 結露しています。電源を切って約1時間そのままにしてから使用してください(195ページ)。

電源を入れると、「エリア/日付/時刻を設定してください」というメッセージが表示される。

- バッテリーが消耗したまま、または本機のバッテリーを取り出したまま放置したため、日時の設定が失われました。バッテリーを充電して、日時を再設定してください(50、195ページ)。バッテリー充電のたびにリセットされる場合は、内蔵充電式バックアップ電池が消耗している場合があるため、ソニーの相談窓口にお問い合わせください。

撮影残り画像数が減らなかったり、一度に2枚減ったりする。

- JPEG画像の場合、画像によって圧縮率や圧縮後のファイルサイズが変わるためです(118ページ)。

リセット操作をしていないのに、設定内容がリセットされる。

- 電源スイッチが「ON」のままバッテリーを取り出しました。バッテリーを取り出すときは、電源スイッチを「OFF」にして、アクセスランプが点灯していないのを確かめてから取り出してください(19ページ)。

本機が正常に作動しない。

- 本機の電源を切ってバッテリーを一度取り出し、入れ直してください。温度が上がっているときには、いったんバッテリーを取りはずし、本機の温度が下がってからこれらの処置を行ってください。
- ACアダプター使用時は、一度コードを抜いて、電源を入れ直してください。それでも直らない場合や何度も繰り返す場合は故障ですので、お買い上げ店またはソニーの相談窓口にお問い合わせください。

画面に「--E-」が表示される。

- メモリーカードを一度取り出し、入れ直してください。それでも直らない場合は、メモリーカードをフォーマットしてください。

警告表示

モニターには、次のような表示が出ることがあります。

エリア/日付/時刻を設定してください

- エリアと日付、時刻を設定してください。長時間使用していない場合は内蔵の充電式バックアップ電池を充電してください。

このメモリーカードは使えません フォーマットしますか？

- パソコンでフォーマットを行ったため、ファイルシステムが変更されています。[実行] を選んでフォーマットを行ってください。本機で使用できるようになりますが、カード内のデータはすべて削除されます。また、フォーマットに多少時間がかかることがあります。それでもメッセージが出る場合は、カードを交換してください。

メモリーカードエラー

- 本機では使えないカードが入っています。
- フォーマットに失敗しています。再度フォーマットを実行してください。

メモリーカードを入れ直してください

- 本機では使えないメモリーカードが入っています。
- メモリーカードが壊れています。
- メモリーカード端子が汚れています。

メモリーカードがロックされています

- 書き込み禁止スイッチまたは誤消去防止スイッチのあるメモリーカードを使用し、スイッチが「LOCK」になっています。解除してください。

ノイズリダクション実行中

- 長秒時ノイズリダクション、高感度ノイズリダクションが機能した場合、シャッターが開いていた時間分だけ、ノイズ軽減処理を行います。この間は次の撮影はできません。

表示できない画像です

- 他のカメラで撮影した画像や、パソコンで画像を加工した場合は表示できないことがあります。

DPOF指定できません

- RAW画像をDPOF指定しようとしています。

しばらく使用できません カメラの温度が下がるまでお待ちください

- 連続撮影したため、本機の温度が上がっています。本機の電源を切って、本機の温度が下がり再び撮影可能になるのを待ってから撮影してください。

[!]

- 長時間撮影したため、本機の温度が上がっています。撮影を終了してください。

この動画記録方式では撮影できません

- [記録方式]を[MP4]にしてください。

FULL

- 本機で日付を管理できる枚数を超えています。

ERROR

- 本機の管理ファイルへの記録ができません。「PlayMemories Home」で、すべての画像をパソコンに取り込み、メモリーカードを修復してください。

カメラエラー
システムエラー

- バッテリーを一度取り出し、入れ直してください。何度も繰り返す場合はソニーの相談窓口にお問い合わせください。

管理ファイルに不整合が見つかりました
修復しますか？

- 管理ファイルが破損しているため、AVCHD動画の撮影、再生ができません。画面の指示に従い修復してください。

拡大できません
回転できない画像です

- 他のカメラで撮影した画像は、拡大/回転できないことがあります。

これ以上フォルダー作成できません

- 上3桁の番号が「999」のフォルダーがメモリーカード内にあります。本機でこれ以上のフォルダーを作成できません。

MACRO（点滅）

- マクロ切り換え指標が「0,3m-∞」（通常撮影）と「0,2m-0,35m」（マクロ撮影）の中間にあるとき、MACROが点滅します。マクロ切り換えリングを回して、指標をどちらかに合わせてください。

本体のお手入れ

カメラ本体の清掃

- 本体表面の清掃は、水やぬるま湯を少し含ませた柔らかい布で軽く拭いたあと、からぶきします。本機の表面が変質したり塗装がはげたりすることがあるので、以下はご使用にならないでください。
  - シンナー、ベンジン、アルコール、化学ぞうきん、虫除け、日焼け止め、殺虫剤のような化学薬品類
  - 上記が手についたまま本機を扱うこと
  - ゴムやビニール製品との長時間の接触

レンズの清掃

- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。
- レンズ面を清掃するときは、市販のブロアーでほこりなどを取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーを染み込ませ、レンズの中央から円を描くように軽くふいてください。レンズクリーナーを直接レンズ面にかけないでください。

使用上のご注意

使用/保管してはいけない場所

- 異常に高温、低温、または多湿になる場所
  炎天下や夏場の窓を閉め切った自動車内は特に高温になり、放置すると変形したり、故障したりすることがあります。
- 直射日光の当たる場所、熱器具の近くでの保管。
  変色したり、変形したり、故障したりすることがあります。
- 激しい振動のある場所
- 強力な磁気のある場所
- 砂地、砂浜などの砂ぼこりの多い場所
  海辺や砂地、あるいは砂ぼこりが起こる場所などでは、砂がかからないようにしてください。故障の原因になるばかりか、修理できなくなることもあります。
- 湿度の高い場所
  レンズにカビが発生することがあります。

動作温度にご注意ください

本機の動作温度は約0℃～ 40℃です。動作温度範囲を超える極端に寒い場所や暑い場所での撮影はおすすめできません。

結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の内部や外部に水滴が付くことです。この状態でお使いになると、故障の原因になります。

結露を起こりにくくするために

本機を寒いところから急に暖かいところに持ち込むときは、ビニール袋に本機を入れて、空気が入らないように密閉してください。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

結露が起きたときは

電源を切って結露がなくなるまで約1時間放置し、結露がなくなってからお使いください。特にレンズの内側に付いた結露が残ったまま撮影すると、きれいな画像を記録できませんのでご注意ください。

内蔵の充電式バックアップ電池について

本機は日時や各種の設定を電源の入/切に関係なく保持するために充電式バックアップ電池を内蔵しています。充電式バックアップ電池は本機を使用している限り常に充電されていますが、使う時間が短いと徐々に放電し3か月程度まったく使わないと完全に放電してしまいます。充電してから使用してください。ただし、充電式バックアップ電池が充電されていない場合でも、日時を記録しないのであれば本機を使うことができます。バッテリー充電のたびにリセットされる場合は、内蔵充電式バックアップ電池が消耗している場合があります。ソニーの相談窓口にお問い合わせください（裏表紙）。

内蔵の充電式バックアップ電池の充電方法

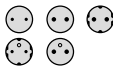
ACアダプターを使ってコンセントにつないで、本機の電源を切ったまま24時間以上放置する。

アクセサリーについてのご注意

本機には、カメラの特性に適合するように設計されたソニー製アクセサリーのご使用をおすすめします。他社製品と組み合わせて使用した際の性能や、それによって生じた事故、故障につきましては保証いたしかねますので、あらかじめご了承ください。

メモリーカードについて

メモリーカードおよびカードアダプターにラベルなどを貼らないでください。故障の原因になります。

メモリーカードを廃棄/譲渡するときのご注意

本機やパソコンの機能による[フォーマット]や[削除]では、メモリーカード内のデータは完全には消去されないことがあります。メモリーカードを譲渡するときは、パソコンのデータ消去専用ソフトなどを使ってデータを完全に消去することをおすすめします。また、メモリーカードを廃棄するときは、メモリーカード本体を物理的に破壊することをおすすめします。

本体を廃棄/譲渡するときのご注意

本機を廃棄、譲渡する前に、個人情報保護の観点から、個人顔登録の削除をおすすめします(122ページ)。

海外で使用するには

ACアダプター（付属）は全世界（AC100V ～ 240V・50/60Hz）で使えます。ただし、地域によってはコンセントに差し込むための変換プラグアダプターが必要になる場合があります。あらかじめ旅行代理店などでおたずねのうえ、ご用意ください。

コンセント形状例		
地域	主に北米	主にヨーロッパ
変換プラグアダプター	不要	必要

ご注意

- 電子式変圧器（トラベルコンバーター）は不要です。故障の原因となるので使わないでください。

海外のテレビで見る（カラーテレビ出力方式）

本機で撮影した画像をテレビで見るときは、本機と同じカラーテレビ方式（NTSC）のテレビが必要です。

NTSC方式

日本、アメリカ、エクアドル、カナダ、韓国、コロンビア、ジャマイカ、スリナム、台湾、中央アメリカ、チリ、バハマ、フィリピン、ベネズエラ、ペルー、ボリビア、メキシコ、など

PAL方式

イギリス、イタリア、インドネシア、オーストラリア、オーストリア、オランダ、クウェート、クロアチア、シンガポール、スウェーデン、スイス、スペイン、スロバキア、タイ、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、ニュージーランド、ノルウェー、ハンガリー、フィンランド、ベトナム、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マレーシア、ルーマニア、など

PAL-M方式

ブラジル

PAL-N方式

アルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイ

SECAM方式

イラク、イラン、ウクライナ、ギリシャ、フランス領ギアナ、フランス、ブルガリア、モナコ、ロシア、など

AVCHD規格について

「AVCHD」規格は、高効率の圧縮符号化技術を用いて、1080i方式*1や720p方式*2のHD（ハイビジョン）信号を記録するハイビジョンデジタルビデオカメラ用に開発された規格です。映像圧縮にはMPEG-4 AVC/H.264方式を、音声にはドルビーデジタル方式、または、リニアPCM方式を採用しています。
MPEG-4 AVC/H.264方式は、従来の画像圧縮方式に比べ、さらに高い圧縮効率を持った優れた方式です。この方式により、8cmDVDディスク、ハードディスクドライブ、フラッシュメモリ、メモリーカードなどにデジタルビデオカメラの高画質なハイビジョン映像信号を記録することができます。

本機での記録・再生について

本機ではAVCHD規格に基づき、以下の仕様でHD（ハイビジョン）記録ができます。
映像*3：MPEG-4 AVC/H.264　1920×1080/60i、1920×1080/60p、1920×1080/24p
音声：ドルビーデジタル2ch
記録メディア：メモリーカード

*1 1080i 有効走査線数1080本、インターレース方式のハイビジョン規格
*2 720p 有効走査線数720本、プログレッシブ方式のハイビジョン規格
*3 本機は、上記以外のAVCHD規格で記録されたデータの再生には対応していません。

メモリーカードについて

メモリーカード使用上のご注意

- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 以下のような場所でのご使用や保管は避けてください。
  - 高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所
  - 直射日光のあたる場所
  - 湿気の多い場所や腐食性のものがある場所
- 長時間使用した直後のメモリーカードは熱くなっています。ご注意ください。
- アクセスランプ点灯中は、絶対にメモリーカードを取り出したり、バッテリーを取りはずしたり、電源を切らないでください。データが壊れることがあります。
- 強い磁気のそばにメモリーカードを近づけたり、静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合、データが壊れることがあります。
- 大切なデータは、パソコンのハードディスクなどにバックアップを取っておくことをおすすめします。
- メモリーカードの持ち運びや保管の際は、付属の収納ケースに入れてください。
- 水にぬらさないでください。
- 端子部には手や金属で触れないでください。
- 書き込み禁止スイッチや誤消去防止スイッチが「LOCK」になっていると画像の記録や消去などができなくなります。この場合はロックを解除してください。
- パソコンでフォーマットしたメモリーカードは、本機での動作を保証しません。本機でフォーマットしてください。
- お使いのメモリーカードと機器の組み合わせによっては、データの読み込み/書き込み速度が異なります。
- メモエリアに書き込むときは、あまり強い圧力をかけないでください。
- メモリーカード本体にラベルなどを貼らないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 小さいお子さまの手の届くところに置かないようにしてください。誤って飲みこむおそれがあります。

本機で使用できる"メモリースティック"についてのご注意

本機で使用できるものは下記のとおりです。ただし、すべての"メモリースティック"の動作を保証するものではありません。

"メモリースティック"の種類	記録・再生
メモリースティック デュオ（マジックゲート非対応）	○*1
メモリースティック デュオ（マジックゲート対応）	○*2

“メモリースティック”の種類	記録・再生
マジックゲートメモリースティック デュオ	○*1*2
メモリースティック PRO デュオ	○*2*3
メモリースティック PRO-HG デュオ	○*2*3
メモリースティック マイクロ(M2)	○*2
メモリースティック マイクロ(Mark2)	○*2*3

*1 パラレルインターフェースを利用した高速データ転送に対応していません。
*2 マジックゲート搭載の“メモリースティック デュオ”、“メモリースティック マイクロ”です。“マジックゲート”とは暗号化技術を使って著作権を保護する技術です。本機ではマジックゲート機能が必要なデータの記録/再生はできません。
*3 AVCHD動画、[1440×1080 12M]動画は、“メモリースティック PRO デュオ”、“メモリースティックPRO-HG デュオ”、“メモリースティック マイクロ(Mark2)”以外の“メモリースティック”には記録できません。

- 使用可能な“メモリースティック”についての最新情報は、ホームページ上の「“メモリースティック”対応表」をご確認ください。
  http://www.sony.co.jp/mstaiou/
- “メモリースティック マイクロ”、microSD メモリーカードを本機でお使いの場合は、必ず専用のアダプターに入れてお使いください。
- SDXCメモリーカードに記録した映像は、exFATに対応していないパソコンやAV機器などに、本機とマイクロUSBケーブルで接続して取り込んだり再生することはできません。接続する機器がexFATに対応しているかを事前にご確認ください。対応していない機器に接続した場合、フォーマット(初期化)を促す表示がされる場合がありますが、決して実行しないでください。内容が全て失われます。(exFATは、SDXCメモリーカードで使用されているファイルシステムです。)

“メモリースティック マイクロ”(別売)使用上のご注意

- 本製品は“メモリースティック マイクロ”(“M2”)に対応しています。“M2”は“メモリースティック マイクロ”の略称です。
- “メモリースティック マイクロ”を本機でお使いの場合は、必ず“メモリースティック マイクロ”をデュオサイズのM2アダプターに入れてからお使いください。デュオサイズのM2アダプターに装着されていない状態で挿入すると、“メモリースティック マイクロ”が取り出せなくなる可能性があります。
- “メモリースティック マイクロ”は小さいお子さまの手の届くところに置かないようにしてください。誤って飲み込むおそれがあります。

Eye-Fiカードについて

Eye-Fiカードはアメリカ、カナダ、日本、EUの一部の国で販売しています。
（2012年6月現在）

- Eye-Fiカードに関するお問い合わせは、その製造者・販売者に直接ご確認ください。
- Eye-Fiカードはご購入された国のみで使用が認められています。使用する国の法律に従ってお使いください。

充電について

- 付属のACアダプターは本機専用です。故障のおそれがあるため、他の電子機器に接続して使用しないでください。また、必ずソニー製純正のACアダプターを使用してください。
- 充電中に本機の充電ランプが点滅した場合はバッテリーを取りはずし、もう一度同じバッテリーを本機に入れてください。再びランプが点滅した場合はバッテリーの異常、または指定以外のバッテリーが挿入されている可能性があります。指定のバッテリーかどうか確認してください。
  指定のバッテリーを入れている場合は、バッテリーを取りはずし、新品のバッテリーなど別のバッテリーを挿入して充電が正常に行われるか確認してください。充電が正常に行われる場合は、バッテリーの異常が考えられます。
- ACアダプターを本機とコンセントに接続しても充電ランプが点滅する場合は、充電に適した温度範囲外にあるため、充電の一時待機状態になっています。充電に適した温度範囲に戻れば充電を再開しランプも点灯します。バッテリーの充電は周囲温度が10℃～30℃の環境で行うことをおすすめします。

バッテリーについて

バッテリーの充電について

周囲の温度が10℃～30℃の環境で充電してください。これ以外では、効率のよい充電ができないことがあります。

バッテリーの上手な使いかた

- 周囲の温度が低いとバッテリーの性能が低下するため、使用できる時間が短くなります。より長い時間ご使用いただくために、バッテリーをポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前、本機に取り付けることをおすすめします。
- フラッシュ撮影を頻繁にすると、バッテリーの消費が早くなります。
- 撮影には予定撮影時間の2～3倍の予備バッテリーを準備して、事前に試し撮りをしてください。
- バッテリーは防水構造ではありません。水などにぬらさないようにご注意ください。
- 高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所に放置しないでください。
- バッテリーの端子部が汚れると、電源が入らなかったり、充電ができないなどの症状が出る場合があります。このような場合は柔らかい布や綿棒などで軽く拭いて汚れを落としてください。

バッテリーの保管方法について

- バッテリーを長時間使用しない場合でも、機能を維持するために、1年に1回程度充電して本機で使い切り、その後本機を湿度の低い涼しい場所で保管してください。
- 本機でバッテリーを使い切るには、スライドショー（143ページ）を再生して、電源が切れるまでそのままにしてください。

- 本機から取り出したバッテリーは、接点汚れ、ショート等を防止するため、携帯、保管時は必ずポリ袋などに入れて金属から離してください。

バッテリーの寿命について

- バッテリーには寿命があります。使用回数を重ねたり、時間が経過するにつれバッテリーの容量は少しずつ低下します。使用できる時間が大幅に短くなった場合は、寿命と思われますので新しいものをお買い上げください。
- 寿命は、保管方法、使用状況や環境によってバッテリーごとに異なります。

対応バッテリーについて

NP-BX1（付属）は、Xタイプに対応したサイバーショットにのみ使用できます。

ライセンスについて

ライセンスに関する注意

本製品には、弊社がその著作権者とのライセンス契約に基づき使用しているソフトウェアが搭載されております。当該ソフトウェアの著作権者様の要求に基づき、弊社はこれらの内容をお客様に通知する義務があります。
ライセンス内容(英文)に関しては、本機の内蔵メモリー内に記録されています。本機とパソコンをマスストレージ接続し、「PMHOME」–「LICENSE」内にあるファイルをご一読ください。

本製品は、MPEG LA, LLC.がライセンス活動を行っているAVC PATENT PORTFOLIOLICENSEの下、次の用途に限りライセンスされています：
（i）消費者が個人的、非営利の使用目的で、MPEG-4 AVC規格に合致したビデオ信号（以下、AVC VIDEOといいます）にエンコードすること。
（ii）AVC Video（消費者が個人的に非営利目的でエンコードしたもの、若しくはMPEGLAよりライセンスを取得したプロバイダーがエンコードしたものに限られます）をデコードすること。なお、その他の用途に関してはライセンスされていません。プロモーション、商業的に利用することに関する詳細な情報につきましては、MPEG LA, LLC.のホームページをご参照ください。

GNU GPL/LGPL適用ソフトウェアに関するお知らせ

本製品には、以下のGNU General Public License（以下「GPL」とします）または、GNU Lesser General Public License（以下「LGPL」とします）の適用を受けるソフトウェアが含まれております。お客様は添付のGPL/LGPLの条件に従いこれらのソフトウェアのソースコードの入手、改変、再配布の権利があることをお知らせいたします。
ソースコードは、Webで提供しております。
ダウンロードする際には、以下のURLにアクセスしてください。
http://www.sony.net/Products/Linux/
なお、ソースコードの中身についてのお問い合わせはご遠慮ください。

ライセンス内容(英文)に関しては、本機の内蔵メモリー内に記録されています。本機とパソコンをマスストレージ接続し、「PMHOME」–「LICENSE」内にあるファイルをご一読ください。

保証書とアフターサービス

必ずお読みください

記録内容の補償はできません

万一、デジタルスチルカメラやメモリーカードなどの不具合などにより記録や再生されなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。

保証書は国内に限られています

このデジタルスチルカメラは国内仕様です。外国で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

"困ったときは"の項を参考にして故障かどうかお調べください。それでも具合の悪いときはソニーの相談窓口にご相談ください(裏表紙)。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

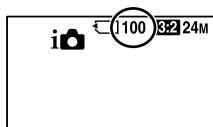
部品の交換について

この商品は修理の際、交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

部品の保有期間について

当社はデジタルスチルカメラの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を製造打ち切り後5年間保有しています。
ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

撮影可能枚数/時間を確認する

メモリーカードを入れて電源スイッチを「ON」にすると、画面に、撮影可能枚数（現在の設定で撮影を続けると、あと何枚撮影できるか）が表示されます。

ご注意

- 撮影可能枚数が「0」で黄色く点滅したときは、メモリーカードの容量がいっぱいです。メモリーカードを交換するか、メモリーカード内の画像を削除してください（56、150ページ）。
- 撮影可能枚数が「NO CARD」で黄色く点滅したときは、メモリーカードが入っていません。メモリーカードを入れてください。

メモリーカードで撮影できる枚数

本機でフォーマットしたメモリーカードに記録できる撮影枚数の目安は次のとおりです。当社試験基準メモリーカード使用時の枚数です。撮影状況および使用するメモリーカードによって記録可能枚数は異なります。

画像サイズ：L 24M
横縦比3：2のとき*
本機でフォーマットしたメモリーカード　（単位：枚）

画質 ＼ 容量	2GB	4GB	8GB	16GB	32GB	64GB
スタンダード	280	560	1100	2250	4600	9200
ファイン	195	395	800	1600	3200	6400
エクストラファイン	105	215	435	870	1750	3500
RAW＋JPEG	54	105	215	435	870	1750
RAW	74	145	295	600	1200	2400

* [横縦比]を[3:2]以外に設定しているときは、上記の枚数より多く記録できます(RAW設定時はのぞく)。

1つのバッテリーで撮影できる枚数

使用状況によって撮影可能枚数は異なります。

	使用時間	枚数
静止画撮影 ([モニター表示画質][高画質]設定時)	約110分	約220枚
静止画撮影 ([モニター表示画質][標準]設定時)	約135分	約270枚
静止画再生	約230分	約4600枚
実動画撮影	約30分	—
連続動画撮影	約60分	—

ご注意

- 撮影枚数は満充電された状態での目安の枚数です。使用方法で枚数は減少する場合があります。
- 撮影可能枚数は、以下の条件で撮影した場合です。
  – 当社製の"メモリースティック PRO デュオ" (Mark2) (別売)を使用
  – 温度25℃の環境
- 静止画撮影時の数値は、CIPA規格により、以下の条件で撮影した場合です。(CIPA:カメラ映像機器工業会、Camera & Imaging Products Association)
  – [画質]:[ファイン]
  – フォーカスモードダイヤル:AF(オートフォーカス)
  – DISP:[全情報表示]
  – 30秒ごとに1回撮影
  – 2回に一度、フラッシュを発光する。
  – 10回に一度、電源を入/切する。
- 動画撮影時の数値は、CIPA規格により、以下の条件で撮影した場合です。
  – 記録設定:60i 17M(FH)
  – 実動画撮影:撮影、ズーム、撮影スタンバイ、電源の入/切を繰り返したときの撮影時間の目安。
  – 連続動画撮影:連続撮影の制限(29分)により撮影が終了したときは、再度MOVIE (動画)ボタンを押して撮影を続ける。ズームなどその他の操作はしない。

動画の記録可能時間

本機でフォーマットしたメモリーカードに記録できる、動画ファイルの合計記録時間の目安です。

本機でフォーマットしたメモリーカード

容量 / 記録方式 サイズ	2GB	4GB	8GB	16GB	32GB	64GB
AVCHD 60i 24M(FX)	10分	20分	40分	1時間30分	3時間	6時間
AVCHD 60i 17M(FH)	10分	30分	1時間	2時間	4時間5分	8時間15分
AVCHD 60p 28M(PS)	9分	15分	35分	1時間15分	2時間30分	5時間5分
AVCHD 24p 24M(FX)	10分	20分	40分	1時間30分	3時間	6時間
AVCHD 24p 17M(FH)	10分	30分	1時間	2時間	4時間5分	8時間15分
MP4 1440×1080 12M	15分	40分	1時間20分	2時間45分	5時間30分	11時間5分
MP4 VGA 3M	1時間10分	2時間25分	4時間55分	9時間55分	20時間	40時間10分

- 連続撮影可能時間は1回の撮影で約29分です（商品仕様による制限）。MP4 12Mの連続で撮影できる時間は約15分です（ファイルサイズ2GBによる制限）。

ご注意

- 撮影シーンに合わせて動画の画質を自動調節するVBR（Variable Bit Rate）方式を採用しているため記録時間が変動します。動きの速い映像を記録する場合、メモリーの容量を多めに使用してより鮮明な画像を記録しますが、その分記録時間は短くなります。また、撮影環境や被写体の状態、画質/画像サイズの設定によっても記録時間は変動します。
- 表の数値は連続撮影時間ではありません。
- 撮影環境や使用するメモリーカードによって記録時間が異なる場合があります。

- [!] が表示された場合は動画撮影を終了してください。本機の温度が上がっています。
- 動画の再生については55ページをご覧ください。

動画の連続撮影についてのご注意

- イメージセンサーを使った高精彩な動画や高速で連写を行うには多くの電力を必要とします。そのため連続して撮影し続けることでカメラ内部、特にイメージセンサーの温度が上昇します。温度の上昇は画質への影響やカメラ内部に対して負荷が生じるので自動的に電源が切れる仕様となっています。
- 連続動画撮影時間は温度環境や動画撮影前の使用状況により変動します。カメラの電源を入れ、構図確認や静止画撮影を繰り返し使用していた場合には、カメラ内部の温度が上昇しますので、動画撮影時間は短くなります。
- 温度の上昇により動画撮影が停止した場合、電源を切ったまま数分間放置し、カメラの温度が下がってから撮影を再開してください。
- 以下の点に気を付けると、より長く動画を撮影することができます。
  - できるだけ直射日光を避ける
  - 使用しないときはこまめに電源を切る
- 1つの動画ファイルは約2GBで制限されます。連続記録中のファイルサイズが約2GBになると、[記録方式]が[MP4]の場合は、自動的に記録が止まり、[記録方式]が[AVCHD]の場合は、自動的に新しいファイルが作成されます。
- 動画の連続撮影は最長でも約29分で停止します。

主な仕様

本体

[システム]

撮像素子：35mmフルサイズ
（35.8 mm×23.9 mm）、
Exmor CMOSイメージセンサー
総画素数：約2470万画素
カメラ有効画素数：約2430万画素
レンズ：
カール ツァイス ゾナー T*
35mm単焦点レンズ
f=35 mm、F2.0
動画撮影時（16：9）：
［手ブレ補正］が［切］：37 mm
［手ブレ補正］が［入］：44 mm
動画撮影時（4：3）：
［手ブレ補正］が［切］：45 mm
［手ブレ補正］が［入］：48 mm
最短撮影距離*[1]：
マクロ切り換えリングが
「0,3m-∞」：0.3 m
マクロ切り換えリングが
「0,2m-0,35m」：0.2 m
*[1] 最短撮影距離とはイメージセンサー位置表示から被写体までの距離を表します。
最大撮影倍率：
マクロ切り換えリングが
「0,3m-∞」：0.15倍
マクロ切り換えリングが
「0,2m-0,35m」：0.26倍
最小絞り：F22
フィルター径：49 mm
手ブレ補正：電子式（動画時のみ）
露出制御：自動、絞り優先、シャッタースピード優先、マニュアル露出、シーンセレクション（7モード）
ホワイトバランス：オート/太陽光/日陰/曇天/電球/蛍光灯（温白色/白色/昼白色/昼光色）/
フラッシュ /色温度・
カラーフィルター /カスタム
信号方式：NTSCカラー、EIA標準方式
記録方式：
静止画記録方式：
JPEG（DCF、Exif、MPF Baseline）準拠、DPOF対応
動画記録方式（AVCHD方式）：
AVCHD規格 Ver.2.0準拠
映像：MPEG-4 AVC/H.264
音声：Dolby Digital 2ch
ドルビーデジタルステレオクリエーター搭載
- ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。

動画記録方式（MP4方式）：
映像：MPEG-4 AVC/H.264
音声：MPEG-4 AAC-LC 2ch
記録メディア：
"メモリースティック デュオ"、
"メモリースティック マイクロ"、
SDカード、microSD メモリーカード
フラッシュ：撮影範囲（ISO感度（推奨露光指数）がオートのとき）
約0.75 m～ 21.7 m

[入出力端子]

HDMI端子：HDMIマイクロ端子
マイクロUSB端子：USB通信
MIC（マイク）端子：ø3.5 mmステレオミニジャック
USB通信：Hi-Speed USB（USB 2.0）

［モニター］

液晶モニター：
7.5 cm（3.0型）、TFT駆動
総ドット数：1 228 800ドット

［電源・その他］

電源：リチャージャブルバッテリーパックNP-BX1、3.6 V
ACアダプター AC-UD11、5 V
消費電力（撮影時）：約2.0 W
動作温度：0 ℃～ 40 ℃
保存温度：－20 ℃～ +60 ℃
外形寸法（CIPA準拠）：
113.3 mm×65.4 mm×69.6 mm（幅×高さ×奥行き）
本体質量（CIPA準拠）
（バッテリー NP-BX1、"メモリースティック デュオ"を含む）：
約482 g
マイクロホン：ステレオ
スピーカー：モノラル
Exif Print：対応
PRINT Image Matching III：対応

ACアダプター AC-UD11

定格入力：AC 100 V ～ 240 V、50 Hz/60 Hz、0.2 A
定格出力：DC 5 V、1 500 mA
動作温度：0 ℃～ 40 ℃
保存温度：－20 ℃～ +60 ℃
外形寸法：約70 mm×33 mm×36 mm（幅×高さ×奥行き）
本体質量：約50 g

リチャージャブルバッテリーパックNP-BX1

使用電池：リチウムイオン蓄電池
最大電圧：DC 4.2 V
公称電圧：DC 3.6 V
容量：4.5 Wh（1 240 mAh）

本機や付属品の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

商標について

- 以下はソニー株式会社の商標です。Cyber-shot、"サイバーショット"、"Memory Stick"、"メモリースティック"、MEMORY STICK™、"Memory Stick PRO"、"メモリースティック PRO"、MEMORY STICK PRO、"Memory Stick Duo"、"メモリースティック デュオ"、MEMORY STICK DUO、"Memory Stick PRO Duo"、"メモリースティック PRO デュオ"、MEMORY STICK PRO DUO、"Memory Stick PRO-HG Duo"、"メモリースティックPRO-HG デュオ"、MEMORY STICK PRO-HG DUO、"メモリースティック マイクロ"
- Blu-ray Disc™およびBlu-ray™はブルーレイディスクアソシエーションの商標です。
- AVCHD ProgressiveおよびAVCHD Progressiveロゴは、ソニー株式会社とパナソニック株式会社の商標です。
- Dolby、ドルビー、およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

- HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface およびHDMI ロゴは、HDMI Licensing LLC の商標もしくは米国およびその他の国における登録商標です。
- Microsoft、Windows、DirectX、Windows Vistaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Mac、Mac OS、iMovieはApple Inc.の登録商標または商標です。
- Intel、Pentium、Intel CoreはIntel Corporationの登録商標または商標です。
- SDXCロゴはSD-3C, LLCの商標です。
- MultiMediaCardは、MultiMediaCard Associationの商標です。
- 「プレイステーション 3」は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの商品です。また、、"プレイステーション"および"PlayStation"は同社の登録商標です。
- Eye-FiはEye-Fi, Incの商標です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中には™、®マークは明記していません。

- "Works with PlayStation 3"ロゴは、特定のPlayStation 3専用ソフトウェアと連携することで、さらなる楽しみを提供する製品につけるマークです。

安全のために

→ 2ページもあわせてお読みください。

下記の注意事項を守らないと、**火災**、**大けが**や**死亡**にいたる危害が発生することがあります。

分解や改造をしない

火災や感電の原因となります。内部点検や修理はソニーの相談窓口にご依頼ください。

内部に水や異物（金属類や燃えやすい物など）を入れない

火災、感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電池を取り出してください。ACアダプターやバッテリーチャージャーなどもコンセントから抜いて、ソニーの相談窓口にご相談ください。

運転中に使用しない

自動車、オートバイなどの運転をしながら、撮影、再生をしたり、モニターを見ることは絶対おやめください。交通事故の原因となります。

撮影時は周囲の状況に注意をはらう

周囲の状況を把握しないまま、撮影を行わないでください。事故やけがなどの原因となります。

指定以外の電池、ACアダプター、バッテリーチャージャーを使わない

火災やけがの原因となることがあります。

機器本体や付属品、メモリーカードは、乳幼児の手の届く場所に置かない

電池などの付属品や、メモリーカードなどを飲み込むおそれがあります。乳幼児の手の届かない場所に置き、お子様がさわらぬようご注意ください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

電池やショルダーベルト、ストラップを正しく取り付ける

正しく取り付けないと、落下によりけがの原因となることがあります。
また、ベルトやストラップに傷がないか使用前に確認してください。

電源コードを傷つけない

熱器具に近づけたり、加熱したり、加工したりすると火災や感電の原因となります。また、電源コードを抜くときは、コードに損傷を与えないように必ずプラグを持って抜いてください。

可燃性/爆発性ガスのある場所でフラッシュを使用しない

つづき

下記の注意事項を守らないと、**火災**、**大けが**や**死亡**にいたる危害が発生することがあります。

フラッシュ、AF補助光などの撮影補助光を至近距離で人に向けない

禁止

- 至近距離で使用すると視力障害を起こす可能性があります。特に乳幼児を撮影するときは、1m以上はなれてください。
- 運転者に向かって使用すると、目がくらみ、事故を起こす原因となります。

長時間、同じ持ち方で使用しない。

禁止

使用中に本機が熱いと感じなくても皮膚の同じ場所が長時間触れたままの状態でいると、赤くなったり水ぶくれができたりなど低温やけどの原因となる場合があります。

以下の場合は特にご注意いただき、三脚などをご利用ください。

- 気温の高い環境でご使用になる場合。
- 血行の悪い方、皮膚感覚の弱い方などがご使用になる場合。

下記の注意事項を守らないと、**けが**や**財産に損害**を与えることがあります。

水滴のかかる場所など湿気の多い場所やほこり、油煙、湯気の多い場所では使わない

禁止

火災や感電の原因になることがあります。

ぬれた手で使用しない

ぬれ手禁止

感電の原因になることがあります。

不安定な場所に置かない

禁止

ぐらついた台の上や傾いた所に置いたり、不安定な状態で三脚を設置すると、製品が落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

コード類は正しく配置する

指示

電源コードやパソコン接続ケーブル、A/V接続ケーブルなどは、足に引っ掛けると製品の落下や転倒などによりけがの原因となることがあるため、充分注意して接続・配置してください。

つづき

⚠注意 火災 感電

下記の注意事項を守らないと、**けが**や**財産に損害**を与えることがあります。

通電中のACアダプター、バッテリーチャージャー、充電中の電池や製品に長時間ふれない

長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

使用中は機器を布で覆ったりしない

熱がこもってケースが変形したり、火災、感電の原因となることがあります。

長期間使用しないときは、電源をはずす

長期間使用しないときは、電源プラグをコンセントからはずしたり、電池を本体からはずして保管してください。火災の原因となることがあります。

フラッシュの発光部を手でさわらない

フラッシュ発光部を指・手袋などで覆ったまま発光しない。また、発光後もしばらくは発光部に手を触れないでください。やけど、発煙、故障の原因となります。

フラッシュ発光部を正常な位置に上げない状態で使用しない

指定外のアクセサリーを装着した場合や、撮影時のスタイル等で、フラッシュ発光部が上がりきらない状態で発光させると、火災の原因となることがあります。

レンズやモニターに衝撃を与えない

レンズやモニターはガラス製のため、強い衝撃を与えると割れて、けがの原因となることがあります。

電池や付属品、メモリーカード、アクセサリーなどを取りはずすときは、手をそえる

電池やメモリーカードなどが飛び出すことがあり、けがの原因となることがあります。

⚠危険 電池についての安全上のご注意とお願い

漏液、発熱、発火、破裂、誤飲による大けがや**やけど、火災**などを避けるため、下記の注意事項をよくお読みください。

⚠危険

- 乾電池型充電式電池・バッテリーパックは指定されたバッテリーチャージャー以外で充電しない。
- 電池を分解しない、火の中へ入れない、電子レンジやオーブンで加熱しない。
- 電池を火のそばや炎天下、高温になった車の中などに放置しない。このような場所で充電しない。
- 電池をコインやヘアーピンなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。
- 電池を水・海水・牛乳・清涼飲料水・石鹸水などの液体でぬらさない。ぬれた電池を充電したり、使用したりしない。

禁止

⚠警告

- 電池をハンマーなどでたたいたり、踏みつけたり、落下させたりするなどの衝撃や力を与えない。
- バッテリーパックが変形・破損した場合は使用しない。
- アルカリ電池/ニッケルマンガン電池は充電しない。
- 外装シールをはがしたり、傷つけたりしない。外装シールの一部または、すべてをはがしてある電池や破れのある電池は絶対に使用しない。

禁止

⚠注意

- 電池は、+、−を確かめ、正しく入れる。
- 電池を使い切ったときや、長期間使用しない場合は機器から取り出しておく。

指示

お願い

リチウムイオン電池は、リサイクルできます。不要になったリチウムイオン電池は、金属部にセロハンテープなどの絶縁テープを貼ってリサイクル協力店へお持ち下さい。

Li-ion

リチウムイオン電池

充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については、
一般社団法人JBRCホームページ
http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html を参照して下さい。

索引

ア行

カ行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ヤ行

ラ行

ワ行

アルファベット順